

# AS/400 アドバンスト・シリーズ

SD88-5003-00  
(英文原典 : SC41-5121-00)

## 装置構成

### バージョン 4





# AS/400 アドバンスト・シリーズ

SD88-5003-00  
(英文原典 : SC41-5121-00)

## 装置構成

### バージョン 4

— ご注意！ —

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、xiページの『特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書は、ライセンス・プログラム OS/400（プログラム 5769-SS1）のバージョン 4、リリース 1、モディフィケーション・レベル 0、および新版において特に断りのない限り、それ以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った版であることを確かめてご使用ください。

原典： SC41-5121-00  
AS/400 Advanced Series  
Local Device Configuration  
Version 4  
発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社  
担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第 1 刷 1997.8

AS/400 は International Business Machines Corporation の商標です。

© Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.  
Translation: © Copyright IBM Japan 1997

# 目次

特記事項	xi
商標	xii
<b>AS/400 装置構成 (SD88-5003) について</b>	xiii
本書の対象読者	xv
本書で使われている規則と用語	xv
前提条件および関連情報	xvi
World Wide Web 上で入手可能な情報	xvii
<b>第1章 システムの構成</b>	1-1
自動構成の使用法 - はじめに	1-1
パーソナル・コンピューターの自動構成	1-2
自動構成で使用するシステム値	1-3
QAUTOCFG	1-3
QDEVNAMING	1-3
QPRTDEV	1-3
システム値の作業	1-4
ローカル制御装置とローカル入出力装置の動的追加	1-4
自動構成の省略時の値	1-5
自動構成の命名規則	1-5
自動構成のその他の省略時の値	1-7
自動構成の考慮事項	1-11
ASCII ワークステーションの自動構成	1-12
<b>第2章 手動による構成のための準備</b>	2-1
手動による構成の準備 - はじめに	2-1
接続図の計画	2-1
システム資源名 - 概要	2-2
システム資源名の調べ方	2-3
AS/400 システム装置のシステム資源名	2-3
ハードウェア資源処理コマンドの使用	2-5
<b>第3章 ローカル接続平衡型入出力装置の構成</b>	3-1
手動による構成 - はじめに	3-1
ローカル平衡型ワークステーション制御装置の構成	3-1
ローカル・ワークステーション制御装置のプロンプトの説明	3-3
ローカル平衡型表示装置の構成	3-5
ローカル平衡型表示装置のプロンプトの説明	3-7
ローカル平衡型印刷装置の構成	3-16
ローカル平衡型印刷装置のプロンプトの説明	3-18
ASCII ワークステーション制御装置の構成	3-26
<b>第4章 テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置の構成</b>	4-1
テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置の構成 - はじめに	4-1

	テープ制御装置を 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置用に構成する	4-1
	テープ制御装置のプロンプトの説明	4-2
	テープ装置の構成記述の作成	4-4
	テープ装置のプロンプトの説明	4-5
	ディスク装置の構成記述の作成	4-8
	ディスク装置のプロンプトの説明	4-9
	テープ・ライブラリーの構成記述の作成	4-10
	テープ・ライブラリーのプロンプトの説明	4-11
	<b>第5章 光ディスク装置 (CD-ROM) および光ディスク・ライブラリーの構成</b>	5-1
	光ディスク装置の構成 - はじめに	5-1
	AS/400 システム用の CD-ROM 光ディスク装置の構成	5-1
	光ディスク装置のプロンプトの説明	5-2
	光ディスク・ライブラリーの構成記述の作成	5-4
	光ディスク・ライブラリーのプロンプトの説明	5-5
	<b>第6章 エレクトロニック支援通信構成</b>	6-1
	エレクトロニック支援の構成 - はじめに	6-1
	エレクトロニック支援の計画	6-1
	エレクトロニック支援の構成記述	6-1
	回線記述の変更	6-2
	制御装置記述の変更	6-3
	装置記述の変更	6-4
	追加のサポート連絡情報の入力	6-5
	<b>第7章 構成の保管</b>	7-1
	構成の保管 - はじめに	7-1
	構成オブジェクトの保管	7-1
	CL ソースの保管	7-1
	システム構成全体の保管	7-2
	システム構成のコピーの印刷	7-2
	複数システムの導入	7-2
	入出力装置構成の復元	7-2
	システムと共に出荷されたライブラリー	7-3
	システムと共に出荷されたシステム機密保護機能	7-3
	システムと共に出荷されたサブシステム	7-4
	システムと共に出荷された出力待ち行列	7-4
	システムと共に出荷されたシステム値	7-5
	<b>第8章 構成の調整</b>	8-1
	既存の構成の変更	8-1
	メニューと「～処理」画面の使用法	8-1
	構成記述名の変更	8-1
	ワークステーション制御装置記述の変更	8-2
	表示装置記述の変更	8-4
	印刷装置記述の変更	8-7
	テープ制御装置記述の変更	8-10
	テープ装置記述の変更	8-12
	ディスク装置記述の変更	8-14

光ディスク装置 (CD-ROM) 記述の変更	8-16
媒体ライブラリー装置記述の変更	8-18
新しい構成記述の追加	8-20
ローカル平衡型ワークステーション制御装置の追加	8-20
ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する表示装置の追加	8-21
ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する印刷装置の追加	8-22
テープ制御装置の追加	8-24
テープ装置の追加	8-25
ディスケット装置の追加	8-26
光ディスク装置 (CD-ROM) の追加	8-27
媒体ライブラリー装置の追加	8-27
ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する表示装置の移設	8-29
ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する印刷装置の移設	8-29
<b>第9章 構成の例</b>	9-1
ローカル構成 - 例	9-1
ローカル制御装置の構成	9-4
ローカル入出力装置の構成	9-4
テープ制御装置、テープ装置、およびディスケット装置の構成	9-11
光ディスク装置の構成 (CD-ROM)	9-14
構成の保管	9-15
<b>付録A. 2 バイト文字セット入出力装置の構成</b>	A-1
ローカル表示装置と印刷装置	A-1
装置構成のプロンプト	A-1
装置タイプ (TYPE) のプロンプト	A-1
2 バイト文字セット機能 (IGCFEAT) プロンプト	A-2
DBCS 入出力装置の自動構成	A-4
DBCS 入出力装置の自動構成についての特別な考慮事項	A-5
DBCS 機能の変更	A-6
日本語 DBCS 表示装置に関する考慮事項	A-7
構成の例	A-8
日本語 DBCS ワークステーションのローカル構成例	A-8
他の DBCS ワークステーションのローカル構成の例	A-10
<b>付録B. 用紙 X1. 資源名の記録</b>	B-1
<b>付録C. AS/400 システム・プロダクトのアップグレード</b>	C-1
システム資源名	C-1
資源名が使用される理由	C-2
システム資源名が割り当てられる方法	C-2
回復計画	C-3
ハードウェアの変更のシナリオ	C-4
ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) コマンドの使用	C-4
ユーザーがすべきこと	C-5
装置構成オブジェクトの更新	C-10
関連する AS/400 システム・コマンドの説明	C-15
制御装置記述コマンド	C-15
装置記述コマンド	C-16

回線記述コマンド	C-16
ネットワーク・インターフェース記述コマンド	C-17
ネットワーク・サーバー記述コマンド	C-17
その他の関連コマンド	C-17
<b>参考文献</b>	X-1
AS/400 システム	X-1
通信の構成	X-1
システム操作	X-2
パーソナル・コンピューター	X-2
<b>索引</b>	X-3



# 一表

1-1.	自動構成の命名規則	1-5
1-2.	自動構成の装置タイプおよび型式の変換	1-9
3-1.	AS/400 制御装置タイプ	3-3
3-2.	AS/400 の報告済み制御装置のタイプ	3-3
3-3.	表示装置の装置タイプおよび型式	3-8
3-4.	平衡型 2 バイト文字セット (DBCS) 使用可能表示装置	3-9
3-5.	キーボード・タイプ	3-11
3-6.	文字識別コード	3-14
3-7.	印刷装置の装置タイプおよび装置型式	3-19
3-8.	平衡型 2 バイト文字セット (DBCS) 使用可能印刷装置	3-20
3-9.	PS/55、5295、および 3477 に接続した印刷装置	3-20
6-1.	構成記述	6-2
A-1.	表示装置の装置タイプおよび型式	A-1
A-2.	印刷装置のタイプおよび型式	A-2
A-3.	DBCS 表示装置および印刷装置記述の DBCS 機能の値	A-3
A-4.	自動構成される DBCS 印刷装置	A-5
A-5.	手動で構成し直すことが望ましい DBCS 入出力装置	A-6
B-1.	用紙 X1. 資源名の記録	B-1
C-1.	資源名と装置構成記述	C-3
C-2.	ネットワーク・サーバー記述の資源名の変更	C-10
C-3.	ネットワーク・インターフェース記述の資源名の変更	C-10
C-4.	回線資源名の変更	C-11
C-5.	制御装置資源名の変更	C-11
C-6.	装置資源名の変更	C-12
C-7.	ローカル・ワークステーション制御装置タイプの変更	C-12
C-8.	ディスク装置タイプの変更	C-14





0-1.	AS/400 画面のタイプ	xvi
9-1.	ローカル構成の例	9-2
9-2.	物理的な接続図	9-3
A-1.	日本語 DBCS ワークステーションのローカル構成例	A-8
A-2.	他の DBCS ワークステーションのローカル構成の例	A-10



## 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106 東京都港区六本木 3 丁目 2-31  
AP 事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901-7829  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書では、発表されていても、まだ使用可能でない製品に言及している場合がありますが、これは、IBM がこれらの製品を使用可能にしようとしていることを意味するものではありません。どの製品を発表するか最終的な判断は、弊社の営業のおよび技術的な判断に基づいて行われます。

本書は、計画のみを目的として用意されています。本書に記載されている情報は、説明されている製品が入手可能になる前に変更されることがあります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれていますが、これは説明に具体性を与えるために記載されたものであり、それらの例には個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然に過ぎません。

本書には、IBM が説明するための一例として提供している簡単なプログラムが含まれています。これらの例は必ずしもすべての場合について完全にテストされたものではありません。IBM はこれらのプログラムの信頼性、可用性、および機能について法律上の瑕疵担保責任を含むいかなる明示または黙示の保証責任も負いません。本文中に含まれているすべてのプログラムは「現存するままの状態」で提供されます。IBM はプログラムの商業的な使用可能性および特定の目的に対する適合性については、いかなる保証も行いません。

---

## 商標

次の用語は、米国、その他の国で IBM Corporation が所有している商標です。

Advanced Function Printing  
Advanced Peer-to-Peer Networking  
AFP  
Application System/400  
APPN  
AS/400  
Client Access  
C2  
IBM  
IBMLink  
Impactwriter  
InfoWindow  
Intelligent Printer Data Stream  
IPDS  
OfficeVision/400  
Operating System/400  
Operational Assistant  
OS/2  
OS/400  
Personal System/2  
Proprinter  
Quickwriter  
SKI  
System/36  
System/38  
ThinkPad  
400

本書において 2 個のアスタリスク (\*\*) を付けて使用されている会社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

## AS/400 装置構成 (SD88-5003) について

本書では、AS/400 システムで装置を構成する方法について説明しています。これには、下記の構成方法についての情報も含まれます。

- ローカル・ワークステーション制御装置（平衡型制御装置を含む）
- テープ制御装置
- ローカル接続入出力装置（平衡型入出力装置を含む）

本書では、構成作業に関連する概念についても説明します。

本書にある構成作業を行うにあたって、OS/400 (OS/400) ライセンス・プログラム、および注文した他のすべてのライセンス・プログラムがすでに導入されていなければなりません。

システム上で 2 バイト文字セット (DBCS) サポートを使用している場合には（中国語、日本語、または韓国語）、システム構成を実行する前に、A-1 ページの付録 A、『2 バイト文字セット入出力装置の構成』を参照してください。

システムに接続している入出力装置がこれらの資料に記述されていない場合、本書で記述されているものと類似した特性の装置として構成しなければなりません。

本書では、入出力装置構成のアプリケーション・プログラム・インターフェース (API) を使用する方法については説明していません。API について知りたい場合は、*System API Reference* を参照してください。装置を構成する場合に使用できる API は以下のとおりです。

- 構成記述の変更 (QDCCCFGD)
- 構成記述のリスト (QDCLCFGD)
- 構成状況の検索 (QDCRCFGS)
- 制御装置記述の検索 (QDCRCTLD)
- 装置記述の検索 (QDCRDEVD)
- 回線記述の検索 (QDCRLIND)

本書では、ASCII ワークステーション制御機構に接続されている装置の構成方法については説明していません。ASCII ワークステーション入出力装置の構成については、*ASCII Work Station Reference* を参照してください。

本書では、3270 および 5250 遠隔ワークステーション通信の構成方法については説明していません。3270 および 5250 遠隔ワークステーション通信の構成については、*Remote Work Station Support* を参照してください。

本書では、ASCII LAN が接続されている印刷装置の構成方法については説明していません。ASCII LAN が接続されている印刷装置の構成については、*Printer Device Programming* を参照してください。

本書では、ディスク装置または補助記憶域プールの構成方法については説明していません。これらの構成作業を行う方法については、*LAN およびフレームリレー・サポート* を参照してください。

本書では、以下の OS/400 通信サポートの構成方法については説明していません。

- 統合サービス・デジタル網 (ISDN) ネットワーク
- 分散データ・インターフェース (DDI) ネットワーク
- フレーム・リレー (FR) ネットワーク
- イーサネット・ローカル・エリア・ネットワーク
- 無線ローカル・エリア・ネットワーク (WLS)
- 同期データ・リンク制御 (SDLC) 回線
- X.25 回線
- ファクシミリ (FAX) 回線
- フレーム・リレー (FR) 回線
- 分散データ・インターフェース (DDI) 回線
- ISDN データ・リンク制御 (IDLC) 回線
- ネットワーク・サーバー (NWS)
- NetBIOS プロトコル
- Internetwork Packet Exchange\*\* (IPX\*\*) 記述
- 非同期通信
- 2 進データ同期通信 (BSC)
- 通信制御装置
- 通信装置
- 遠隔ワークステーション制御装置
- 遠隔装置（表示装置および印刷装置）
- TCP/IP 通信

上記のものを構成する方法については、通信構成を参照してください。TCP/IP 通信の構成方法については、TCP/IP 構成および解説書を参照してください。OS/400 通信サポートに関する追加資料のリストについては、X-1ページの『参考文献』のX-1ページの『通信の構成』を参照してください。

本書では、以下のパーソナル・コンピューター・サポートの構成方法については説明していません。

- 平衡型データ・リンク制御 (TDLC) 通信
- ローカル・エリア・ネットワーク通信
- 同期データ・リンク制御 (SDLC) および X.25 通信
- 非同期通信
- 遠隔 5394 通信
- ISDN データ・リンク制御通信
- TCP/IP 通信



上記のものを構成する方法については、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup* または *Client Access/400 for OS/2 User Guide*を参照してください。

注:

1. TCP/IP 通信の構成方法については、*TCP/IP 構成および解説書*を参照してください。
2. パーソナル・システム/55 (PS/55) をご使用の場合、このコンピューターに特有の情報について *Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup* または *Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup (DBCS)* を参照してください。

---

## 本書の対象読者

本書は、AS/400 システムのシステム操作員、システム管理者、または入出力装置の構成担当者を対象としています。

本書のご利用にあたっては、以下の資料をお読みになるか、または手元に用意しておいてください。

- システムの計画に関する情報は、*設備とその計画*をご覧ください。本書には、設備配置図の作成および「システム情報」用紙への記入についての指示が記載されています。
- システム/36 またはシステム/38 から移行する場合は、*System/36 Migration Planning* または *System/38 Migration Planning* を参照してください。
- 通信を構成するか、またはオペレーティング・システムに含まれている AS/400 通信サポートに関する詳細を知りたい場合は、*通信構成*を参照してください。

---

## 本書で使われている規則と用語

本書に掲載されている AS/400 の各画面は、パーソナル・コンピューター上のクライアント・アクセスの一部である *Graphical Access for AS/400* を介して表示された画面であることがあります。さらに、本書の画面例が *Graphical Access for AS/400* を使用しない状態で示されていることもあります。xviページの図0-1 には、両方のタイプの画面が示されています。

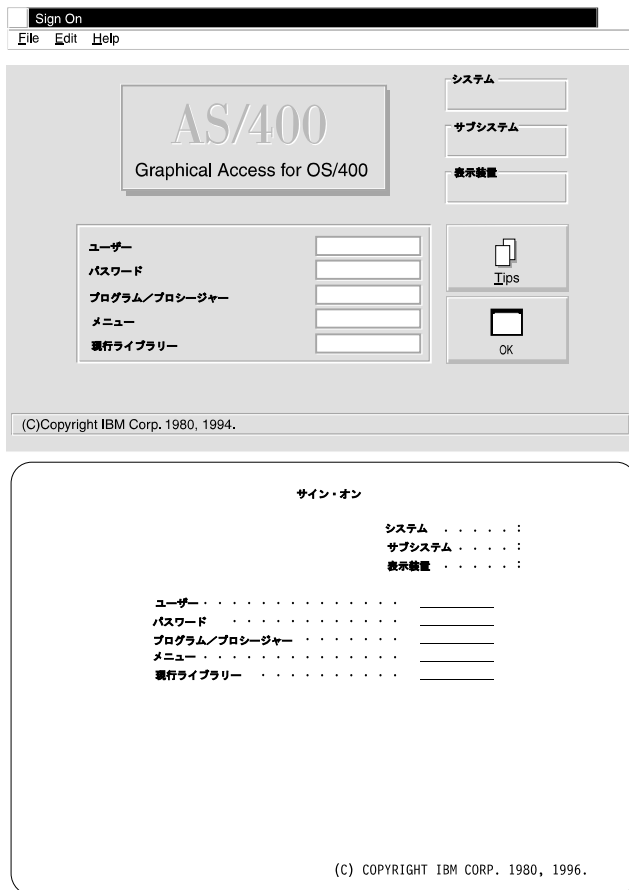


図 0-1. AS/400 画面のタイプ

## 前提条件および関連情報

アドバンスト 36 関連の資料については、AS/400 ソフトコピー・ライブラリーにある *アドバンスト 36 資料の手引き*, SC88-5352 を参照してください。

その他の AS/400 関連の資料（アドバンスト 36 を除く）については、以下のいずれかを参照してください。

- *Publications Reference*, SC41-5003。AS/400 Softcopy Library 内にあります。
- *AS/400 Information Directory*, SK2T-2226。IBM やその他の出版社から入手できる資料を独自のマルチメディア・インターフェースによりそのタイトルから検索できるデータベース。

関連資料の一覧については、X-1 ページの『参考文献』を参照してください。

---

## World Wide Web 上で入手可能な情報

AS/400 に関連した情報は、World Wide Web 上でさらに入手することができます。この情報を入手するには、以下の URL アドレスにある AS/400 のホーム・ページにアクセスします。

<http://www.as400.ibm.com>

「Information Desk」を選択すると、そのページから AS/400 に関する情報の各種トピックにアクセスできます。



## 第1章 システムの構成

この章では、読者がすでに *システム操作、管理および問題処理の手引き*、および *Getting Your AS/400 Working for You* に記載されている作業を一通り読み終えていることを前提に説明を進めます。ローカルの構成作業に自動構成を使用している場合は、この章から詳しい情報を参照してください。

ローカルの構成に自動構成を使用していない場合は、2-1ページの第2章、『*手動による構成のための準備*』に進んで、手動による構成の準備方法についての説明を参照してください。

ローカルの構成作業に自動構成を使用するにあたって、以下のいずれかを構成する場合があります。

- ASCII（情報交換用米国標準コード）ワークステーション制御装置
- ASCII ワークステーション制御装置に接続されている装置

上記の場合には、この章をさらに読み進んでください。その後、2-1ページの第2章、『*手動による構成のための準備*』に進んで、手動による構成の準備方法についての説明を参照してください。

---

### 自動構成の使用法 — はじめに

自動構成によって、ローカル制御装置、テープ制御装置、およびローカル平衡型入出力装置を、システムに自動的に構成させることができます。ローカル制御装置には、次に示すものが含まれます。

- 2661、266C、2720、2721、2722、6040、6050、6140、6180、915A、および 916A 平衡型制御装置
- 6041、6141、および 2637 ASCII 制御装置
- 9173 LocalTalk\*\* ワークステーション制御装置
- AS/400 多機能入出力プロセッサ (MFIO) の 6054 LocalTalk ワークステーション・アダプター
- 6A58 および 6A59 クライアント・アクセス・コンソール・ワークステーション制御装置

テープ制御機構には、3422、3430、3480、および 3490 テープ制御機構が含まれます。

ローカル入出力装置には、次に示すものが含まれます。

- テープ、ディスケット、および光ディスク装置
- 媒体ライブラリー装置
- ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続した平衡型の印刷装置および表示装置

システムは、自動的に省略時の値を割り当てて、それぞれのローカル制御装置およびローカル平衡型入出力装置の構成記述を作成します。

「主要システム・オプションの設定」画面のオプションによって、自動構成を選択することができます。

### 主要システム・オプションの設定

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

自動構成可能 . . . . .	Y	Y=Yes, N=No
装置構成の 命名法 . . . . .	*NORMAL	*NORMAL, *S36, *DEVADR
省略時の特殊環境 . . . . .	*NONE	*NONE, *S36

**注:** 「主要システム・オプションの設定」画面が使用できるのは、在席 IPL の時だけです。

「自動構成可能」プロンプトの省略時は Y (YES) です。このオプションを使用することで、自動構成をオンに設定するかどうかを制御するシステム値 **QAUTOCFG** を変更できます。システムのセットアップの時点でこのオプションを N (NO) に変更した場合を除き、すべてのローカル制御装置およびローカル入出力装置は自動構成されています。

また、システムはすべてのローカル入出力装置に対し、自動的に名前を割り当てます。「主要システム・オプションの設定」画面の「装置構成の命名法」オプションで選択した内容により、システムは通常の命名規則、システム/36 形式の命名規則、あるいは装置アドレスにもとづく命名規則のいずれかを使用します。「装置構成の命名法」オプションにより、自動構成による入出力装置の名前を制御するシステム値 **QDEVNAMING** を変更できます。システム値については、この章の後半で説明します。

システムの最初のセットアップの時点で、「自動構成可能」プロンプトを N (NO) に変更した場合は、ローカル制御装置とローカル入出力装置を手動で構成しなければなりません。

**注:** これには、コンソールで使用される制御装置と装置が含まれます。制御装置記述および装置記述は別個に作成され、在席 IPL 中にシステムによって使用されます。

手動による構成の仕方については 第3章、『ローカル接続平衡型入出力装置の構成』で説明されています。また、ASCII ワークステーション制御装置に接続されている装置の構成方法については *ASCII Work Station Reference* で説明されています。

## パーソナル・コンピュータの自動構成

システムに接続されたワークステーション機能を利用している PC 装置（表示装置および印刷装置）がある場合には、必要とする構成記述の一部が自動的に作成されるか、構成記述の一部を手動で作成しなければならないかのいずれかです。**ワークステーション機能**は、DOS ユーザー用の AS/400 クライアント・アクセス ライセンス・プログラムの一部です。これは、AS/400 システムに接続されているパーソナル・コンピュータで表示装置を 5 台までエミュレートすることを可能にします。ワークステーション機能を利用すれば、PC 印刷装置にシステム印刷装置をエミュレートさせることもできます。ご使用のシステムのパーソナル・コンピュータがこの機能を使用できるように構成する方法の指示については、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup* または *Client Access/400 for OS/2 Setup* を参照してください。

**注:** パーソナル・システム/55 (PS/55) をご使用の場合、このコンピュータに特有の情報については、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup (DBCS)* または *Client Access/400 for OS/2 Setup (DBCS)* を参照してください。

---

## 自動構成で使用するシステム値

システム値には、システムにおける全体的な操作を制御または変更するための仕様が含まれています。システム値を変更して、ワークステーション環境を定義することができます。自動構成では、構成記述の作成時にいくつかのシステム値が利用されます。

### QAUTOCFG

システム値 QAUTOCFG は、システムに追加された新しいローカル制御装置または入出力装置をシステムが自動的に構成するかどうかを制御します。「主要システム・オプションの設定」画面の「自動構成可能」オプションに N (NO) を指定したり、あるいは CHGSYSVAL コマンドを使用してシステム値を変更した場合以外は、QAUTOCFG(1)、すなわち「自動構成する」に設定されます。

このシステム値を QAUTOCFG(0)、すなわち「自動構成をしない」に変更すると、システムに追加した新しいローカル制御装置またはローカル入出力装置を手動で構成することが必要となります。しかし、このシステム値はいつでも QAUTOCFG(1) に戻すことができます。

### QDEVNAMING

別のシステム値 QDEVNAMING は、自動構成によりシステム上で使用される命名規則を制御します。これらの名前は、システムに追加されるローカル制御装置や入出力装置の装置記述の作成時に使用されます。システムのパッケージに応じて、このシステム値の設定の仕方は異なってきます。全システム・パッケージ (TSP) のシステムを注文した場合は、QDEVNAMING(\*S36) に設定されます。それ以外の場合は、「主要システム・オプションの設定」画面で変更したり、システム値を変更したのではない限り、これは QDEVNAMING(\*NORMAL) に設定されます。(3種類の命名規則については、本書の 1-5 ページの『自動構成の命名規則』の項で説明します。)

システム値 QDEVNAMING を変更することにした場合、このシステム値の変更後に自動構成した新規の装置はすべて新しい命名規則を使用することになります。(この値は CHGSYSVAL コマンドを使って変更できます。)しかし、当初の命名規則で構成されたすべての入出力装置は、自動構成によっては変更されません。以前の命名規則が使われているすべての記述の名前を変更したい場合には、それぞれの記述を削除した後に、新しい記述を手動で作成するか、あるいは自動構成に新しい記述を作成させます。自動構成になっていると、システムの次の IPL 時や次に入出力装置の電源を入れた時に、新しい装置記述が作成されます。

### QPRTDEV

自動構成で 사용되는 3 番目のシステム値は QPRTDEV と呼ばれるものです。このシステム値には、省略時の印刷装置記述名が入っています。全システム・パッケージ (TSP) のシステムを注文した場合は、この装置名は QPRTDEV(P1) に設定されます。これは、省略時のシステム印刷装置が、P1 という名前の印刷装置であることを意味します。TSP\* ではない場合は、名前が PRT01 の印刷装置を省略時のシステム印刷装置にすることを示す、QPRTDEV (PRT01) に設定されます。

省略時の印刷装置がシステムまたはユーザーに割り当てられ、他に印刷装置が指定されていない場合には、それがシステムまたはユーザーからの印刷出力を受け入れます。

ローカル入出力装置の初期構成において自動構成を使用すると、構成の対象となる最初の印刷装置には PRT01 (TSP システムの場合には P1) という名前が割り当てられます。この印

刷装置が省略時のシステム印刷装置となります。省略時のシステム印刷装置を変更したい場合は、QPRTDEV の名前を手動で変更する必要があります。

省略時のシステム印刷装置を PRT01 という名前の印刷装置にたくない場合は、システム値 QPRTDEV を別の印刷装置の名前に変更します。この値は CHGSYSVAL コマンドを使って変更してください。たとえば、省略時のシステム印刷装置を PRT06 という名前の印刷装置にしたい場合には、システム値をそのように変更することが可能です。

どの印刷装置にも PRT01 という名前を付けたくない場合は、以下のようになしてください。

- システム値 QPRTDEV を別の印刷装置の名前に変更する。
- その後、PRT01 という名前の印刷装置用の装置記述内にある名前を変更する。

装置記述内にある名前を変更する方法は以下のとおりです。

- 該当する装置記述を削除した後、新しい装置記述を手動で作成する。
- 自動構成により新しい装置記述を作成させる。

自動構成になっていると、システムの次の IPL 時や次に入出力装置に電源を入れた時に、新しい装置記述を作成します。その装置記述は、8-1ページの第8章、『構成の調整』で説明されている方法で名前を変更することも可能です。

---

## システム値の作業

システム上でこれらのシステム値のいずれかに設定されている現行値を表示させるには、システム値の表示 (DSPSYSVAL) コマンドを使用します。**DSPSYSVAL (システム値の表示)** と入力してから実行キーを押してください。システム値の名前を入力するよう求められるので、QAUTOCFG、QDEVNAMING、または QPRTDEV と入力してから実行キーを押してください。現在設定されているシステム値が表示されます。このシステム値を変更するには、次のようになります。

- AS/400 メイン・メニューから、オプション 7 (システムの定義または変更) を選択する。「システムの定義または変更」画面が表示されます。
- 「システムの定義または変更」画面でオプション 9 (システム値の変更) を選択する。「システム値の変更」画面が表示されます。

「システム値の変更」画面で、変更したいシステム値の名前を入力した後、新しい値をアポストロフィーで囲んで入力してください。

---

## ローカル制御装置とローカル入出力装置の動的追加

システム値 QAUTOCFG を変更していない場合、あるいは自動構成が YES である場合、システムは、接続されているすべてのローカル制御装置およびローカル入出力装置に対して自動構成を続行します。これには、すべての新しいローカル・ワークステーション制御装置およびテープ装置、そしてすべての新しい平衡型表示装置、平衡型印刷装置、テープ装置、ディスク装置、光ディスク装置、および媒体ライブラリー装置が含まれます。

- 構成記述を削除すると、自動構成の場合は、次に同一タイプの構成記述を作成する際にその記述名が再度使用されます。たとえば、記述名が DSP01、DSP02、および DSP03 という 3 つの表示装置があり、記述 DSP02 を削除した場合には、次に自動構成が表示装置記述を作成する際にその DSP02 という名前が表示装置に割り当てられます。



- 新しいローカル・ワークステーション制御装置、テープ制御装置、光ディスク装置または媒体ライブラリー装置を追加する際には、制御装置を物理的に接続するためにシステムの電源を切る必要があります。自動構成では、次にシステムで IPL を実行する際に新しい制御装置の構成記述が作成されます。
- 新しい外部入出力装置（光ディスク装置など）を追加する場合には、システムの電源を切る必要はなく、自動構成が行われるようにするために IPL を実行することも必要ではありません。システムに電源が入っていれば、入出力装置を接続して電源を入れるとすぐに自動構成が行われます。

## 自動構成の省略時の値

制御装置または入出力装置を構成する際に、自動構成では記述に対して省略時の値を選択します。これは、制御装置と入出力装置が総称的な（これは、グループまたはクラス全体と関連のあるもの、その特徴となっていることを指す）方法で定義されることを意味します。ローカル制御装置や入出力装置のために作成された装置記述を正確に知りたい場合には、「～処理」構成画面の表示オプションを使ってください。これにより構成記述をすべて確認した上で、変更が必要かどうかを考慮することができます。

## 自動構成の命名規則

自動構成では、ローカル制御装置と入出力装置の命名のために、以下に示す 3 つの方法のうちのいずれかが使用されます。表 1-1 には、通常の命名規則 (\*NORMAL)、システム/36 形式の命名規則 (\*S36)、および装置アドレスにもとづく命名規則 (\*DEVADR) が示されています。

表 1-1. 自動構成の命名規則

入出力装置	*NORMAL	*S36	*DEVADR
ワークステーション制御装置	CTL01, CTL02, ...	CTL01, CTL02, ...	CTL01, CTL02, ...
テープ制御装置 (9406, 9404 および 9402 システム装置)	TAPCTL01, TAPCTL02, ...	TAPCTL01, TAPCTL02, ...	TAPCTL01, TAPCTL02, ...
媒体ライブラリー装置	注 5 を参照。	注 5 を参照。	注 5 を参照。
表示装置	DSP01, DSP02, ...	W1, W2, ...	DSP010101, DSP010102, ...
印刷装置	PRT01, PRT02, ...	P1, P2, ...	PRT010101, PRT010102, ...
テープ装置	TAP01, TAP02, ...	T1, T2, TC	TAP01, TAP02, ...
ディスク装置	DKT01, DKT02, ...	I1	DKT01, DKT02, ...
光ディスク装置	OPT01, OPT02, ...	OPT01, OPT02, ...	OPT01, OPT02, ...

### 注:

1. 在席 IPL 時に、システムのコンソールにはその装置記述の名前 QCONSOLE が割り当てられます。（在席 IPL は、キーロック・スイッチを MANUAL の位置にすると実行されます。）コンソールの制御装置は、在席 IPL 時にその制御装置記述の名前 QCTL を使用します。これらの名前はシステム用に予約されています。これらの記述は、構成の実行に使用するコンソール用に作成されます。IPL 後に使用されるコンソールの名前とその制御装置については制約はありません。コンソールの表示装置またはその他の表示装置と、制御装置の両方のために別々の装置記述を作成しなければなりません。自動構成が使用可能でない場合には、これらの記述を手動で作成する必要があります。自動構成が使用可能になっていると、これらの装置記述は次の表に示されている命名規則で作成されます。

2. システム/36 形式の命名規則を使用している表示装置の場合、システムは名前 W1 ~ W0 および WA ~ WZ をまず割り当てます。これを全部使ってしまうと、X1 ~ X0 および XA ~ XZ、次は Y1 ~ Y0 および YA ~ YZ というようになります。
3. 装置アドレスにもとづく命名規則 (\*DEVADR) が通常の命名規則と異なるのは、表示装置と印刷装置の場合だけです。使用される名前は、入出力装置が接続されている制御装置、接続ポート、およびその装置アドレス (スイッチ設定) を反映したものです。たとえば、DSP010203 は、資源名 CTL01 の制御装置に接続されていて、ポートが 02、装置アドレス (スイッチ設定) が 03 の表示装置です。

**注意:** 資源名が 4 文字以下に変更され、QDEVNAMING も \*DEVADR に設定されている場合、自動構成でその制御装置の装置記述を作成することはできません。
4. システム値 QDEVNAMING が \*DEVADR に設定され、4 桁目と 5 桁目に同じ文字を持つ制御装置資源名が複数ある場合、自動構成の省略時の値は \*NORMAL になります。
5. 媒体ライブラリー装置の場合、自動構成はまず最初に、資源名用に作成したのと同じ名前を使って記述を作成しようとします。この名前が使用できない場合には、自動構成は MLB01、MLB02、... のように名前を生成していきます。

システムの最初のセットアップ時に、「主要システム・オプションの設定」画面において、使用する命名方法を選択することができます。省略時の値は \*NORMAL です。つまり、このオプションを変更しなかった場合には、システムが割り当てた名前は通常の規則による名前となっています。たとえば、表示装置は DSP01、DSP02、DSP03 というように命名されます。

**注:** TSP システムを注文した場合、命名規則の省略時の値は \*S36 です。

自動構成では、入出力装置の物理的位置に基づいてその名前を割り当てることはありません。システムは、どの入出力装置が最も物理的に近いかを検知することができません。システムは、システムへの接続時に電源が入った順に入出力装置を検知し、命名していきます。

たとえば、システムに接続して電源をオンにした最初の表示装置には DSP01 という名前が割り当てられます。(通常の規則が使われていると想定した場合)。その次にシステムに接続して電源を入れた表示装置には、DSP02 という名前が割り当てられます。これは、該当する装置が物理的に DSP01 よりシステムに近い場合でも当てはまります。

構成記述を削除すると、自動構成の場合は、次に同一タイプの構成記述を作成する際にその記述名が再度使用されます。たとえば、記述名が DSP01、DSP02、および DSP03 という 3 つの表示装置があり、記述 DSP02 を削除した場合には、次に自動構成が表示装置記述を作成する際にその DSP02 という名前が表示装置に割り当てられます。

**注:** システム/36 形式の命名規則を選択する場合には、下記の事項を知っていなければなりません。

- システム/36 形式の名前では、ディスク装置は 1 つしか名前を付けることができません。最初のディスク装置は I1 として構成されますが、複数のディスク装置がある場合、残りのディスク装置には DKT01、DKT02、DKT03 のように名前が割り当てられます。
- また、システム/36 形式の命名規則では、3 つのテープ装置が T1、T2、および TC (カートリッジ) と命名されます。さらに別のテープ装置があると、残りのテープ装置には TAP01、TAP02、TAP03 といった名前が割り当てられていきます。

システムにサインオンした後であれば、構成状況の処理 (WRKCFGSTS) または装置記述の処理 (WRKDEVD) コマンドのいずれかを使用して、装置の名前や位置を確認することができます。

## 自動構成のその他の省略時の値

ローカル制御装置およびローカル入出力装置への名前の割当てに加えて、自動構成では、構成記述の作成に必要なその他の必須および任意の情報に値が割り当てられます。

必須情報については、システムは正しい値を自動的に割り当てます。たとえば、システムは、入出力装置の装置アドレスとその入出力装置が接続されるポートを判別することができます。

任意情報については、システムが省略時の値を割り当てます。別の値を指定したい場合は、これを変更しなければなりません。

以下に示したトピックには、自動構成される項目の構成記述を作成するために使われる省略時の値が列挙されています。個々のシステムの要件に応じて省略時値を変更し、制御装置と入出力装置の調整を行うことができます。

### ワークステーション制御装置の省略時の値

- **制御装置記述**：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- **制御装置のタイプ**：システムによる自動割当て
- **制御装置の型式**：システムによる自動割当て
- **資源名**：システムによる自動割当て
- **自動構成制御装置**：\*YES
- **IPL 時オンライン**：\*YES
- **テキスト記述**：自動構成により作成

### テープ制御装置の省略時の値

- **制御装置記述**：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- **制御装置のタイプ**：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- **制御装置の型式**：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- **資源名**：システムによる自動割当て
- **自動構成制御装置**：\*YES
- **IPL 時オンライン**：\*YES
- **テキスト記述**：自動構成により作成

### 媒体ライブラリー装置の省略時の値

- **装置記述**：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- **装置タイプ**：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- **資源名**：システムによる自動割当て
- **IPL 時オンライン**：\*YES
- **テキスト記述**：自動構成により作成

### テープ装置の省略時の値

- 装置記述：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- 装置のタイプ：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- 装置の型式：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- 資源名：システムによる自動割当て
- 制御装置名：システムによる自動割当て
- IPL 時オンライン：\*YES
- テキスト記述：自動構成により作成

### ディスク装置の省略時の値

- 装置記述：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- 装置のタイプ：システムによる自動割当て
- 装置の型式：システムによる自動割当て
- 資源名：システムによる自動割当て
- IPL 時オンライン：\*YES
- テキスト記述：自動構成により作成

### 光ディスク装置の省略時の値

- 装置記述：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- 装置タイプ：資源名にもとづいた、システムによる自動割当て
- 資源名：システムによる自動割当て
- IPL 時オンライン：\*YES
- テキスト記述：自動構成により作成

### ローカル平衡型印刷装置の省略時の値

- 装置記述：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- 装置のタイプ：システムによる自動割当て
- 装置の型式：システムによる自動割当て
- IPL 時オンライン：\*YES
- 制御装置、ポート、およびスイッチの設定：システムによる自動割当て
- メッセージ待ち行列：省略時のメッセージ待ち行列
- DBCS 機能：DBCS の入出力装置にのみ適用可能。A-4ページの『DBCS 入出力装置の自動構成』を参照。
- ホスト印刷変換機能：\*NO。この機能を使用可能にするには、装置記述の変更（印刷装置 (CHGDEVPR) コマンド) を使用します。このパラメーターを構成する方法については、3-1ページの第3章、『ローカル接続平衡型入出力装置の構成』を参照。
- テキスト記述：自動構成により作成

## ローカル平衡型表示装置の省略時の値

- 装置記述：該当する命名規則を使用しているシステムによる割当て
- 装置のタイプ：システムによる自動割当て
- 装置の型式：システムによる自動割当て
- IPL 時オンライン：\*YES
- 制御装置、ポート、およびスイッチの設定：システムによる自動割当て
- キーボード・タイプ：IPL 時に選択した言語の国別コード
- メッセージ待ち行列：省略時のメッセージ待ち行列
- DBCS 機能：DBCS の入出力装置にのみ適用可能。A-4ページの『DBCS 入出力装置の自動構成』を参照。
- テキスト記述：自動構成により作成

表示装置と印刷装置の、装置のタイプおよび型式によってはシステムが認識しないため、自動構成の際に違った装置のタイプまたは型式として構成されてしまうものがあります。表1-2には、別の装置として構成される装置のリストが示されています。

表 1-2 (1/2). 自動構成の装置タイプおよび型式の変換

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
3179 (G キーボードなし)	2	5292	
3197	C2	3197	C1
3197	D4	3197	D1
3476	EG	3476	EA
3477	FG	3477	FA
3486	BG	3486	BA
3488 (モノクロ・モニター使用)	H1	3486	BA
3488 (モノクロ・モニター使用)	V	3486	BA
3488 (カラー・モニター使用)	H1	3487	HC
3488 (カラー・モニター使用)	V	3487	HC
3489 (モノクロ・モニター使用)	V	3486	BA
3489 (カラー・モニター使用)	V	3487	HC
5219	D2	5219	D1
5291		5291	2
3476 (6143 カード)	なし	3476	EA (モノクローム・モニター使用) EC (カラー・モニター使用)
3476 (6145 カード)	なし	3476	EA (モノクローム・モニター使用) EC (カラー・モニター使用)
3812 (非 IPDS)	1、2	5219	D1
3812 (IPDS (高機能印刷装置データ・ストリーム))	2	*IPDS	0
3816 (非 IPDS)	1S、1D	5219	D1

表 1-2 (2/2). 自動構成の装置タイプおよび型式の変換

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
3816 (IPDS)	1S、1D	*IPDS	0
3912 (非 IPDS)	AS0	3812	D1
3912 (IPDS)	AS0	*IPDS	0
3916 (IPDS)	AS1	*IPDS	0
3930 (非 IPDS)	02D、02S	5219	D1
3930 (IPDS)	02D、02S	*IPDS	0
3935 (IPDS)	001	*IPDS	0
4028	AS1	*IPDS	0
4210		4214	2
4224	平衡型のすべての型式	*IPDS	0
4230 (非 IPDS)	101、152	4214	2
4230 (IPDS)	102、111	*IPDS	0
4234	12	*IPDS	0
4247 (非 IPDS)	001	4214	2
4247 (IPDS)	001	*IPDS	0
5150	1、2	5150	1、2
4245	T20	4245	T12
5262		5256	
6262	T12、T14、T22	4245	T12

注:

1. QPRTDEV システム値には、省略時のシステム印刷装置の名前が入れられます。印刷装置の作成に自動構成を使用する場合、システムは QPRTDEV システム値を調べます。QPRTDEV に値が与えられているにもかかわらず、システムには印刷装置記述が存在していない場合、自動構成によりその印刷装置記述が作成されます。その時点で使用されている入出力装置命名規則に関係なく、その印刷装置はシステム印刷装置として定義されます。

2. システムで複数の言語を使用している場合、自動構成で使用されるキーボード・タイプが、IPL の実行時に選択した言語の主キーボード・タイプとなります。別の言語を使用する表示装置の場合は、キーボード・タイプを変更する必要があります。ただし、以下の場合を除きます。

- 3196、3197、および 3180 表示装置の場合、下記の言語または国について、システムは該当するキーボード・タイプを判別することができます。

- アラビア
- ベルギー
- イタリア
- スペイン
- スペイン語圏
- スウェーデン/フィンランド
- スイス/フランス語
- スイス/ドイツ語
- タイ

– 英国

– 米国

- 3476、3477、3486、3487、3488、および 3489 表示装置の場合、すべての言語および国について、システムは該当するキーボード・タイプを判別できます。

## 自動構成の考慮事項

- 自動構成が有効な時点で電源がオンになっていたローカル装置の構成記述を削除すると、自動構成は以下のいずれかを実行します。

– 次回の IPL の実行時に、それらの装置の構成記述を新しく作成する。

– それらの装置の次回の電源投入時に、新しい構成記述を作成する。

自動構成が古い構成記述の削除を実行した場合、自動構成は削除した記述名を再び使用します。

- 自動構成では、各物理制御装置ごとに 1 つの制御装置記述のみを構成します。1 つの物理制御装置に対して複数の制御装置記述を作成したい場合は、手動で記述を作成しなければなりません。それらの記述の 1 つに対してのみ、AUTOCFG パラメーターに \*YES を指定することができます。特定の資源名に関しては、制御装置記述がない場合、または AUTOCFG パラメーターの制御装置記述に \*NO を指定した場合に装置記述が作成されます。AUTOCFG パラメーターで、ある制御装置記述に \*YES を指定すると、特定の資源名について制御装置記述が作成されなくなります。

**注:** 自動構成によって、手動で構成した制御装置を入出力装置に接続したい場合は、AUTOCFG パラメーターに \*YES を指定します。

- すでに構成された装置をある場所から別の場所に移動させると、以下のことが生じます。

– 該当する装置の最初の記述は、それが削除されるまで引き続き存在します。

– 別の装置がその場所に置かれます。

その場所に他の装置が設置されると、自動構成は既存の記述を削除し、その場所の新しい装置用に新しい記述を作成します。

- 自動構成された表示装置に電源を入れたにもかかわらず、「サインオン」画面が表示されない場合、その装置のタイプがサブシステム記述から除外されていることが問題である可能性があります。サインオン画面が表示されない場合は、その表示装置に対応するサブシステム記述にその表示装置の装置タイプの項目が含まれていることを確認してください（これにはサブシステム記述処理 (WRKSBSD) コマンドを使用します）。

– サブシステム記述中の装置タイプ項目は、表示装置をサブシステムに割り当てるために使用されます。QBASE および QINTER という名前の 2 つのサブシステムは、システムと共に出荷されており、システムがサポートするすべての装置タイプの項目を最初から含んでいます。

– サブシステムは、サブシステム記述で定義されている操作環境であり、この環境でシステムは処理と資源を調整します。

– サブシステム記述はシステム・オブジェクトの 1 つで、システムによって制御される操作環境の特性を定義した情報を含んでいます。

- 同じスイッチ設定の平衡型入出力装置が 2 つある場合、自動構成はエラー・メッセージの送信を開始します。その入出力装置のいずれも認められません。

- 自動構成を使用し、なおかつ記述を調整したい場合には、まず自動構成が実行されるようにしてから記述の調整を行うようにしてください。

---

## ASCII ワークステーションの自動構成

自動構成を使用していて、ASCII ワークステーションが接続されている ASCII ワークステーション制御装置がある場合には、*ASCII Work Station Reference* を参照してください。



---

## 第2章 手動による構成のための準備

ローカル構成に自動構成を使用している場合は 6-1ページの第6章、『エレクトロニック支援通信構成』に進み、AS/400 エレクトロニック支援通信の構成方法について参照してください。すでにエレクトロニック支援通信を構成している場合は、構成は終了となります。

手動の構成作業を行う場合は、この章で構成の準備方法についての指示を参照してください。

構成を変更しなければならない場合は、7-1ページの第7章、『構成の保管』、および 8-1ページの第8章、『構成の調整』にある情報を参考にしてください。

**注:** ASCII (情報交換用米国標準コード) ワークステーション制御装置に接続されている ASCII ワークステーション制御装置または入出力装置を構成しなくてはならない場合、その詳細について *ASCII Work Station Reference* を参照してください。

---

### 手動による構成の準備 — はじめに

1-1ページの第1章、『システムの構成』を読むことにより、構成作業の準備はできました。このほかに 9-1ページの第9章、『構成の例』には詳しい例が収録されています。これも構成の実行方法についての参考になります。

**注:** AS/400 システム・プロダクトをアップグレードまたは変更している場合、詳細については C-1ページの付録C、『AS/400 システム・プロダクトのアップグレード』を参照してください。

構成作業を始める前に、以下の事項を考慮してください。

---

### 接続図の計画

この項の目的は、手動による装置構成について知っていただき、計画できるようにすることです。この章での作業を開始するのに先立って、設備配置図と「システム情報」用紙の記入が完了していることを確認してください。この用紙、およびその記入についての指示は、*設備とその計画*にあります。

この項にあるいくつかの作業を完了するには、「システム情報」用紙を使用することが必要になります。追加の情報は、この用紙に記入していきます。

- 「システム情報」用紙には、各表示装置または印刷装置を接続する予定になっている、ローカル制御装置のポート番号を書き加えてください。
- 構成するテープ制御装置およびテープ装置ごとに、「システム情報」用紙の1つの行を記入してください。

**注:** テープ制御装置を必要とするのは 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置だけです。それらのテープ装置は、9402、9404、および 9406 システム装置で使用可能です。

- 9402、9404、または 9406 システム装置で構成しているディスク装置ごとに、「システム情報」用紙の1つの行を記入していく必要があります。

- 構成する光ディスク装置および媒体ライブラリー装置ごとに、「システム情報」用紙の 1 つの行を記入してください。

「システム情報」用紙は、システムの物理的な配置を担当している人から受け取ることができます。これは後ほど、構成作業の最終段階の第 3、4、5 章で使用します。

---

## システム資源名 - 概要

システム資源名は、システムに接続されるハードウェアに対し、システムが割り当てる名前です。それらの名前は、システムによって自動的に割り当てられます。システムはシステム資源名を使用することにより、そのシステムに記憶されている物理ハードウェア情報を参照します。システムで自動構成を使用する場合は、資源名を記録する必要はありません。

**注:** システム資源名は、SST ハードウェア・リソース・マネージャーを使用して変更できません。

システムに接続されるハードウェアの一部には、資源名が与えられます。これには、以下のものが含まれます。

- 通信回線
- ローカル平衡型ワークステーション制御装置
- ローカル ASCII ワークステーション制御装置
- テープ制御装置
- 光ディスク装置
- テープ装置
- ディスケット装置
- テープ・ライブラリー
- 光ディスク・ライブラリー

システムにおいてこのハードウェアを構成する際には、システムがハードウェアのそれぞれに割り当てた資源名を知る必要があります。

**注:** 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置の場合には、構成記述に資源名を含める必要はありません。しかし、3422、3430、3480、および 3490 テープ制御装置には、構成記述に資源名が必要です。

B-1 ページの表 B-1 ページに載せられている用紙 X1 を使用して、システムの資源名を記録します。この用紙を必要な枚数だけコピーし、以下の作業で得た情報をこれに記入してください。この用紙は後に構成作業を行う時に参照しますので、ファイルしておいてください。

すべてのローカル制御装置ごとに、これらの各項目に割り当てようと考えている名前が必要となります。システム上で構成しているローカル制御装置、テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置の中には、平衡型ワークステーション制御装置と ASCII ワークステーション制御装置の両方が含まれます。たとえば、ローカル平衡型ワークステーション制御装置とローカル ASCII ワークステーション制御装置がある場合には、これを TWINAXCTL および ASCIICTL と呼ぶことができます。

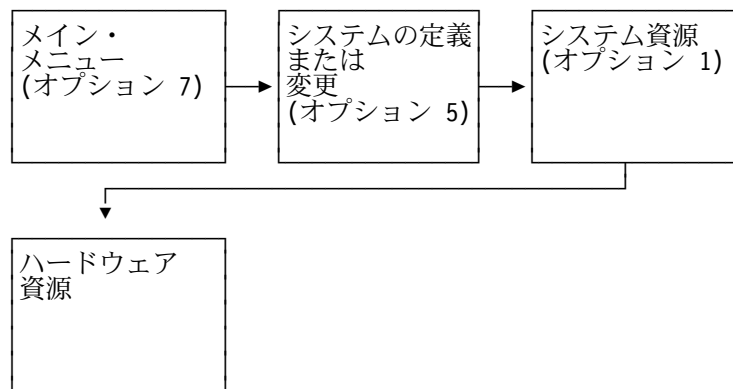
ワークステーション制御装置、テープ制御装置、テープ装置、光ディスク装置、およびディスク装置のそれぞれに割り当てた名前を、「*制御装置名*」および「*装置名*」の欄に記録してください。

## システム資源名の調べ方

使用するシステムのオブジェクトに関する資源名を調べるためには、「ハードウェア資源処理」画面を使用することができます。

「ハードウェア資源処理」画面を表示させるためには、以下の手順に従ってください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 5（システム資源）を選択する。「システム資源」画面が表示されます。
3. 「システム資源」画面から、オプション 1（ハードウェア資源）を選択する。「ハードウェア資源」メニュー画面が表示されます。このメニューから、制御装置、テープ装置、およびディスク装置の資源名を調べることができます。



注: ハードウェア資源処理にアクセスするには、

**WRKHDWRSC**

と入力してから F4（プロンプト）を押す方法もあります。こうすると、タイプ（たとえば、ローカル・ワークステーション資源の場合には \*LWS）を指定するように指示するプロンプトが出されます。

---

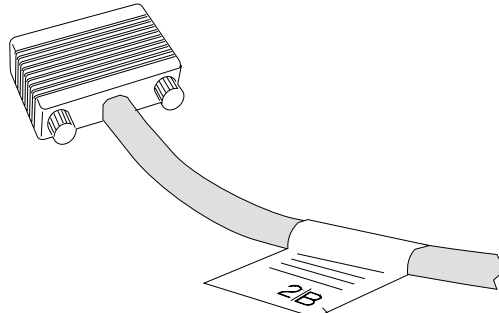
## AS/400 システム装置のシステム資源名

システム資源名を取得する前に、以下の情報を用紙 X1 に記録する必要があります。

ローカル・ワークステーション制御装置（平衡型と ASCII の両方）構成する各ローカル制御装置ごとに、ローカル制御装置が入っているカードのカード・スロット番号を調べる必要があります。

注: 9402 と 9404 モデル 4xx には、2637 または 2661 型の制御装置が内蔵されています。この制御装置はカード・スロット 5 に入れられています。システム装置と拡張装置には、さらに別のワークステーション制御装置を追加することも可能です。これらの制御装置の場合のカード・スロット番号を判別するには、次の手順に従ってください。

構成する必要があるローカル制御装置のケーブルのラベルには、1 文字または 2 文字からなる番号が記されています。



カード・スロット RSLH555-1

ケーブルのラベルにあるカード・スロット番号を調べて、それを用紙 X1 の制御装置についての「設置場所／カード・スロット」の欄に記入してください。

**注:** この番号を、システムによって認識される番号、そしてこの作業で後ほど記録することになる番号と照合してください。

#### テープ制御装置、テープ装置、ディスケット装置、および光ディスク装置

##### 内部装置

モデル 15x および 4xx のシステム装置の場合、最初から接続されている光ディスク装置とテープ装置はそれぞれ 1 つしかありません。4xx 拡張装置がある場合には、さらに 3 つのテープ装置を接続できます。用紙 X1 の「製造番号」の欄はブランクにしておいて構いません。テープ装置の装置名を用紙に記録してください。

##### 外部装置

外部のテープ装置、ディスケット装置、および光ディスク装置は、任意の IOP カード・スロットに装着した IOP カードによって接続することが可能です。

構成しているテープ制御装置、ディスケット装置、および光ディスク装置のそれぞれについて、その装置の製造番号を知る必要があります。製造番号を知るには、装置の前部を調べてください。そしてその番号を、用紙 X1 にあるテープ制御装置、あるいはテープ装置、ディスケット装置、および光ディスク装置の製造番号の欄に記録しておきます。

**注:** 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置の場合には、構成記述に資源名を含める必要はありません。したがって、これらのテープ装置に関する情報を用紙 X1 に記入する必要はありません。しかし、3422、3430、3480、および 3490 テープ制御装置を構成している場合は、構成記述に資源名が必要です。

**媒体ライブラリー装置** 媒体ライブラリー装置を構成している場合には、その装置の製造番号を知っている必要があります。製造番号は装置の前部に記されています。

装置の前面に記載されている製造番号を調べて、用紙 X1 にある媒体ライブラリー装置の製造番号の欄にこれを記入してください。

記録した情報は、特定の項目の正しい資源名の識別に使用します。

## ハードウェア資源処理コマンドの使用

**ローカル・ワークステーション制御装置（平衡型と ASCII の両方）** 「ハードウェア資源」メニューから、オプション 2（ローカル・ワークステーション資源処理）を選択してください。「ローカル・ワークステーション資源処理」画面が表示されます。この画面のコマンド入力行で 7 と入力して、ローカル・ワークステーション制御装置の位置を表示させます。

**注：**画面上で必要な情報を得るために、次ページ・キーや前ページ・キーを使用しなければならない場合があります。

システムで構成している各ローカル制御装置については、用紙 X1 からローカル制御装置のカード・スロット番号を調べ、「カード・スロット」欄からその番号を探してください。そのカード・スロット番号の行をたどって、「資源」欄の該当行を見てください。そこで見つかった資源名は、その制御装置の資源名とカード・スロット番号を示しています。

用紙 X1 のローカル制御装置の「資源名」欄に、その資源名を記入してください。また、前に調べたケーブル・ラベル上のカード・スロット番号の隣にも、その資源名を記入してください。

F12（取消し）を押して、「ハードウェア資源」メニューに戻ってください。

**テープ制御装置、テープ、ディスケット、および光ディスク装置** 「ハードウェア資源」メニューから、オプション 3（記憶装置資源の処理）を選択してください。「記憶装置資源処理」画面が表示されます。オプション 9（資源処理）を選択してください。「記憶装置制御装置資源」画面が表示されます。この画面で、テープ装置、ディスケット装置、または光ディスク装置の資源名を調べることができます。

**注：**画面上で必要な情報を得るために、次ページ・キーや前ページ・キーを使用しなければならない場合があります。

システムに接続しようとするテープ制御装置、テープ装置、ディスケット装置、および光ディスク装置については、該当する装置の製造番号を画面上で調べてください。その後、その行をたどって「資源」欄を参照してください。

テープ装置資源名を調べるには、TAP で始まる資源名を探してください。これが、システムにおけるこのテープ装置の省略時の名前です。

ディスケット装置の資源名を調べるには、DKT で始まる資源名を探してください。これが、システムにおけるこのディスケット装置の省略時の名前です。

光ディスク装置の場合は、OPT で始まる資源名を探してください。これが、システムにおけるこの光ディスク装置の省略時の名前です。

用紙 X1 の光ディスク装置の「資源名」欄に、その資源名を記入してください。

**媒体ライブラリー装置** 「ハードウェア資源」メニューから、オプション 3（記憶装置資源の処理）を選択してください。「記憶装置資源処理」画面が表示されます。オプション 9（資源処理）を選択してください。「記憶装置制御装置資源」画面が表示されます。この画面で、媒体ライブラリー装置の資源名を調べることができます。

**注：**画面上で必要な情報を得るために、次ページ・キーや前ページ・キーを使用しなければならない場合があります。

システム装置に接続する媒体ライブラリー装置については、「資源」欄を直接調べてください。

用紙 X1 の媒体ライブラリー装置の「資源名」欄に、資源名を記録してください。

構成作業が終了したら、用紙 X1 を構成計画用紙と一緒に保管し、ただちに使用できるようにしておいてください。

### AS/400 システム構成の印刷

システム構成のコピーは必ず作成しなければなりません。この資料は、構成担当者や IBM 技術員が問題を処理する際に必須のものです。システム構成は、システムに付属している装置のリストです。

システム構成のコピーを印刷するには、ハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) コマンドを使用します。

1. コマンド入力行の表示されている任意の画面において、次に示すように入力してください。

#### DSPHDWRSC

2. ハードウェア資源表示コマンドのプロンプトが表示された画面で、入力フィールドに \*AHW と入力してください。
3. 出力フィールドに \*PRINT と入力して、実行キーを押してください。そのシステム構成が、ユーザー・プロファイルで識別される出力待ち行列に送られます。ハードウェア資源の画面が表示されます。

**注:** 前もって構成されている印刷装置がない場合には、印刷装置の構成を行った後で、この手順に戻ってシステム構成のコピーを印刷してください。

印刷装置の準備ができている場合は、システム構成リストが印刷されます。印刷装置の準備ができていない場合は、以下の手順に従ってください。

- a. 印刷装置を作動させます。
  - b. 印刷装置の準備ができれば、go assist というコマンドを入力します。これによって「操作援助機能」メニューが表示されます。
  - c. オプション 1 (印刷装置出力処理) を選択します。
  - d. 「印刷装置出力処理」画面に表示される表示装置出力リストの最下部またはその近くにある、構成リストを探してください。オプション 5 (表示) を選択して、表示装置出力を一覧表示します。
  - e. 「印刷装置出力」画面のオプション 10 (印刷開始) を選択して、システム構成リストを印刷してください。
4. 将来参照することができるように、システム構成リストを印刷したものと、システム操作、管理および問題処理の手引き、および本書を保管しておいてください。システム技術者は、問題を処理するためにシステム構成リストを必要とします。

---

## 第3章 ローカル接続平衡型入出力装置の構成

ローカル構成に自動構成を使用していない場合は、この章を参照してローカル構成作業を完了させてください。

---

### 手動による構成 – はじめに

ローカル制御装置と入出力装置の自動構成を選択しない場合は、手動で構成しなければなりません。この項では、構成メニューを使用してローカル構成を行う方法を説明します。

**注:** コンソールがローカル平衡型表示装置であるなら、システムは、在席 IPL において制御装置記述 QCTL と装置記述 QCONSOLE を使用します。自動構成の使用を選択しない場合には、独自の入出力装置および制御装置の記述を作成するのでない限り、システムは QCTL および QCONSOLE 記述を使用します。

---

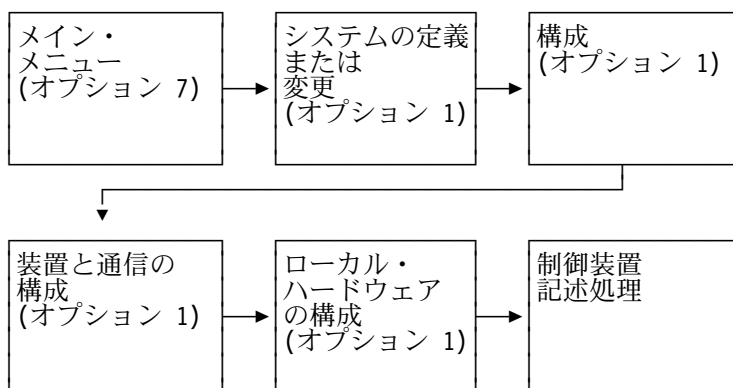
### ローカル平衡型ワークステーション制御装置の構成

システムで構成している各ローカル・ワークステーション制御装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。この情報は、表示装置や印刷装置を接続しようと考えている、ワークステーション制御装置の各ポートごとに必要となります。また、構成する各ローカル・ワークステーション制御装置ごとに、「資源名の記録」（用紙 X1）に資源名がすでに記入されていなければなりません。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

ローカル平衡型ワークステーション制御装置を構成するには、構成メニューを使用することができます。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 1（ワークステーション制御装置）を選択する。「制御装置記述処理」画面が表示されます。

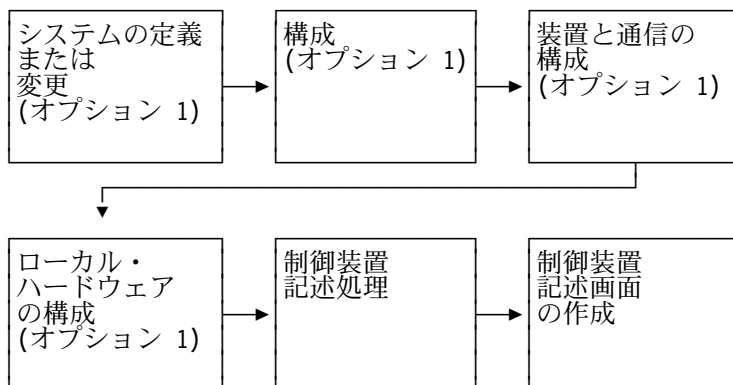
選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



すでに作成済みのローカル・ワークステーション制御装置の記述が、この画面に表示されます。これが、最初に構成するワークステーション制御装置であれば、制御装置記述は表示されません。

6. 「制御装置記述処理」画面において、F6（作成）キーを押す。

**注：** プロンプトの中には、F10（追加パラメーター）を押して追加のプロンプトを表示させた時にしか表示されないものもあります。



「制御装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する制御装置名の入力が必要です。

**注：** この画面へのアクセスは、ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドを使用することによっても可能です。次のように入力してください。

#### WRKHDWRSC \*LWS

上記のように入力することによって、ローカル・ワークステーション制御装置の処理を行うことができます。構成しようとする平衡型ワークステーション制御装置のオプション・フィールドに 5（制御装置記述処理）を入力してください。次に、オプション・フィールドに 1（作成）を入力します。「制御装置記述作成」画面が表示されますが、すでにこの時点で、システムの検出した情報が制御装置のタイプ/クラス・フィールドに入れられています。制御装置名を入力すると、プロンプトのリストが表示されます。このリストには、システムが検出した情報を記入しているプロンプトの値が表示されます。この情報をそのまま使用する場合には実行キーを押すことができます。また、それらの値を変更することも可能です。F10（追加パラメーター）を押すと、自動的に表示されないパラメーターを変更することができるようになります。



制御装置の名前を「制御装置記述作成」画面の「新しい制御装置記述」プロンプトに入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

**注:**

1. これ以降の部分で示されているプロンプトは、必ずしもその全部が画面に表示されるとは限りません。このプロンプトのリストは、他のプロンプトに対して行った選択によって異なってきます。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

表 3-1. AS/400 制御装置タイプ

型式	制御装置タイプ
150	266C、6A59
600、620、S10、S20	2637、2661、6050、6054、6055、6056、6140、6A58、6A59、915A、916A
640、650、SB1、S30、S40	2720、2722、2665、6050、6054、6055、6056、6140、6180、6141、6A58、6A59

**注:** 6A58 および 6A59 制御装置の場合、以下の条件の場合に各タイプのシステムを使用することができます。

表 3-2. AS/400 の報告済み制御装置のタイプ

型式	カード・タイプ	ケーブル P/N	スロット	ポート番号	報告されたタイプ
150	2721	44H7504	A、B、C	2	6A59
600	2612	46G0450	5		6A59
		46G0479			
620	2609	46G0450	5	2	6A58
		46G0479			
S10、S20	2721	44H7504	C08、 C09、C10		6A59
640、S30	2699	21H3779	S02B		6A59
SB1	2699	21H3779	S01B		6A59
650、S40	2699	21H3779	S01B		6A59

## ローカル・ワークステーション制御装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効選択値は、以下に示すとおりです。一部の値は、現在使用している制御装置のタイプと型式にもとづいてすでに提供されています。

**制御装置タイプ** 制御装置のタイプを入力します。これは、「システム情報」用紙に示されている 4 桁の番号にする必要があります。表3-1 と表3-2 を参照して、この番号を確認してください。

**制御装置型式** ワークステーション制御装置の型式を入力します。型式番号は、「システム情報」用紙に記録されていることもあります。3-3ページの表3-1 と 3-3ページの表3-2 を参照して、この番号を確認してください。

**資源名** ローカル・ワークステーション制御装置の資源名を入力します。この資源名は、「資源名の記録」（用紙 X1）に記録してください。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時において、自動的にローカル制御装置の記述を使用するかどうかを決定します。

IPL 時に、制御装置とそれに接続した入出力装置を自動的に使用可能にしたい場合は、**\*YES** と入力してください。

IPL 時に、テープ制御装置およびこれに接続する入出力装置を自動的に使用することができるようにしたくない場合は、**\*NO** と入力してください。

**入出力装置待機タイマー** この項目は、入出力装置待機タイムアウト値を指定します。この値は、ユーザーの応答を要求しない処置が完了するまでサブシステムが待つ時間を限定するために使用されます。表示装置は、以下のいずれかの理由があるとオフに構成変更されます。

- サブシステムが表示装置に要求を送信して、メッセージ待機ライトをオンさせた場合。
- その要求に対する応答を、指定された時間内に受け取らなかった場合。
- その値に指定してあった時間を超過した。

ユーザー・ジョブについては、「入出力装置待機タイマー」プロンプトも使用されます。しかし、タイムアウトが起こった場合には、ワークステーション機能管理機能が例外を知らせます。ユーザー・プログラムにこの例外をモニターさせ、それを受け取った時点で適切な処置を行わせることが可能です。

指定されたタイムアウト値は、この制御装置に接続されたすべてのローカル表示装置とローカル印刷装置について使用されます。

2 ~ 600 秒の値を入力します。これがシステムが待機する最大秒数になります。省略時の値は 10 秒です。

**制御装置の自動構成** この項目は、入出力装置の自動構成時に、それらの入出力装置を接続すべき制御装置の記述を指定するものです。

各制御装置に複数の制御装置記述を作成することができますが、自動構成制御装置記述 (*AUTOCFG* (\*YES) が指定されている記述) は 1 つの記述だけです。また、オンに構成変更できるのは一度に 1 つの制御装置記述だけです。新しいテープ装置が自動構成されると、それらの装置は自動構成制御装置記述に (オンに構成変更されているかどうかに関係なく) 接続されます。自動構成制御装置記述が、入出力装置の自動構成の時点でオンに構成変更されていない場合、システムはその装置をオンに構成変更することができません。

自動構成制御装置記述でない場合は、**\*NO** と入力します。

自動構成制御装置記述であれば、**\*YES** と入力します。

**注:** 自動構成によって、手動で構成した制御装置を入出力装置に接続したい場合は、*AUTOCFG* パラメーターに \*YES を指定します。

初期設定ファイル名 構成初期設定データだけを含んでいる、266A 制御装置用のソース・ファイルの名前を指定します。

初期設定メンバー名 構成初期設定データ（266A 制御装置用のみ）を含んでいるソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

初期設定プログラム名 構成初期設定データ（266A 制御装置のみ）を管理するためのプログラムの名前を指定します。

テキスト記述 制御装置とその設置場所について記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押して、ローカル・ワークステーション制御装置の記述を作成します。次に、「制御装置記述処理」画面が表示されます。制御装置の記述が作成されたことを確認するために F5 キーを押してください。作成した制御装置記述が画面のリストに表示されます。

何らかの理由で制御装置記述が作成できなかった場合には、エラー・メッセージの画面が表示されます。この画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「制御装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のローカル・ワークステーション制御装置の記述を作成し終えたなら、F6 キーを押すことにより、引き続いて「制御装置記述作成」画面においてその他のローカル・ワークステーション制御装置の記述を作成することができます。

「システム情報」用紙にすでに記入してある情報を使用して、構成している各ローカル・ワークステーション制御装置ごとにこの手順を繰り返します。

すべてのローカル・ワークステーション制御装置の記述の作成が終了したら、F5 キーを押してください。それらは「制御装置記述作成」画面のリストに表示されます。次に実行キーを押して、「ローカル・ハードウェア構成」メニューに戻ります。次の項に進んで、ローカル表示装置の構成を行います。

---

## ローカル平衡型表示装置の構成

システムで構成しているローカル表示装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。この用紙の使い方については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

注:

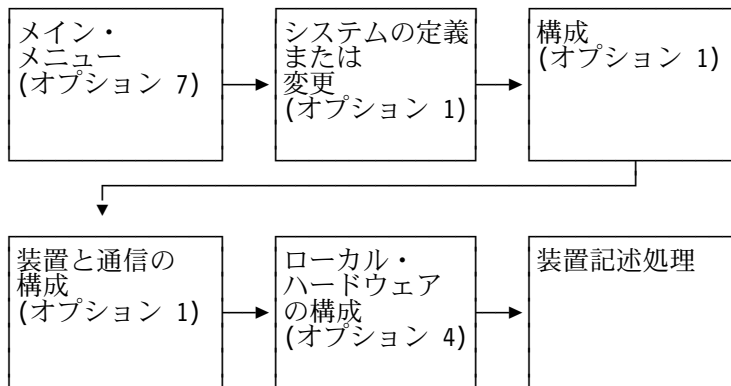
1. 表示装置を接続するローカル・ワークステーション制御装置の制御装置記述は、すでに作成済みでなければなりません。
2. ワークステーション機能を使用している PC 表示装置がシステムに接続されている場合は、以下のようにしてください。
  - X-1ページの『参考文献』に示されている、クライアント・アクセスの導入と管理に関する解説書のいずれかを参照してください。
  - PC 表示装置を構成する方法の場合。

3. クライアント・アクセス非同期通信を実行するパーソナル・コンピュータまたは PS/2 システムの接続については、*ASCII Work Station Reference* を参照してください。

ローカル平衡型表示装置を構成するには、構成メニューを使用することができます。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7 (システムの定義または変更) を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1 (構成) を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1 (入出力装置と通信の構成) を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1 (ローカル・ハードウェアの構成) を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 4 (表示装置) を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



すでにシステムで作成済みのローカル表示装置記述がこの画面に表示されます。これが構成する最初の表示装置であれば、表示装置は表示されません。

6. 「装置記述処理」画面で、F6 (作成) キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置の名前の入力求められます。

**注:** この画面へのアクセスは、ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドを使用することによっても可能です。次のコマンドを入力してください。

#### **WRKHDWRSC \*LWS**

上記のように入力することによって、ローカル・ワークステーション制御装置の処理を行うことができます。「システム情報」を利用することにより、自分の表示装置が接続されている平衡型ワークステーション制御装置を判別します。該当する制御装置のオプション・フィールドにカーソルを移動させ、オプション 5 (制御装置記述処理) を選択してください。その制御装置のオプション・フィールドにカーソルを移動させ、オプション 9 (関連装置記述処理) を選択します。「関連装置記述処理」画面が表示されたら、その表示装置に関してオプション 1 (作成) を選択してください。「装置記述作

成」画面が表示されますが、すでにこの時点で、システムの検出した情報が制御装置のタイプ/クラス・フィールドに入れています。装置名を入力すると、プロンプトのリストが表示されます。これらのプロンプトには、システムが検出した情報があらかじめ表示されています。この情報をそのまま使用する場合には実行キーを押すことができます。また、それらの値を変更することも可能です。F10（追加パラメーター）を押すと、自動的に表示されないパラメーターを変更することができるようになります。装置名については、「システム情報」用紙を参照してください。入出力装置の名前を、この表示装置の行に指定してください。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更する必要があるのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

**注:**

1. 他のプロンプトに対して行った選択によっては、これ以降の部分で示されているプロンプトの一部が画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

1 つの画面でプロンプトへの入力が終わったなら、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。すべてのプロンプトに対して値が入られるまで、選択の入力を続けてください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）

## ローカル平衡型表示装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効選択値は、以下に示すとおりです。

**装置クラス** ローカル表示装置を示す \***LCL** を入力します。

**装置タイプ** 表示装置の装置タイプを入力します。装置タイプは、「システム情報」用紙の、この表示装置用の囲みに示されている 4 桁の番号にする必要があります。

**注:** 表示装置のタイプの中には、システムが認識しないものがあります。このような表示装置タイプについては、システムが認識できるタイプとして構成することが必要です。それによってシステムは、構成上指定した表示装置であるかのようにして、その表示装置を扱うこととなります。たとえば、AS/400 クライアント・アクセスを実行するローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続したパーソナル・コンピュータは、5150-1 型として構成されます。

5208 リンク・プロトコル変換機構に接続する入出力装置のリストについては、*5208 Model 1 ASCII-5250 Link Protocol Converter User's Guide* を参照してください。

5209 リンク・プロトコル変換機に接続する入出力装置のリストについては、*5209 Model 1 3270-5250 Link Protocol Converter User's Guide* を参照してください。

ROLMbridge 5250 リンク・プロトコル変換機構に接続する入出力装置のリストについては、*CBX II 8000 Installation Manual* を参照してください。

3197、3477、3486、3487、3488、および 3489 表示装置に対する印刷装置の構成と接続については、それぞれの表示装置の資料を参照してください。

5259 移行用データ転送装置に接続される表示装置がある場合は、その装置のタイプを記録します。移行においてアドレスを使用する場合は、装置タイプとして 5292 を、また装置の型式として 2 を使用します。詳細については、5259 *Migration Data Link User's Guide* を参照してください。

表3-3 では、ローカル表示装置の装置タイプと装置型式、および構成上の装置タイプと装置型式を示します。

表 3-3 (1/2). 表示装置の装置タイプおよび型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の型式番号
3179	2 (カラー)	同じ	同じ
3180	2	同じ	同じ
3196	A1、A2、B1、B2	同じ	同じ
3197	C1 (カラー)、C2 (カラー)、D1、D2、W1、W2	同じ	同じ
3197	D4	同じ	D1
3476	EA、EC 1、EG 2	同じ	同じ (ただし EG は EA として構成)
3477	FA、FC、FD、FE、FG、FW	同じ	同じ
3486	BA、BG	同じ	BA
3487	HA、HC、HG、HW	同じ	同じ
3488 (モノクロ・モニター使用)	H1	3486	BA
3488 (モノクロ・モニター使用)	V	3486	BA
3488 (カラー・モニター使用)	H1	3487	HC
3488 (カラー・モニター使用)	V	3487	HC
3489 (モノクロ・モニター使用)	V1	3486	BA
3489 (カラー・モニター使用)	V1	3487	HC
5150	1、2	同じ	同じ
5251	11	同じ	同じ
5291	1、2	同じ	同じ
5292	1 (カラー)	同じ	同じ
5292	2 (グラフィックス)	同じ	同じ
7561	J61	5555	B01、C01
Macintosh** ワークステーション (カラー・モニター使用、画面サイズが 24 × 80) 3	--	3197	C2
Macintosh ワークステーション (カラー・モニター使用、画面サイズが 27 × 132) 3	--	3477	FC
Macintosh ワークステーション (モノクロ・モニター使用、画面サイズが 24 × 80) 3	--	3196	A2
Macintosh ワークステーション (モノクロ・モニター使用、画面サイズが 27 × 132) 3	--	3196	A2

表 3-3 (2/2). 表示装置の装置タイプおよび型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の型式番号
パーソナル・コンピューターまたは PS/2 (5250 エミュレーション・プログラムのバージョン 2.10、2.11、または 2.12 を実行)	--4	5291 5292	2 2
パーソナル・コンピューターまたは PS/2 (5250 エミュレーション・プログラムのバージョン 2.2 または 2.3 を実行)	--4	3196 5292	A2 2
パーソナル・コンピューターまたは PS/2 (AS/400 クライアント・アクセス を実行)	--4	5150	
PS/2 (ワークステーション・エミュレーション・プログラムのバージョン 1 を実行)	--5	3196 5292	A2 2

1 3476-EC 型は実際の 3476 入出力装置ではなく、その装置をエミュレートしているにすぎません。3476-EC 型は、3476 の EA 型または EC 型のいずれかをエミュレートする 6143 または 6145 ワークステーション・アダプター・カードです。

2 EG 型は EA 型として構成されます。

3 Macintosh によりエミュレートされるこの表示装置は、表示タイプ (カラーまたはモノクロ) と SNA•ps 5250 Version 1.2 アプリケーションで指定されている画面サイズにより異なります。

4 実際の型式番号の一覧表については、*IBM Enhanced 5250 Emulation Program (G570-2221)* を参照してください。

5 実際の型式番号の一覧表については、「参考文献」に記載されている AS/400 クライアント・アクセス導入および管理の手引きのいずれかを参照してください。

6 実際の型式番号の一覧表については、*IBM System 36/38 Work Station Emulation Program Version 1.0 User's Guide (SC21-9680)* を参照してください。

表 3-4. 平衡型 2 バイト文字セット (DBCS) 使用可能表示装置

実際の装置タイプ	実際の型式番号	構成上の装置タイプ	構成上の型式番号
PS/55 (5250 PC プログラム、または 5250 ワークステーション・プログラムを実行)	すべての型式	5555	B01、C01、G01、G02、
PS/55 (5250 PC/2 AD を実行)	すべての型式	5555	E01、F01
PS/55 または ThinkPad (パーソナル・コミュニケーション/5250 を実行)	すべての型式	5555	B01、C01
PS/55 または ThinkPad (パーソナル・コミュニケーション/5250 + 3270 を実行)	すべての型式	5555	B01、C01
7561	J61	5555	B01、C01
5295	すべての型式	5555	B01、C01
InfoWindow 3477	J、K、S、T	5555	B01、C01

注: B01 型および E01 型はモノクロの表示装置に対応し、C01 型および F01 型はカラー表示装置に対応します。G01 型および G02 型は 5250 PC グラフィックス表示装置機能に対応します。G01 型はモノクロ・テキストをサポートし、G02 型はカラー・テキストをサポートします。

装置タイプを 3-8 ページの表 3-3 で探し、「構成上の装置タイプ」欄に示されている装置タイプを入力します。

注: 2 バイト文字セット表示装置については、A-1 ページの付録 A、『2 バイト文字セット入出力装置の構成』に示してあります。

**入出力装置型式** 表示装置の型式番号を入力します。装置の型式は、「システム情報」用紙に示されています。使用する表示装置が、別の型式番号として構成されるべきものとして示されている場合は、「構成上の装置型式」欄に示されている型式番号を入力してください。

**ポート番号** 表示装置を接続するワークステーション制御装置のポートの番号を入力します。  
この表示装置が使用するポートの番号は、「システム情報」用紙から入手してください。

**スイッチ設定** 表示装置のスイッチ設定または装置アドレスを入力します。

スイッチ設定は、「ローカル・ワークステーション接続図」の表示装置の欄にある装置アドレスと同じです。0～6の数字でなければなりません。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にローカル表示装置を自動的に使用可能にするかどうかを決定します。

IPL 時に表示装置を自動的に使用できるようにしたい場合は、\*YES と入力してください。

IPL 時に表示装置を自動的に使用できるようにしたくない場合は、\*NO と入力してください。

**共用セッション番号** 平衡型表示装置の共用セッション番号を指定します。

セッションのアドレスを共用している表示装置は、266C、2722、6050、2661、6180、915A、または 916A ローカル・ワークステーション制御装置に、あるいは 5494 遠隔ワークステーション制御装置に接続することができます。3486 および 3487 装置タイプは共用セッションをサポートします。

0 から 3 のセッション番号は有効です。

**注:**

1. ワークステーション制御装置の共用セッションの限度は、80 共用セッションです。異なるワークステーション制御装置は、異なる装置（ベース・セッション）をサポートします。最大数は 40 ベース・セッションに 80 共用セッションを加えたもので、合計 120 セッションになります。
2. 以下の状況では、ワークステーション制御装置上でセッションを交換した後に最初のキーストロークの処理の遅れが起これえます。
  - a. ワークステーション制御装置上の多数のユーザーが、表示装置を共用するアドレスを使用している場合
  - b. これらのユーザーが、表示装置のセッションを頻繁に交換する場合

**接続する制御装置** この表示装置が接続されている制御装置の名前を入力します。

ローカル制御装置の記述はすでに作成してあるはずですが、ここに入力する名前は、表示装置を接続するワークステーション制御装置の制御装置名としてすでに入力した名前に合致していなければなりません。

**キーボード言語タイプ** 表示装置のキーボード・タイプの 3 文字の識別名を入力します。



**注:**

1. 表示装置のキーボード・タイプは、その表示装置用に注文したタイプと合致していなければなりません。
2. \*SYSVAL は、システムに対して QKBDTYPE システム値を使用するよう指示します。

表3-5 を使用して、表示装置の正しいキーボード・タイプを調べてください。

表 3-5 (1/3). キーボード・タイプ

言語または国	キーボード・タイプ
アルバニア	ALI
アラビア X/基本	CLB
オーストリア/ドイツ	AGB
オーストリア/ドイツ諸言語	AGI
ベルギー諸言語	BLI
ポルトガル語 (ブラジル)	BRB
ブルガリア	BGB
カナダ (フランス語)	CAB
カナダ (フランス語) 諸言語	CAI
中国語 (簡体字)	RCB
中国語 (繁体字)	TAB
クロアチア	YGI
キリル語	CYB
チェコ共和国	CSB
デンマーク	DMB
デンマーク諸言語	DMI
エストニア	ESB
フィンランド/スウェーデン	FNB
フィンランド/スウェーデン諸言語	FNI
フランス (Azerty)	FAB
フランス (Azerty) 諸言語	FAI
フランス (Qwerty)	FQB
フランス (Qwerty) 諸言語	FQI
ギリシャ	GNB <sup>1</sup>
ヘブライ語	NCB
ハンガリー	HNB
アイスランド	ICB

表 3-5 (2/3). キーボード・タイプ

言語または国	キーボード・タイプ
アイスランド諸言語	ICI
国際	INB
国際諸言語間共通	INI
イラン (ペルシア語)	IRB
イタリア	ITB
イタリア諸言語	ITI
日本語英語	JEB
日本英語諸言語	JEI
日本漢字	JKB <sup>2</sup>
日本ラテン語拡張	JPB
日本米国英語	JUB <sup>3</sup>
日本語カタカナ	KAB <sup>4</sup>
韓国語	KOB
ラトビア	LVB
リトアニア	LTB
ラテン語 2/Roece	ROB
FYR マケドニア (以前のユーゴスラビア共和国)	MKB
オランダ	NEB
オランダ諸言語	NEI
ノルウェー	NWB
ノルウェー諸言語	NWI
ポーランド	PLB
ポルトガル	PRB
ポルトガル諸言語	PRI
ルーマニア	RMB
ロシア	RUB
セルビア (キリル・アルファベット)	YGB
セルビア (ラテン語)	SQB
スロバキア	SKB
スロベニア	YGI
スペイン	SPB
スペイン諸言語	SPI
スペイン語圏	SSB

表 3-5 (3/3). キーボード・タイプ

言語または国	キーボード・タイプ
スペイン語圏諸言語	SSI
スウェーデン	SWB
スウェーデン諸言語	SWI
スイス/フランス語圏諸言語	SFI
スイス/ドイツ語圏諸言語	SGI
タイ	THB
トルコ (QWERTY配列キーボード)	TKB
トルコ (F)	TRB
ウクライナ	UAB
英国	UKB
英国諸言語	UKI
米国/カナダ	USB
米国/カナダ諸言語	USI
ウルドゥー語	PKB
ベトナム	VNB
旧ユーゴスラビアの諸言語	YGI

- 1 GNB は、ギリシャ語キーボード・タイプの省略時値です。GKB コードは V2R1 より前に使われていたコードですが、引き続きサポートされます。GNB コードに比べると、GKB には少ない文字数しか用意されていません。
- 2 PS/55、5295、および 3477-J 型表示装置用。
- 3 カタカナの代わりに米国英語を使用するようにカスタマイズされた 5250 および 3477-J 型表示装置を実行する PS/55 用。
- 4 5251、5291、5292、および 3180 カタカナ表示装置用。

**文字識別コード・グラフィック・文字セットおよびコード・ページ** 表示装置がサポートする文字識別コードを入力します。文字識別コードは、この表示装置のグラフィック文字セットとコード・ページとで構成されます。

この表示装置で表示装置ファイルが作成された場合に、表示装置に送られるデータをシステムに変換させるため、文字識別コードを指定する必要があります。データは、表示装置から適正な文字として受け取らなければなりません。

表示装置のグラフィック文字セットおよびコード・ページの値をシステムが決めるようにする場合は、\*SYSVAL のままにします。

表示装置の属性に適合するグラフィック文字セットおよびコード・ページの値を入力します。グラフィック文字セットおよびコード・ページの値は、1 ~ 32,767 の範囲の数字でなければなりません。

指定される値は、表示装置の属性にもとづいています。以下に示す表は、表示装置の各キーボード・スタイルに対応する値を示したものです。文字識別コード (CHRID) の最初の 3 桁がグラフィック文字セット、最後の 3 桁がコード・ページです。

「限定 CHRID」の値として示されているグラフィック文字セットに含まれるすべての文字は、この装置で入力および表示が可能です。全 CHRID 値に関連している文字はすべて、表示装置で入力することができます。（これらの文字に 16 進表現を使用することも可能です。）ただし、その入出力装置がすべての文字を表示できるわけではありません。

「限定 CHRID」欄に示されている値は、5291 および 5292 表示装置で使用されるものです。これ以外の表示装置ではすべて「全 CHRID」欄に示されている値を使用します。

OfficeVision に使用するすべての表示装置（5291 および 5292 表示装置を含む）には、「全 CHRID」欄の値を使用してください。

注： 単一バイト・データと 2 バイト・データの両方をサポートする入出力装置のキーボード・タイプ値 (KBDTYPE パラメーター) を使用している場合には、リストに示されている CHRID 値は単一バイト・データ専用です。（JKB、JUB、KOB、RCB および TAB はキーボード・タイプ値です）。

表 3-6 (1/2). 文字識別コード

言語または国	キーボード・タイプ (KBDTYPE)	限定文字識別コード	全文字識別コード
国際および US ASCII 各国間共通	INB	103 038	697 500
	AL1 AGI BLI CAI DMI FAI		697 500
	FNI FQI ICI INI ITI JEI NEI		
	NWI PRI SFI SGI SPI SSI		
	SWI UKI USI		
アルバニア	ALI		697 500
アラビア	CLB		235 420
オーストリア/ドイツ	AGB	265 273	697 273
ベルギー諸言語	BLI		697 500
ポルトガル語 (ブラジル)	BRB		697 037
ブルガリア	BGB		1150 1025
カナダ (フランス語)	CAB	277 260	341 260
中国語 (簡体字)	RCB		1174 836
中国語 (繁体字)	TAB		101 037
クロアチア	YGI		959 870
キリル語	CYB		960 880
チェコ共和国	CSB		959 870
デンマーク/ノルウェー	DMB NWB	281 277	697 277
エストニア	ESB		1307 1122
フィンランド/スウェーデン	FNB SWB	285 278	697 278
フランス	FAB (Azerty) FQB (Qwerty)	288 297	697 297
ギリシャ	GNB!		925 875
ヘブライ語	NCB		941 424
ハンガリー	HNB		959 870
アイスランド	ICB		697 871
イラン (ペルシア語)	IRB		1219 1097
イタリア	ITB	293 280	697 280
日本語英語	JEB	297 281	697 281
日本ラテン語拡張	JPB		1172 1027

表 3-6 (2/2). 文字識別コード

言語または国	キーボード・タイプ (KBDTYPE)	限定文字識別コード	全文字識別コード
日本／漢字	JKB (パーソナル・システム /55、5295 および 3477-J 表示 装置用)		1172 290
日本／カタカナ	KAB (5251、5291、5292、お よび 3180 カタカナ表示装置)		332 290
日本米国英語	JUB (パーソナル・システム /55、および ThinkPad)		697 037
韓国語	KOB		1173 833
ラテン語 2	ROB		959 870
ラトビア	LVB		1305 1112
リトアニア	LTB		1305 1112
FYR マケドニア (以前のユーゴ スラビア共和国)	MKB		1150 1025
オランダ	NEB		697 037
ノルウェー	NWB	281 277	697 277
ポーランド	PLB		959 870
ポルトガル	PRB	301 037	697 037
ルーマニア	RMB		959 870
ロシア	RUB		1150 1025
セルビア (キリル・アルファベッ ト)	SUB		1150 1025
セルビア (ラテン語)	ICE		959 870
スロバキア	SKI		959 870
スロベニア	YOGI		959 870
スペイン	SPY	305 284	697 284
スペイン語圏	SUB	309 284	697 284
スウェーデン	SUB	285 278	697 278
スイス／フランス語圏諸言語	SKI		697 500
スイス／ドイツ語圏諸言語	SKI		697 500
タイ	TAB		938 838
トルコ	TAB (Quarto) TAB (If)		1152 1026
ウクライナ	UAB		1326 1123
英国／英語	DUB	313 285	697 285
米国／英語	SUB	101 037	697 037
ウルドゥー語	PKB		1160 918
ベトナム	VNB		1336 1130
旧ユーゴスラビア諸国の諸言語	YOGI		959 870

1 GNP は、ギリシャ語キーボード・タイプの省略時値です。全 CRIED 値が 218,423 の場合は値 GAB も受け入れられま  
す。

**カーソル明滅の許容** この項目は、表示画面でカーソルを明滅させるかどうかを指定します。

カーソルを明滅させる場合は、**\*YES** と入力します。

カーソルを明滅させない場合は、**\*NO** と入力します。

**注:** カーソル明滅の属性を変更できる表示装置であれば、装置記述に指定されて  
いる値を、キーボード・セットアップ機能を使用して変更することもできま  
す。

**補助入出力装置 - 補助入出力装置のタイプとアドレス** IEEE-488 ポートに補助入出力装置を接続している 5292-2 型表示装置の場合に、補助入出力装置のタイプとアドレスを入力します。

有効な補助入出力装置のタイプは、7371 (IBM 7371 作図装置)、7372 (IBM 7372 作図装置)、および 6180 (IBM 6180 作図装置) の 3 種類です。

5292-2 型では、同じ IEEE-488 ポートに最高 31 個までの作図装置を接続することができます。各作図装置の IEEE-488 アドレスは、異なるものでなければなりません。

アドレスは、補助入出力装置で設定されているスイッチ設定のアドレスに合致していなければなりません。補助入出力装置の有効なアドレスは 1 ~ 31 です。

**DBCS 機能** この項目は、2 バイト文字セット (DBCS) 入出力装置の場合のみ該当します。表示装置に対応する値を入力してください。有効な値については、A-1 ページの付録A、『2 バイト文字セット入出力装置の構成』のリストを参照してください。

**テキスト記述** 表示装置とその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押してください。表示装置の記述が作成されます。「装置記述処理」画面が表示されます。表示装置記述が作成されたかどうかを確認するには、F5 キーを押します。ここで作成したばかりの表示装置記述が、「装置記述処理」画面のリストに表示されます。

何らかの理由で表示装置の記述が作成されなかった場合は、エラーの画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のローカル表示装置の記述を作成したら、「装置記述作成」画面において、引き続いて他のローカル表示装置の記述を作成することができます。

すべてのローカル表示装置の記述の作成を終了したら、F5 キーを押してください。「装置記述作成」画面のリストにそれらが表示されます。次に実行キーを押して、「ローカル・ハードウェア構成」メニューに戻ります。次の項に進んで、ローカル印刷装置の構成を行ってください。

---

## ローカル平衡型印刷装置の構成

システムで構成している各ローカル印刷装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入する必要があります。計画用紙の記入方法について詳しくは、第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

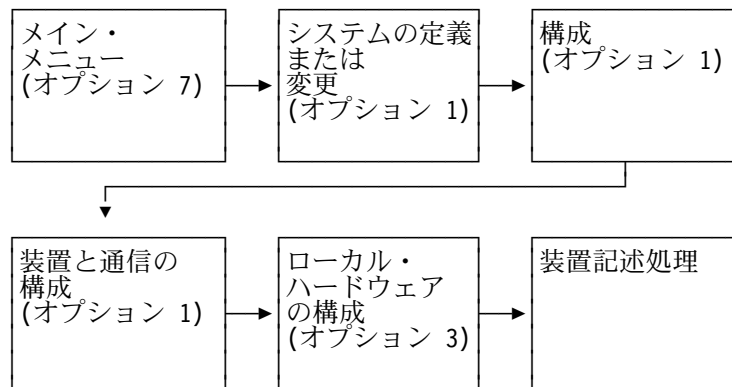
注:

1. この印刷装置を接続するローカル・ワークステーション制御機能の制御装置記述は、すでに作成済みでなければなりません。
2. ワークステーション機能を使用している PC 印刷装置がシステムに接続されている場合、参考文献に挙げられているクライアント・アクセス/400 の導入と管理に関する解説書のいずれかを参照して、それらの印刷装置をパーソナル・コンピュータ上で構成する方法を調べてください。

ローカル平衡型印刷装置を構成するには、構成メニューを使用することができます。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7 (システムの定義または変更) を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1 (構成) を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1 (入出力装置と通信の構成) を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1 (ローカル・ハードウェアの構成) を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 3 (印刷装置) を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



すでにシステムで作成済みのローカル印刷装置記述が、この画面に表示されます。これが構成する最初の印刷装置であれば、印刷装置記述のリストは表示されません。

6. 「装置記述処理」画面で、F6 (作成) キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置の名前の入力求められます。

注: この画面へのアクセスは、ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドを使用することによっても可能です。次のコマンドを入力してください。

**WRKHDWRSC \*LWS**

上記のように入力することによって、ローカル・ワークステーション制御装置の処理を行うことができます。印刷装置がどの平衡型ワークステーション制御装置に接続されているかを判別するには、「システム情報」用紙を使用します。該当する制御装置のオプション・フィールドにカーソルを移動させ、オプション 5（制御装置記述処理）を選択してください。その制御装置のオプション・フィールドにカーソルを移動させ、オプション 9（関連装置記述処理）を選択します。「関連装置記述処理」画面が表示されます。構成しようとする印刷装置を、検出された入出力装置のリストから探し、その印刷装置に対してオプション 1（作成）を選択してください。「装置記述作成」画面が表示されますが、すでにこの時点で、システムの検出した情報が制御装置のタイプ/クラス・フィールドに入れられています。使用する装置名を入力すると、一連のプロンプトが表示されます。それらのプロンプトには、システムの検出した情報がすでに入れられています。この情報をそのまま使用する場合には実行キーを押すことができます。また、それらの値を変更することも可能です。F10（追加パラメーター）を押すと、自動的に表示されないパラメーターを変更することができるようになります。

装置名については、「システム情報」用紙を参照してください。該当する装置名は、この印刷装置の記述に示されています。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

#### 注:

1. 他のプロンプトに対して行った選択によっては、以下に示すプロンプトの一部が画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

1 つの画面でプロンプトへの入力が終わったなら、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。すべてのプロンプトに対して値が入れられるまで、選択の入力を続けてください。

## ローカル平衡型印刷装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効選択値は、以下に示すとおりです。

**装置クラス** ローカル印刷装置を示す \*LCL を入力します。

**装置タイプ** この印刷装置の装置タイプを入力します。装置タイプは、この印刷装置用の「システム情報」用紙に示されている 4 桁の番号でなければなりません。

**注:** 装置タイプによってはシステムが認識しないものがあります。これらの装置タイプは、システムが認識する装置タイプとして構成する必要があります。システムはそうにして構成された装置を、構成されたとおりのタイプの装置として扱います。たとえば、4210-1 型印刷装置は 4214-2 型印刷装置として構成する必要があります。

5208 リンク・プロトコル変換機構に接続する入出力装置のリストについては、5208 Model 1 *ASCII-5250 Link Protocol Converter User's Guide* を参照してください。



209 リンク・プロトコル変換機に接続する入出力装置のリストについては、5209 Model 1 3270-5250 Link Protocol Converter User's Guide を参照してください。

ROLMbridge 5250 リンク・プロトコル変換機構に接続する入出力装置のリストについては、CBX II 8000 Installation Manual を参照してください。

3197、3477、3486、3487、3488、および 3489 表示装置に対する印刷装置の構成と接続については、それぞれの表示装置の資料を参照してください。

5259 移行用データ転送装置に印刷装置を接続している場合は、その装置タイプを記録してください。詳細については、5259 移行用データ転送装置 使用者の手引き を参照してください。

表3-7 は、印刷装置の各タイプのローカル印刷装置タイプと装置型式、および構成上の装置タイプと装置型式を示します。

表 3-7 (1/2). 印刷装置の装置タイプおよび装置型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
3812 (非 IPDS)	1、2	3812	
3812 (IPDS)	2	*IPDS	0
3816 (非 IPDS)	1D、1S	3812	
3816 (IPDS)	1D、1S	*IPDS	0
3912 (非 IPDS)	AS0	3812	
3912 (IPDS)	AS1	*IPDS	0
3816 (非 IPDS)	AS0	3812	
3916 (IPDS)	AS1	*IPDS	0
3930 (非 IPDS)	02D、02S	3812	
3930 (IPDS)	02D、02S	*IPDS	0
3935 (IPDS)	001	*IPDS	0
4028	AS1	*IPDS	0
4210		4214	2
4214	2	同じ	同じ
4224	101、102、1E2、1C2、1E3	*IPDS	0
4230	102、111	*IPDS	0
4230	101、152	4214	2
4234	2	同じ	同じ
4234	8、12	*IPDS	0
4245	T12、T20	同じ	同じ
4247	AS1	*IPDS	0
4247		4214	2
5219	D01、D02	同じ	D1、D2
5224	1、2	同じ	同じ
5225	1、2、3、4	同じ	同じ
5256	1、2、3	同じ	同じ
5262		5256	
6252	T08、T12	6252、4245	T08、T12
6262	T12、T14、T22	4245	T12
6400 (非 IPDS)	004、008、012、CTA	4234、5225	2、1
6400 (IPDS)	004、008、012、CTA	*IPDS	0
6404 (非 IPDS)	CTA	4234、5225	2、1
6404 (IPDS)	CTA	*IPDS	0
6408 (非 IPDS)	CT0、CTA	4234、5225	2、1

表 3-7 (2/2). 印刷装置の装置タイプおよび装置型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
6408 (IPDS)	CT0, CTA	*IPDS	0
6412 (非 IPDS)	CT0, CTA	4234, 5225	2, 1
6412 (IPDS)	CT0, CTA	*IPDS	0
Macintosh 印刷装置	--	3812	
パーソナル・システムに接続されている印刷装置 (パーソナル・コミュニケーションズ /5250 を実行)	--	3812	

表 3-8. 平衡型 2 バイト文字セット (DBCS) 使用可能印刷装置

実際の装置タイプ	実際の型式番号	構成上の装置タイプ	構成上の型式番号
5227	001, 002, 003, または 005	5553	B01
5317	001	5553	B01
5327	001, 002, 003	5553	B01
5337	001	5553	B01
5407	001, 002, 003, 005	5553	B01
5427	001, 002, 003, 005	5553	B01
5437	001, 002, 003, 005	5553	B01
5583	200	同じ	同じ
平衡型 DBCS Capable Printers (5583 を除く)	-	5553	B01

表 3-9. PS/55, 5295, および 3477 に接続した印刷装置

実際の装置タイプ	実際の型式番号	構成上の装置タイプ	構成上の型式番号
4208	502, 5C2, 5K2	5553	B01
4216	510	5553	B01
5553	B01, B02	同じ	B01
5557	B01	5553	B01
5563	B02, H02	5553	B01
5572	B01	5553	B01
5575	B01, B02, F01, F02, H02	5553	B01
5573	H02	5553	B01
5577	B01, B02, F01, F02, G01, HC2, FU2, H02, J02, K02	5553	B01
5579	H02	5553	B01
5582	P01	5553	B01
5584	G02, H01	5553	B01
5587	G01, H01	5553	B01
5589	H01	5553	B01
PS/55, 5295, および 3477 に接続した印刷装置	-	5583	B01

装置タイプを 3-19ページの表3-7 で探し、「構成上の装置タイプ」欄に示されている装置タイプを入力します。

**注:** 2 バイト文字セット (DBCS) 印刷装置については、A-1ページの付録A、『2 バイト文字セット入出力装置の構成』に示してあります。

**入出力装置型式** 印刷装置の型式番号を入力します。装置の型式は、「システム情報」用紙にも示されています。使用する装置が、上記の表で別の型式として構成されている装置である場合は、「構成上の装置型式」欄に示されている装置型式を入力してください。

**拡張印刷** このプロンプトは、印刷装置が拡張印刷をサポートするかどうかを示すものです。**拡張印刷 (AFP)** は、印刷装置でテキストとイメージを印刷するのに全点アドレス可能の概念を使用するプログラムに適しています。拡張印刷に対応している印刷装置は、3812、3816、3912、3916、3930、3935、4028、4224、4234、および 4247 印刷装置です。

**注:** 3935 印刷装置は、AFP(\*YES) として構成してください。そのように構成しない場合、システムは AFP 値を自動的に \*NO から \*YES に変更します。

この印刷装置が拡張印刷を持つものであって、実際に拡張印刷を使用したい場合には、\*YES と入力してください。

印刷装置に拡張印刷がない場合、または印刷装置で拡張印刷を使用したくない場合は、\*NO と入力してください。

省略時値は \*NO です。

**AFP 接続機構** このプロンプトは、拡張印刷用に構成された印刷装置の場合にのみ表示されるもので、その印刷装置がどのようにシステムに接続されているかを示します。

印刷装置がワークステーション制御機能に接続されている場合には、\*WSC を入力してください。これが省略時の値です。(指定可能なもう 1 つの値は \*APPC で、APPC/APPN を利用して接続している遠隔印刷装置に対して使用します。**拡張プログラム間通信 (APPC)** は、AS/400 システムのプログラムと、他の高性能な通信サポートのあるシステムのプログラム間での通信を可能にするデータ通信サポートです。AS/400 システムの APPC は、SNA LU のタイプ 6.2 アーキテクチャーおよびノード・タイプ 2.1 アーキテクチャーへのプログラミング・インターフェースを提供します。**拡張対等通信ネットワーク機能 (APPN)** は、直接接続する必要のない複数の APPC システム間で経路指定することにより、通信を可能にするデータ通信サポートです。詳細については、通信構成を参照してください。)

**ポート番号** 印刷装置を接続するワークステーション制御装置のポート番号を入力します。

この印刷装置のポートは、「システム情報」用紙に示されています。

**スイッチ設定** 印刷装置のスイッチ設定または装置アドレスを入力します。

スイッチ設定は、「システム情報」用紙の印刷装置の囲みにある装置アドレスと同じです。0 ~ 6 の数字でなければなりません。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にこのローカル印刷装置を自動的に使用するかどうかを決定するものです。

IPL 時にこの印刷装置を自動的に使用可能にしたい場合には、\*YES と入力してください。

IPL 時にこの印刷装置を自動的に使用可能にたくない場合には、\*NO と入力してください。

**接続する制御装置** 入出力装置が接続されている制御装置記述の名前を入力します。

ローカル制御装置の記述はすでに作成してあるはずですが、ここに入力する名前は、印刷装置が接続されているワークステーション制御装置の制御装置名として入力した名前に合致していなければなりません。

**印刷品質** この項目は作成される印刷の品質を指定します。

標準品質の印刷出力をする場合は、**\*STD** を入力してください。

ドラフト品質の印刷出力をする場合は、**\*DRAFT** を入力してください。

レター品質の印刷出力をする場合は、**\*NLQ** を入力してください。

**フォント識別コード** 表示装置が 3812、3816、3912、3916、3930、5219、または拡張印刷装置データ・ストリーム (IPDS) のいずれかである場合には、フォント識別子コードを入力してください。それ以外の場合には、この項目には何も入力しません。

**高機能印刷装置データ・ストリーム (IPDS)** は全点アドレス可能データ・ストリームと関連しており、ユーザーはこれを使用することにより、出力ページに定義した任意の点にテキスト・イメージやグラフィックスを位置付けることができます。**データ・ストリーム**とは、単一の読み込みまたは書き込み操作によりデータ・リンクを介して送信されるすべての情報 (データ・コマンドと制御コマンド) のことです。**フォント識別コード (フォント ID)**とは、特定の印刷装置の文字スタイルとサイズを識別する番号のことです。すべての有効なフォント識別コードを知りたい場合は、*Printer Device Programming* にある表を参照してください。

**ポイント・サイズ** フォントのサイズをポイント数で指定します。有効なポイント・サイズの値は 000.1 ~ 999.9 の範囲の値です。ポイント・サイズの省略時の値は **\*NONE** です。フォント識別コードとして **\*DEV** または **\*CPI** を選択すると、ポイント・サイズ値には値が指定できなくなります。

**用紙送り** 4214、5219、5553、または IPDS 印刷装置の場合に、印刷装置に用紙を送るモードを入力します。そうでない場合、この項目は空白にしてください。

その印刷装置タイプで典型的なものである値をシステムが選択するようにしたい場合には、**\*TYPE** と入力してください。

IPDS 印刷装置の場合、この値は正確には判別できません。**\*CONT**、**\*CUT**、または **\*AUTOCUT** のうちから、この表示装置に適した値を選択する必要があります。

印刷装置で連続用紙を使用する場合は、**\*CONT** と入力します (連続用紙送り機構の取付けが必要です)。

印刷装置で単票印刷を使用する場合は、**\*CUT** と入力します。用紙を 1 枚ずつ手動で差し込む必要があります。

印刷装置で単票の自動印刷を使用する場合は、**\*AUTOCUT** と入力します。用紙送り機構を印刷装置に接続する必要があります。

**区切り用紙入れ** 区切りページを印刷するための用紙入れを指定します。

スプール・ファイルの残りの部分と同じ用紙入れの中の用紙に区切りページを印刷したい場合には、**\*FILE** を入力してください。

他の用紙入れから区切りページを印刷したい場合には、**1 から 255** を入力してください。

**区切りプログラム** 区切りページのスタイルは、ジョブおよびファイル区切りを印刷中のユーザー出口プログラム呼出しを可能にするために指定します。省略時の値は \*NONE です。出口プログラム名を選択する場合には、そのプログラムが存在しているライブラリーも指定する必要があります。詳細については、*System API Programming* を参照してください。

**印刷装置エラー・メッセージ** 印刷装置が回復可能エラーについて照会メッセージまたは通知メッセージを送るかどうかを指定します。照会メッセージの場合、操作員が処置を行う必要があります。通知メッセージは、操作員が使用することのできる情報です。

回復可能エラーについて照会メッセージを送りたい場合は、\*INQ と入力します。

回復可能エラーについて通知メッセージを送りたい場合は、\*INFO と入力します。

**メッセージ待ち行列とライブラリー** この印刷装置に関するメッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーを指定します。

メッセージを QSYSOPR メッセージ待ち行列へ送りたい場合は、ライブラリーは \*LIBL、メッセージ待ち行列は QSYSOPR のままにします。

操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーの修飾名を入力します。（ライブラリーの修飾名を指定しない場合は、待ち行列を見つけるのに \*LIBL が使用されます。）

ユーザー・プロファイル名を入力することもできます。あるユーザーの省略時のメッセージ待ち行列の名前は、そのユーザー・プロファイル名と同じです。たとえば、William Smith のユーザー・プロファイル名は WSMITH です。彼の省略時のメッセージ待ち行列名は、やはり WSMITH となります。

**最大保留要求数** このプロンプトは、拡張印刷用に構成された印刷装置の場合にのみ表示されます。

任意の時点で保留にすることのできる印刷要求の最大数を入力してください。

有効な値の範囲は 1 ~ 31 です。省略時の値は 6 です。

**変換中の印刷** このプロンプトは、拡張印刷 (AFP) 機能用に構成された印刷装置の場合のみ表示されます。ファイルは印刷処理中に変換されます。

AFP パラメーターには \*YES を指定しなければなりません。

AFP ファイルが変換中に印刷開始されるようにしたい場合には、\*YES を入力してください。

AFP ファイルが変換中に印刷開始されるようにしたくない場合には、\*NO を入力してください。

**印刷要求タイマー** このプロンプトは、拡張印刷用に構成されていて、かつ連続用紙を使用する印刷装置の場合にのみ表示されます。

印刷要求が印刷装置に送られた後、前回の印刷出力がスタッカーに入れられるまでに待機する秒数を入力します。この印刷装置は連続用紙となっています。

有効な値は \*NOMAX および 1 ~ 3600 です。\*NOMAX は際限なく待つことを表しており、省略時の値です。

**用紙定義およびライブラリー** このプロンプトは、拡張印刷用に構成された印刷装置の場合にのみ表示されます。また、他の用紙定義がない場合に使用する用紙定義とライブラリーが、印刷要求に対して指定されていることを示します。

使用したい用紙定義の修飾名を入力してください。

省略時値は、用紙定義 F1C10110 およびライブラリー \*LIBL です。\*LIBL を使用する場合、ライブラリー・リスト内のライブラリーから用紙定義を探索します。

**DBCS 機能** この項目は、2 バイト文字セット (DBCS) 入出力装置の場合のみ該当します。印刷装置に該当する値を入力します。有効な値については、A-1ページの付録 A、『2 バイト文字セット入出力装置の構成』のリストを参照してください。

**ホスト印刷変換** このプロンプトは、ASCII 印刷装置専用です。ホスト印刷変換は、OS/400 の印刷機能の 1 つで、SNA 文字ストリング (SCS) データ・ストリームまたは拡張印刷用データ・ストリーム (AFPDS) を ASCII データ・ストリームに変換するというものです。その後 ASCII データ・ストリームは様式設定され、1 つまたは複数のハードウェア接続 (クライアント・アクセス、3477、または 3487 ワークステーションなど) により ASCII 印刷装置に送られます。変換が 1 箇所でのみ行われることにより、どんなハードウェア接続によるものであっても一貫性のある ASCII 印刷が可能になります。

ホスト印刷変換機能を利用したい場合は\*YES と入力してください。

ホスト印刷変換機能を利用したくない場合は\*NO と入力します。これが省略時の値です。

以下に示すパラメーターも使用できます。

- メーカーの種別と型式 (MFRTYPMDL)
- 用紙ソース 1 (PPRSRC1)
- 用紙ソース 2 (PPRSRC2)
- 用紙入れソース (ENVELOPE)
- ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)

ホスト印刷変換機能について詳しくは、*Printer Device Programming* を参照してください。

**ユーザー定義オプション** スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムが使用する、1 つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大 4 つまでのオプションを指定できます。

ユーザー定義オプションを指定しない場合は \*NONE と入力してください。

ドライバー・プログラムが使用するユーザー定義オプションを入力してください。これにはすべての文字が使用できます。

**ユーザー定義オブジェクト** スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムが使用する、修飾名およびユーザー定義オブジェクトを指定します。

ユーザー定義オブジェクトを指定しない場合は \*NONE と入力してください。

ユーザー定義オブジェクト名とタイプを指定してください。

データ変換プログラム スプール・ファイルを変換するユーザー定義プログラムの修飾名を指定します。

注:

1. このパラメーターは、AFP(\*YES) を指定している場合は指定しないでください。
2. このパラメーターは、TRANSFORM(\*YES) を指定している場合は指定しないでください。

ユーザー定義の変換プログラムを指定しない場合は **\*NONE** と入力してください。

ユーザー・ドライバー・プログラム ユーザー定義ドライバー・プログラムの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(\*YES) を指定している場合、あるいは DEVCLS(\*LAN)、TYPE(3812)、および LANATTACH(\*IP) を指定している場合には指定できません。

ユーザー定義ドライバー・プログラムを指定しない場合は、**\*NONE** と入力してください。

以下に示すパラメーターも使用できます。

- インターネット・プロトコル・アドレス
- 活性化タイマー
- LAN 接続印刷装置

LAN (ローカル・エリア・ネットワーク) 接続の印刷装置について詳しくは、*Printer Device Programming* を参照してください。

システム・ドライバー・プログラム システム定義のドライバー・プログラムの名前を指定します。このプログラムは、AS/400 印刷装置の出力を TCP/IP ネットワークを介して接続されている別の印刷装置に送ることができます。

注: このパラメーターは、DEVCLS(\*LAN)、TYPE(3812)、および LANATTACH(\*IP) が指定されている場合にのみ有効です。

Network Station ドライバー Network Station ドライバー・プログラムの名前を指定します。

テキスト記述 印刷装置とその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、**\*BLANK** のままにします。

以上の情報をすべて入力したなら、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示されます。印刷装置の記述が作成されたことを確認するため、F5 を押してください。作成した印刷装置記述が画面のリスト中に表示されます。

印刷装置の記述が作成されると、システムはその印刷装置の省略時の出力待ち行列を QUSRSYS ライブラリー中に自動的に作成します。出力待ち行列には、次のようなテキスト記述が入れます。

'印刷装置の省略時の出力待ち行列は xxxxxxxxxx'

ただし、xxxxxxx は印刷装置の名前です。

印刷装置の省略時の出力待ち行列は、その印刷装置の装置記述を作成したユーザーが所有するものとなります。自動構成が行われる場合には、印刷装置と出力待ち行列とは、両方ともシステム・プロファイル QPGMR が所有することになります。

何らかの理由で印刷装置の記述が作成されなかった場合は、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直すことができます。

最初のローカル印刷装置の記述を作成したなら、「装置記述処理」画面において、引き続いて他の印刷装置の記述を作成することができます。

すべてのローカル印刷装置の記述の作成を終了したなら、F5 を押してください。「装置記述処理」画面のリストにそれらが表示されます。次に実行キーを押して、「ローカル・ハードウェア構成」メニューに戻ります。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューにおいて、F16 を押して AS/400 メイン・メニューに戻ってください。

---

## ASCII ワークステーション制御装置の構成

ローカル制御装置とワークステーションの構成が終了して、ASCII ワークステーション制御装置、ASCII ワークステーション制御装置に接続した入出力装置、テープ制御装置、テープ装置、またはディスク装置を構成する必要がある場合には、エレクトロニック支援を構成しなければなりません。エレクトロニック支援通信の構成方法については、6-1ページの第6章、『エレクトロニック支援通信構成』を参照してください。これが最初の構成ではなく、AS/400 エレクトロニック支援通信が構成済みの場合は、7-1ページの第7章、『構成の保管』に進んで、構成の保管方法について調べてください。

ローカル制御装置とワークステーションの構成が終了し、ASCII ワークステーション制御装置およびこれに接続した入出力装置を構成する必要がある場合には、*ASCII Work Station Reference* を参照してください。



## 第4章 テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置の構成

ローカル制御装置とワークステーション構成は完了しており、テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置を構成する必要がある場合は、引き続きこの章を参照してください。

### テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置の構成 – はじめに

テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置の自動構成を選択しない場合は、それらを手動で構成する必要があります。この項では、テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置を手動で構成する方法について説明します。

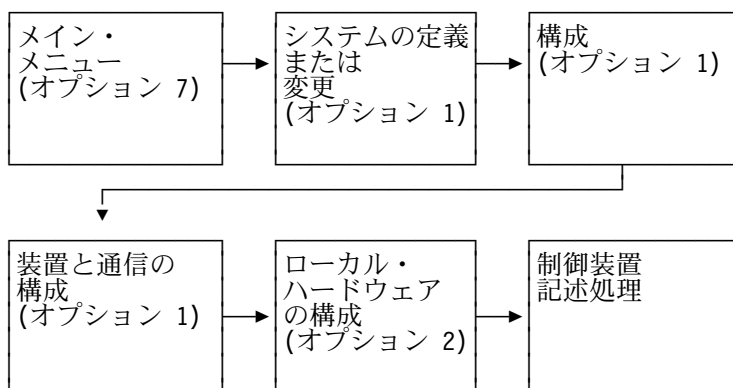
注: テープ制御装置は任意選択です。

### テープ制御装置を 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置用に構成する

テープ制御装置を必要とするシステム上で構成しているテープ装置ごとに、テープ制御装置の名前、タイプ、および型式番号を「システム情報」用紙に記入していく必要があります。テープ制御装置には、3422、3430、3480 または 3490 が含まれます。また、構成するテープ制御装置ごとに、資源名を「資源名の記録」(用紙 X1) に前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

テープ制御装置を構成するには、以下に示すステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7 (システムの定義または変更) を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
  2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1 (構成) を選択する。「構成」メニューが表示されます。
  3. 「構成」メニューから、オプション 1 (入出力装置と通信の構成) を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
  4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1 (ローカル・ハードウェアの構成) を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
  5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 2 (テープ制御装置) を選択する。「制御装置記述処理」画面が表示されます。
- 選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



システムですでに作成したテープ制御装置記述が、画面上のリストに表示されます。これが構成する最初のテープ制御装置である場合、テープ制御装置記述のリストは表示されません。

6. 「制御装置記述処理」画面において、F6（作成）キーを押す。

「制御装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成するテープ制御装置の記述の名前の入力を求められます。

テープ制御装置名については、「システム情報」用紙の該当する部分を参照してください。

「制御装置記述作成」画面の「新しい制御装置記述」欄に、その制御装置の名前を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

注:

1. 他のプロンプトに対して行った選択によっては、以下に示すプロンプトの一部が画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

## テープ制御装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**制御装置タイプ** 制御装置のタイプを入力します。これは、「システム情報」用紙でこの制御装置のものとして示されている 4 桁の番号でなければなりません。

指定できるテープ制御装置の値は、次に示すとおりです。

- \*RSCRNAME
- 3422
- 3430
- 3480

- 3490

\*RSCRNAME 値を使用すると、資源名パラメーターにより装置型式が決まります。これが省略時の値です。

**制御装置型式** テープ制御装置の型式番号を入力します。型式番号は用紙 A1 に示されています。

指定できる値は、次に示すとおりです。

**タイプ 型式**

**\*RSCRNAME \*RSCRNAME**

**3422** A01

**3430** A01

**3480** A11、A22

**3490** \*ANY

\*RSCRNAME 値を使用すると、資源名パラメーターにより装置型式が決まります。これが省略時の値です。

**資源名** 該当するテープ制御装置の資源名を入力します。この資源名は、「資源名の記録」（用紙 X1）に記録されたものです。

**注:** TYPE パラメーターに指定されている \*STG をハードウェア資源処理 (WRKHRDRSC) コマンドに指定すると、資源名を判別することができます。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にテープ制御装置記述を自動的に使用することができるかどうかを決定するものです。

該当する制御装置とそれに接続された装置を、IPL 時に自動的に使用可能にしたい場合は、\*YES と入力してください。

該当する制御装置とそれに接続された装置を、IPL 時に自動的に使用したくない場合は、\*NO と入力してください。

**制御装置の自動構成** この項目は、自動構成時にテープ装置が接続されるテープ制御装置の記述を指定するものです。

各制御装置に複数の制御装置記述を作成することができますが、自動構成制御装置記述 (AUTOCFG (\*YES) が指定されている記述) は 1 つの記述だけです。また、オンに構成変更できるのは一度に 1 つの制御装置記述だけです。新しいテープ装置が自動構成されると、それらの装置は自動構成制御装置記述に（オンに構成変更されているかどうかに関係なく）接続されます。自動構成制御装置記述が、入出力装置の自動構成の時点でオンに構成変更されていない場合、システムはその装置をオンに構成変更することができません。

自動構成制御装置記述でない場合は、\*NO と入力します。

自動構成制御装置記述であれば、\*YES と入力します。

**テキスト記述** 制御装置とその設置場所を簡潔に記述するテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押してテープ制御装置記述を作成してください。次に、「制御装置記述処理」画面が表示されます。テープ制御装置の記述が作成されたことを確認するために、F5 キーを押してください。作成したテープ制御装置記述が、この画面のリストに表示されます。

何らかの理由で制御装置記述が作成できなかった場合には、エラー・メッセージの画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「制御装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のテープ制御装置記述を作成したら、F6 を押してください。引き続き他のテープ制御装置記述を作成することができます。

すべてのテープ制御装置記述の作成を終了したら、F5 を押してください。「制御装置記述処理」画面のリスト中に表示されます。次に実行キーを押して、「ローカル・ハードウェア構成」メニューに戻ります。次の項に進んで、テープ装置を構成してください。

---

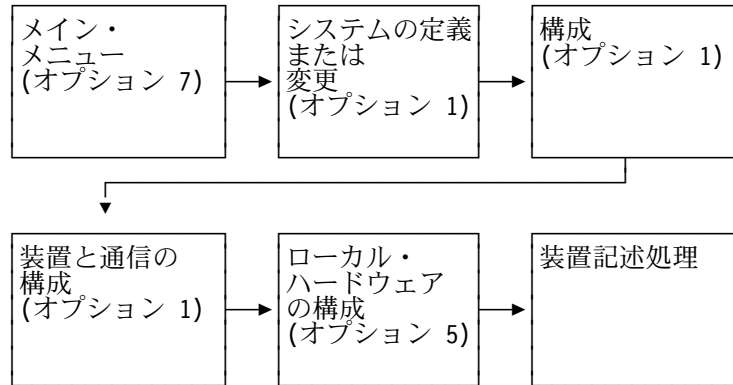
## テープ装置の構成記述の作成

システムで構成している各テープ装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成するテープ装置ごとに、「資源名の記録」（用紙 X1）に資源名を前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

テープ装置を構成するためには、次のステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 5（テープ装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



システムですでに作成されているテープ装置記述が、画面上のリストに表示されます。これが最初に構成するテープ装置である場合、テープ装置記述のリストは表示されません。

**注:** 初めて構成を実行する場合は、システムの導入に使用したテープのテープ装置記述がすでに存在しています。その名前は、システムで通常の命名規則を使用している場合、または装置アドレスに基づく命名規則を使用している場合は、TAP01 となります。システム/36 形式の命名規則を使用している場合は、T1 という名前になります。

6. 「装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面では、作成する装置記述の名前を入力するよう要求されます（「システム情報」用紙を参照）。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに、装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

**注:**

1. 他のプロンプトに対して行った選択によっては、以下に示すプロンプトの一部が画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

## テープ装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**装置タイプ** テープ装置の装置タイプを入力します。装置タイプは、用紙 A1 にあるテープ装置の囲みに示されている 4 桁の番号です。

指定できるタイプの値は以下のとおりです。

**\*RSCRNAME**

**2440**      3570

**3590**    6335  
**6378**    6379  
**6380**    6385  
**6390**    63A0  
**7208**    9347  
**9348**

\*RSCRNAME 値を使用すると、資源名パラメーターにより装置型式が決まります。これが省略時の値です。

注: 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置にはテープ制御装置が必要です。これらのテープ装置が接続されているテープ制御装置の制御装置記述は、すでに作成済みでなければなりません。

**入出力装置型式** テープ装置の装置型式を入力します。装置の型式は、「システム情報」用紙に示されています。

指定できる値は、次に示すとおりです。

**タイプ    型式**

**\*RSCRNAME**

**2440**    A12  
**3570**    B1A、B11  
**3590**    B1A、B11  
**6335**    0001  
**6378**    0001  
**6379**    0001  
**6380**    0001  
**6385**    0001  
**6390**    0001  
**63A0**    0001  
**7208**    0002、0012  
**9347**    0001  
**9348**    0001

\*RSCRNAME 値を使用すると、資源名パラメーターにより装置型式が決まります。これが省略時の値です。

**資源名**    テープ装置の資源名を入力します。この資源名は、「資源名の記録」（用紙 X1）に記録されたものです。

注: TYPE パラメーターに指定されている \*STG をハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドに指定すると、資源名を判別することができます。

**接続する制御装置** このテープ装置が接続されているテープ制御装置の名前を入力してください。このパラメーターは、3422、3430、3480、または 3490 テープ装置の場合にのみ有効です。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にテープ装置が自動的に使用可能になるかどうかを決定するものです。

IPL 時にテープ装置を自動的に使用可能にしたい場合は、**\*YES** と入力してください。

IPL 時にテープ装置を自動的に使用可能にたくない場合は、**\*NO** と入力してください。

**オン構成変更時の入出力装置割当て** この項目は、テープ装置のオン構成変更時に、3480 または 3490 テープ装置をシステムに割り当てるかどうかを指定するものです。

テープ装置をオンに構成変更する時に、3480 または 3490 テープ装置をシステムに割り当てたい場合には、**\*YES** と入力してください。

テープ装置をオンに構成変更する時に、3480 または 3490 テープ装置をシステムに割り当てたくない場合には、**\*NO** と入力してください。

**注:** オペレーティング・システム導入時に **ASSIGN** パラメーターに **\*NO** を指定すると、別のシステムがそのテープ装置を使用する場合に、そのテープ操作に障害が生じる可能性があります。

**オフ構成変更時の入出力装置のアンロード** この項目は、テープ装置のオフ構成変更時に、テープ装置をアンロードするかどうかを指定するものです。

テープ装置をオフに構成変更する時に、そのテープ装置をアンロードしたい場合には、**\*YES** と入力してください。

テープ装置をオフに構成変更する時に、そのテープ装置をアンロードしたくない場合には、**\*NO** と入力してください。

**メッセージ待ち行列とライブラリー** この項目は、このテープ装置に関するメッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーを指定します。

メッセージを **QSYSOPR** メッセージ待ち行列へ送りたい場合は、ライブラリーに **\*LIBL** を、メッセージ待ち行列に **QSYSOPR** を入力します。

操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーの修飾名を入力します。（ライブラリー修飾名を指定しないと、その待ち行列を見つけるのに **\*LIBL** が使用されます。）

**テキスト記述** このテープ装置とその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、**\*BLANK** のままにします。

以下の情報をすべて入力したら、実行キーを押してテープ装置記述を作成してください。次に、「装置記述処理」画面が表示されます。テープ装置の記述が作成されたことを確認するために、F5 キーを押してください。作成したテープ装置記述が画面のリストに表示されません。

何らかの理由でテープ装置の記述が作成されなかった場合は、エラー・メッセージの画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のテープ装置記述を作成したら、「装置記述処理」画面において、引き続き他のテープ装置記述を作成することができます。その他のテープ装置については、「システム情報」用紙にすでに記入してある情報を使用します。構成する各テープ装置ごとに、この処理を繰り返してください。

すべてのテープ装置記述の作成が終了したら、F5 を押してください。「装置記述処理」画面のリストに表示されます。その後、実行キーを押して「ローカル・ハードウェアの構成」メニューに戻ります。次の項に進んで、ディスク装置を構成してください。

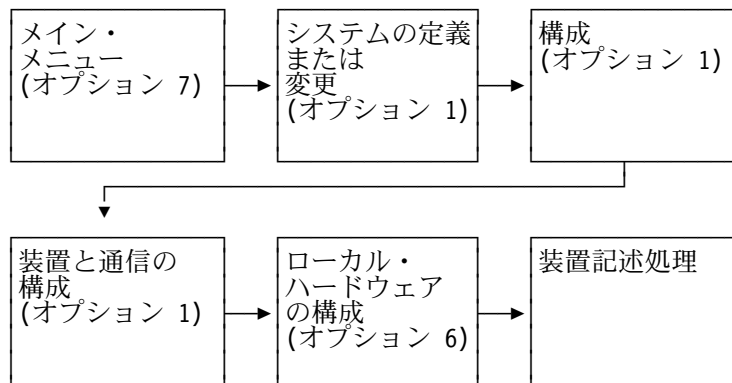
## ディスク装置の構成記述の作成

システムで構成している各ディスク装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成するディスク装置ごとに、「資源名の記録」（用紙 X1）に資源名を前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

ディスク装置を構成するためには、次のステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 6（ディスク装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



システムですでに作成されているすべてのディスク装置記述が、画面のリストに表示されます。これが構成する最初のディスク装置であれば、ディスク装置記述は表示されません（用紙 A1 を使用します）。

6. 「装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押す。



「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置の名前の入力求められます。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに、装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

**注:**

1. 他のプロンプトに対する選択に応じて、以下に示したプロンプトのうちのあるものが画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

## ディスク装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**装置タイプ** ディスク装置の装置タイプを入力します。装置タイプは、用紙 A1 の囲みに示されている 4 桁の番号です。

使用可能なディスク装置の値は 9331 です。

**入出力装置型式** 入出力装置の型式番号を入力します。装置の型式は用紙 A1 に示されています。

指定できる値は、次に示すとおりです。

**タイプ    型式**

**9331      0001、0002、0011、0012**

**資源名** ディスク装置の資源名を入力します。この資源名は、「資源名の記録」（用紙 X1）に記録されたものです。

**注:** TYPE パラメーターに指定されている \*STG をハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドに指定すると、資源名を判別することができます。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にディスク装置を自動的に使用可能にするかどうかを決定するものです。

IPL 時にディスク装置を自動的に使用可能にする場合は、\*YES と入力してください。

IPL 時にディスク装置を自動的に使用可能にたくない場合は、\*NO と入力してください。

**テキスト記述** このディスク装置とその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押してディスク装置記述を作成してください。次に、「装置記述処理」画面が表示されます。ここで作成されたディスク装置記述

を確認するには F5 を押します。すると、作成したばかりのディスク装置記述が、この画面のリスト中に表示されます。

何らかの理由でディスク装置の記述が作成されなかった場合は、エラー画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のディスク装置記述を作成したなら、「装置記述処理」画面において、引き続き他のディスク装置記述を作成することができます。その他のディスク装置については、「システム情報」用紙にすでに記入してある情報を使用します。構成する各ディスク装置ごとに、この処理を繰り返してください。

すべてのディスク装置記述の作成が終了したら、F5 を押してください。「装置記述処理」画面のリストに表示されます。その後、実行キーを押して「ローカル・ハードウェアの構成」メニューに戻ります。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューにおいて、F16 を押して AS/400 メイン・メニューに戻ってください。

---

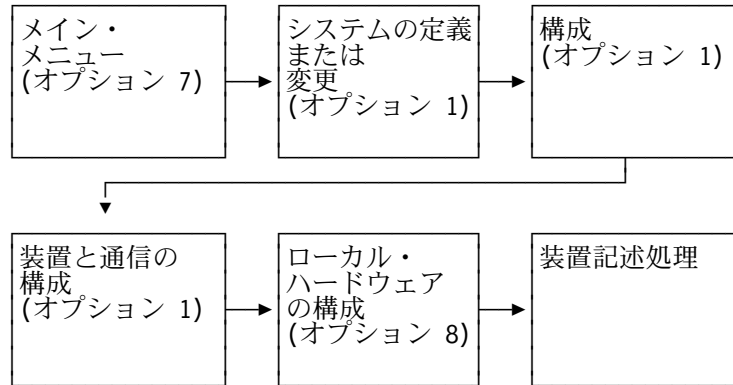
## テープ・ライブラリーの構成記述の作成

構成するテープ・ライブラリーごとに、用紙 A1 に記入してください。また、構成するテープ・ライブラリーごとに装置名および資源名が必要です。さらに、構成する媒体ライブラリー装置（テープ・ライブラリー）ごとに、「資源名の記録」（用紙 X1）に資源名を前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1 ページの第 2 章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

テープ・ライブラリーを構成するには、以下に示すステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでから以下のようにします。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 8（媒体ライブラリー装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



システムですでに作成されているすべての媒体ライブラリー記述が、画面上のリストに表示されます。これが最初に構成するテープ・ライブラリー記述である場合、テープ・ライブラリー記述のリストは表示されません。

最初の時点では、この装置記述に関連づけられたすべてのテープ・ライブラリー資源は、システムが使用するものとして割り振られています。テープ・ライブラリー内のドライブ資源の割当てを変更するには、媒体ライブラリー状況処理 (WRKMLBSTS) コマンドまたは構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。

6. 「装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置の名前の入力求められます。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに、装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

注:

1. 他のプロンプトに対する選択に応じて、以下に示したプロンプトのうちのあるものが画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

## テープ・ライブラリーのプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**装置クラス** テープ・ライブラリーを示す \*TAP を入力します。

**資源名** 該当する媒体ライブラリー装置の資源名を入力します。資源名は、その装置がオンに構成変更される前に付けなければなりません。

**注:** ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドを使用し、TYPE パラメーターに値として \*STG を指定することにより、資源名を決定することができます。

**装置タイプ** 装置タイプを資源名パラメーターから判別させるには、\*RSCRNAME と入力します。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時にテープ・ライブラリーを自動的に使用可能にするかどうかを決定するものです。

IPL 時にテープ・ライブラリーを自動的に使用可能にしたい場合は、\*YES と入力してください。

IPL 時にテープ・ライブラリーを自動的に使用可能にたくない場合には、\*NO と入力してください。

**メッセージ待ち行列とライブラリー** この項目は、このテープ・ライブラリーに関するメッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーを指定します。

メッセージを QSYSOPR メッセージ待ち行列へ送りたい場合は、ライブラリーに \*LIBL を、メッセージ待ち行列に QSYSOPR を入力します。

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列とライブラリーの修飾名を入力します。（ライブラリー修飾名を指定しないと、その待ち行列を見つけるのに \*LIBL が使用されます。）

**カートリッジ識別コードの生成** この項目には、バー・コード読取りプログラムを使用せずに、テープ・ライブラリーの各ボリュームにカートリッジ識別コードを割り当てる方法を指定します。

\*VOLID と入力すると、ボリューム識別コードがカートリッジ識別コードとして使用されます。カートリッジ識別コードは、各ボリュームをマウントしたりボリューム識別コードを読み取ることで割り当てることができます。

\*SYSGEN と入力すると、システムに各ボリュームのカートリッジ識別コードが生成されます。システム生成の識別コードを使用する場合は、テープ操作において生成済みのカートリッジ識別コードを使用する必要があります。カートリッジ識別コードは、SLT01、SLT02、SLT03 といった形で順次割り当てられていきます。

**ロボット装置記述** この項目には、別個のロボットを持つライブラリー装置のロボットを表す装置記述の名前を指定します。

**最大装置時間** この項目は、他のボリュームに対する要求がある場合に、あるボリュームを内部装置にマウントし続ける最長時間を指定します。

\*SYSGEN と入力して、システムが値を決定するようにします。

\*NOMAX と入力すると、ボリュームを無期限にマウントし続けます。

ボリュームを装てんしておける時間を分単位で指定します。有効な値の範囲は 1 ~ 600 です。

**権限** この項目では、次のようなユーザーに与える権限を指定します。

- 装置記述に対する特定権限がないユーザー。
- 権限リストに示されていないユーザー。
- 装置記述に対する特定権限がないユーザー・グループに属しているユーザー。

**テキスト記述** テープ・ライブラリーとその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押してください。テープ・ライブラリー装置の記述が作成されます。次に、「装置記述処理」画面が表示されます。ここで作成されたテープ・ライブラリー記述を確認するには F5 を押します。すると、作成したばかりのテープ・ライブラリー記述が、この画面のリスト中に表示されます。

何らかの理由でテープ・ライブラリー記述が作成されなかった場合は、エラー画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初のテープ・ライブラリー記述を作成したら、「装置記述処理」画面で他のテープ・ライブラリー記述を続けて作成することができます。構成するテープ・ライブラリーごとに、この手順を繰り返してください。

すべてのテープ・ライブラリー記述の作成が終了したら、F5 を押してください。作成したテープ・ライブラリー記述が「装置記述処理」画面のリストに表示されます。その後、実行キーを押して「ローカル・ハードウェアの構成」メニューに戻ります。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューにおいて、F16 を押して AS/400 メイン・メニューに戻ってください。



---

## 第5章 光ディスク装置 (CD-ROM) および光ディスク・ライブラリーの構成

ローカル制御装置とワークステーション構成が完了しており、テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置を構成する必要がある場合は、引き続きこの章を参照してください。

---

### 光ディスク装置の構成 – はじめに

光ディスク装置の自動構成を選択しない場合は、手動で構成しなければなりません。この項では、光ディスク装置と光ディスク・ライブラリーを手動で構成する方法について説明します。

---

### AS/400 システム用の CD-ROM 光ディスク装置の構成

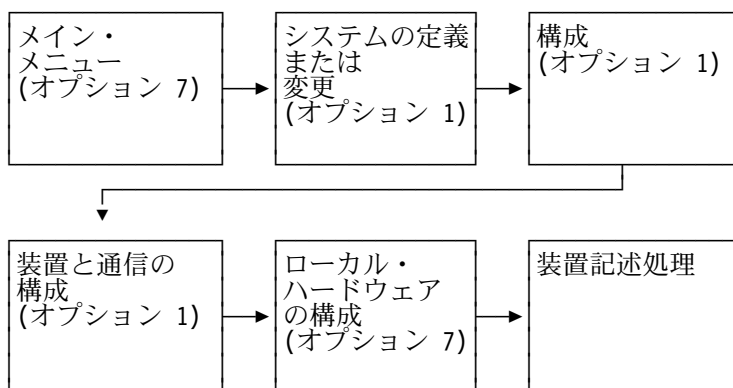
構成する光ディスク装置ごとに、「システム情報」用紙に記入してください。さらに、構成する光ディスク装置のそれぞれの資源名を「資源名の記録」（用紙 X1）に前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1 ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

システム上で構成するそれぞれの光ディスク装置には、装置名と資源名が必要です。

光ディスク装置を構成するには、以下に示すステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
6. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 7（光ディスク装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは以下のとおりです。



システムですでに作成されている光ディスク装置記述が、画面上のリストに表示されま  
す。これが最初に構成する光ディスク装置である場合、光ディスク装置記述のリストは  
表示されません。

**注:** 初めて構成を実行する場合は、システムの導入に使用した CD-ROM の光ディスク  
装置記述は、すでに存在しています。その名前は、システムで通常の命名規則を使用  
している場合、または装置アドレスに基づく命名規則を使用している場合は、  
OPT01 となります。

7. 「装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置記述の名前の入力  
を求められます。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに、装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示  
しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する  
場合だけです。

**注:**

1. 他のプロンプトに対して行った選択によっては、以下に示すプロンプトの一部が画面に  
表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示  
されます。

## 光ディスク装置のプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**装置タイプ** 光ディスク装置の装置タイプを入力します。

\*RSCRNAME 値を使用してください。装置タイプは資源名パラメーターによっ  
て決まります。

**資源名** 光ディスク装置の資源名を入力します。

**注:** TYPE パラメーターに指定されている \*STG をハードウェア資源処理  
(WRKHDWRSC) コマンドに指定すると、資源名を判別することができます。



**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時に光ディスク装置が自動的に使用可能になるかどうかを決定するものです。

IPL 時にこの光ディスク装置を自動的に使用可能にする場合は、\*YES を入力してください。

IPL 時に光ディスク装置を自動的に使用可能にたくない場合は、\*NO と入力してください。

**メッセージ待ち行列とライブラリー** この項目は、該当する光ディスク装置に関するメッセージの送り先となる、メッセージ待ち行列とライブラリーを指定します。

メッセージを QSYSOPR メッセージ待ち行列へ送りたい場合は、ライブラリーに \*LIBL を、メッセージ待ち行列に QSYSOPR を入力します。

操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーの修飾名を入力します。（ライブラリー修飾名を指定しないと、その待ち行列を見つけるのに \*LIBL が使用されます。）

**権限** この項目では、次のようなユーザーに与える権限を指定します。

- 装置記述に対する特定権限がないユーザー。
- 権限リストに示されていないユーザー。
- 装置記述に対する特定権限がないユーザー・グループに属しているユーザー。

**テキスト記述** 光ディスク装置とその設置場所を記述する簡単なテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、\*BLANK のままにします。

以上の情報を入力したら、実行キーを押してください。光ディスク装置記述が作成されます。次に、「装置記述処理」画面が表示されます。光ディスク装置記述が作成されたかどうかを確認するには、F5 キーを押します。ここで作成したばかりの光ディスク装置記述が、この画面のリストに表示されます。

何らかの理由で光ディスク装置記述が作成できなかった場合には、エラー・メッセージ画面が表示されます。このエラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初の光ディスク装置記述を作成した後に、「装置記述処理」画面で他の光ディスク装置記述を続けて作成することができます。構成する光ディスク装置ごとに、この手順を繰り返してください。

すべての光ディスク装置記述の作成が終了したら、F5 を押してください。作成した光ディスク装置記述が「装置記述処理」画面のリストに表示されます。その後、実行キーを押して「ローカル・ハードウェアの構成」メニューに戻ります。次の項に進んで、光ディスク・ライブラリーを構成してください。

## 光ディスク・ライブラリーの構成記述の作成

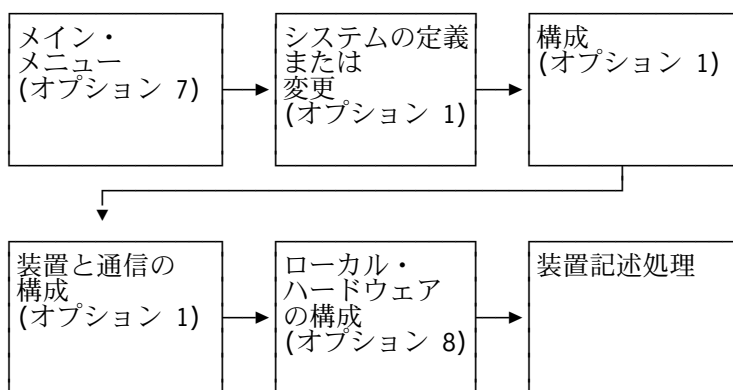
構成する光ディスク・ライブラリーごとに、「システム情報」用紙に記入してください。さらに、構成する光ディスク・ライブラリーごとに資源名を、「資源名の記録」（用紙 X1）に前もって記入しておく必要があります。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

構成する光ディスク・ライブラリーのそれぞれに、装置名および資源名が必要になります。

光ディスク・ライブラリーを構成するには、以下に示すステップに従ってください。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューがすでに表示されている場合は、そのままステップ 5 に進んでください。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 1（ローカル・ハードウェアの構成）を選択する。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「ローカル・ハードウェアの構成」メニューから、オプション 8（媒体ライブラリー装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



システムですでに作成されているすべての媒体ライブラリー記述が、画面上のリストに表示されます。これが最初に構成する媒体ライブラリーである場合、媒体ライブラリー記述は表示されません。

6. 「装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押す。

「装置記述作成」画面が表示されます。この画面で、作成する入出力装置の名前の入力を求められます。

「装置記述作成」画面の「新しい装置記述」プロンプトに、装置名を入力してください。

実行キーを押してください。プロンプトのリストが表示されます。

プロンプトの一部にはすでに値が表示されています。それらは、システムの省略時の値を示しています。それらを変更することが必要なのは、構成において省略時の値以外を選択する場合だけです。

**注:**

1. 他のプロンプトに対する選択に応じて、以下に示したプロンプトのうちのあるものが画面に表示されない場合があります。
2. F10 キーを押す必要はありません。構成に必要なその他のプロンプトは、自動的に表示されます。

## 光ディスク・ライブラリーのプロンプトの説明

各プロンプトとその有効な選択値は以下のとおりです。

**装置クラス** 光ディスク・ライブラリーに **\*OPT** と入力してください。

**資源名** 光ディスク・ライブラリーの資源名を入力します。資源名は、その装置がオンに構成変更される前に付けなければなりません。

**注:** ハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC) コマンドを使用し、TYPE パラメーターに値として \*STG を指定することにより、資源名を決定することができます。

**装置タイプ** 光ディスク・ライブラリーの装置タイプを入力します。

指定できる値は、次に示すとおりです。

- \*RSCRNAME
- 3995: IBM 3995 光ディスク・ライブラリー・データサーバー

\*RSCRNAME 値を使用すると、資源名パラメーターにより装置型式が決まります。

**IPL 時オンライン** この項目は、IPL 時に光ディスク・ライブラリー装置が自動的に使用可能になるかどうかを決定するものです。

IPL 時に光ディスク・ライブラリー装置を自動的に使用可能にする場合は、**\*YES** と入力してください。

IPL 時にこの光ディスク・ライブラリーを自動的に使用可能にたくない場合は、**\*NO** と入力してください。

**メッセージ待ち行列とライブラリー** この項目は、この光ディスク・ライブラリーに関するメッセージの送り先となるメッセージ待ち行列とライブラリーを指定します。

メッセージを QSYSOPR メッセージ待ち行列へ送りたい場合は、ライブラリーに **\*LIBL** を、メッセージ待ち行列に QSYSOPR を入力します。

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列とライブラリーの修飾名を入力します。(ライブラリー修飾名を指定しないと、その待ち行列を見つけるのに \*LIBL が使用されます。)

**待ち時間のアンロード** この項目は、システムが別の要求を待つ時間を指定して、使用可能なドライブに未解決の要求がある場合に、その装填ボリュームをアンロードする前に使用するためのものです。

**\*SYSGEN** と入力して、システムが値を決定するようにします。

待ち時間を秒単位で指定します。有効な値の範囲は、1 ~ 120 です。

**最大装置時間** この項目は、別のボリュームが要求されている場合に、あるボリュームを内部装置に装着しておける最長時間を指定します。

**\*SYSGEN** と入力して、システムが値を決定するようにします。

ボリュームを装着しておける時間を分単位で指定します。有効な値の範囲は、1～60 です。

**権限** この項目では、次のようなユーザーに与える権限を指定します。

- 装置記述に対する特定権限がないユーザー。
- 権限リストに示されていないユーザー。
- 装置記述に対する特定権限がないユーザー・グループに属しているユーザー。

**テキスト記述** 光ディスク・ライブラリーとその設置場所を簡潔に記述するテキストを入力します。最大 50 文字まで入力可能です。

テキストを指定しない場合は、**\*BLANK** のままにします。

以上の情報をすべて入力したら、実行キーを押してください。光ディスク・ライブラリーの装置記述が作成されます。次に、「装置記述処理」画面が表示されます。ここで作成された光ディスク・ライブラリー記述を確認するには F5 を押します。すると、作成したばかりの光ディスク・ライブラリー記述が、この画面のリスト中に表示されます。

何らかの理由で光ディスク・ライブラリー記述が作成できなかった場合は、エラー・メッセージ画面が表示されます。エラー画面から、以下のいずれかを実行できます。

- 有効でない項目まで戻り、その項目を訂正する。
- 「装置記述処理」画面に戻り、初めからやり直す。

最初の光ディスク・ライブラリー記述を作成した後に、「装置記述処理」画面で他の光ディスク・ライブラリー記述を続けて作成することができます。構成する光ディスク・ライブラリーごとに、この手順を繰り返してください。

すべての光ディスク・ライブラリー記述の作成が終了したら、F5 を押してください。作成した光ディスク・ライブラリー記述が「装置記述処理」画面のリストに表示されます。その後、実行キーを押して「ローカル・ハードウェアの構成」メニューに戻ります。「ローカル・ハードウェアの構成」メニューにおいて、F16 を押して AS/400 メイン・メニューに戻ってください。

---

## 第6章 エレクトロニック支援通信構成

テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置構成を完了したら、この章を参照してください。

これが最初の構成ではなく、エレクトロニック支援通信が構成済みの場合は、7-1ページの第7章、『構成の保管』を参照してください。

エレクトロニック支援通信がない場合は、7-1ページの第7章、『構成の保管』を参照してください。

---

### エレクトロニック支援の構成 – はじめに

エレクトロニック支援はオペレーティング・システムの一部であり、以下のものにユーザーがアクセスすることを可能にします。

- 質問・回答 (Q & A) 機能
- 問題分析、報告および管理機能
- IBM プロダクト情報
- 技術情報交換

IBM が提供するエレクトロニック支援通信は、すでに構成されています。しかし、システムに固有な情報については、事前に決定することができません。したがって、AS/400 システムに用意されている構成オブジェクトにいくらかの変更が必要なことがあります。この項では、この変更の実行方法について説明します。

---

### エレクトロニック支援の計画

この作業を開始するにあたって、本人、あるいはシステムの計画を担当している方が、*設備*と*その計画*を使ってサポート通信の準備をしておく必要があります。また、通信のモデムおよび回線を設置しておかなければなりません。

また、*IBMLink 出荷*パッケージの中にはサポート・データ表が入っています。この表には、サポート連絡情報の設定に必要な情報と、エレクトロニック支援通信構成に固有の情報が載せられています。この作業の実行においては、その情報を使用してください。エレクトロニック支援についての詳細は貴社担当の営業担当員にお問い合わせください。

注： その他のタイプの通信を構成する方法については、*通信構成*を参照してください。

---

### エレクトロニック支援の構成記述

エレクトロニック支援通信に関して、AS/400 システムではいくつかの構成記述を提供しています。それらの記述の大部分は変更の必要がないものです。以下の表に示すのは、システムと共に出荷される構成記述の中で削除してはならないものです。

表 6-1. 構成記述

技術情報交換	質問・回答 機能	IBM プロ ダクト情報	サービス
QTILINE	QTILINE	QTILINE	QESLINE
QTICTL	QTICTL	QTICTL	QESCTL
QTIDA	QQAHOST	QIADSP QIAPRT	QESPAP

上の表に示されている記述の中の一部に対しては、変更が必要な場合があります。記述のいずれかについて変更が必要な場合は、必要な変更内容をサポート・データ表に記載してください。

回線記述 (QESLINE および QTILINE) に変更を加えたい場合は、『回線記述の変更』に進んでください。制御装置記述 (QESCTL および QTICTL) に変更を加えたい場合は、6-3ページの『制御装置記述の変更』に進んでください。装置記述 (上の表のうち、その他の記述) に変更を加えたい場合は、6-4ページの『装置記述の変更』に進んでください。必要な変更が終了したなら、6-5ページの『追加のサポート連絡情報の入力』の項を参照してください。

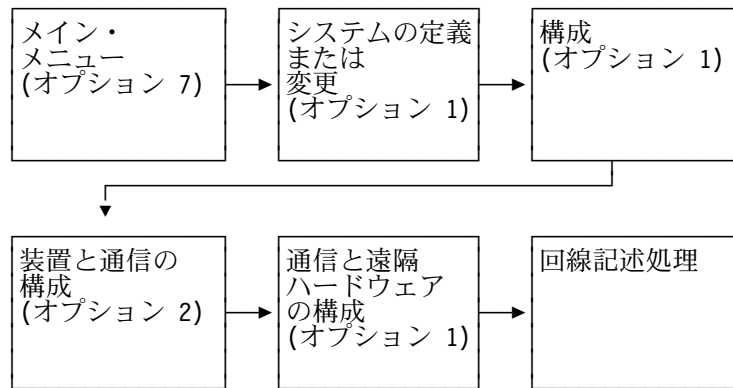
## 回線記述の変更

以下に示す手順は、通信回線記述 QTILINE または QESLINE の変更方法を示すものです。この作業を行うには、サポート・データ表が必要となります。

回線の構成記述を変更するには、以下に示すようにします。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7 (システムの定義または変更) を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1 (構成) を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1 (入出力装置と通信の構成) を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 2 (通信および遠隔ハードウェアの構成) を選択する。「通信および遠隔ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「通信および遠隔ハードウェアの構成」メニューから、オプション 1 (回線) を選択する。「回線記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



「回線記述処理」画面には、システムですでに作成されているすべての回線記述のうち、許可されているものが表示されます。その中に、QTILINE と QESLINE も含まれています。

「回線記述処理」画面において、変更の必要がある回線記述名（サポート・データ表を参照）の横に 2（変更）と入力してから、実行キーを押してください。

**注：** 複数の名前の前に 2 と入力すると、1 つの記述に対する変更情報の入力を求められた後、「回線記述処理」画面に戻る前に、残りの記述のそれぞれに対する変更情報の入力を求められます。

既存の値が入れている一連のプロンプトが表示されます。変更するプロンプトは、サポート・データ表の中にあるものだけです。

サポート・データ表に記載されているすべての情報を入力したことを確認してから、実行キーを押してください。

回線記述に対する変更を完了して実行キーを押すと、「回線記述処理」画面が表示されます。

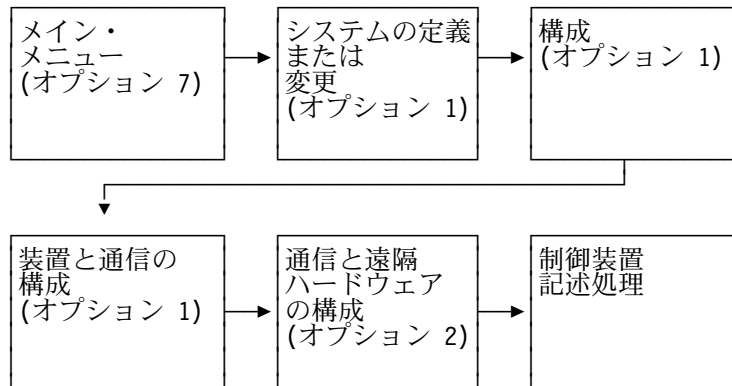
## 制御装置記述の変更

以下に示す手順は、通信制御装置記述 QTICTL または QESCTL の変更方法について説明するものです。この作業を行うには、サポート・データ表が必要となります。

制御装置の構成記述を変更するには、以下に示すようにします。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 2（通信および遠隔ハードウェアの構成）を選択する。「通信および遠隔ハードウェアの構成」メニューが表示されます。
5. 「通信およびハードウェアの構成」メニューから、オプション 2（通信制御装置）を選択する。「制御装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



「制御装置記述処理」画面には、システムですでに作成されているすべての通信制御装置記述のうち、許可されているものが表示されます。その中に、QTICTL と QESCTL が含まれています。

「制御装置記述処理」画面において、変更の必要がある制御装置記述名（サポート・データ表を参照）の横に 2（変更）と入力してから、実行キーを押してください。

**注：** 複数の名前の前に 2 と入力すると、1 つの記述に対する変更情報の入力を求められた後、「制御装置記述処理」画面に戻る前に、残りの記述のそれぞれに対する変更情報の入力を求められます。

既存の値が入れている一連のプロンプトが表示されます。変更するプロンプトは、サポート・データ表の中にあるものだけです。

サポート・データ表に記載されているすべての情報を入力したことを確認してから、実行キーを押してください。

制御装置記述の固有情報のすべてを入力してから実行キーを押すと、「制御装置記述処理」画面が表示されます。

---

## 装置記述の変更

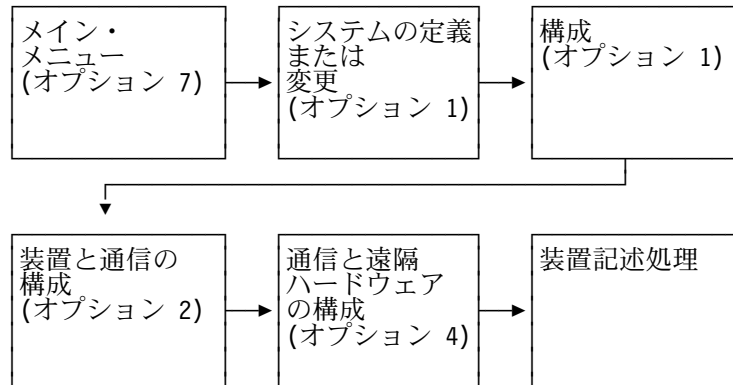
以下に示す手順は、通信装置記述の変更方法について説明するものです。この作業を行うには、サポート・データ表が必要となります。その表から変更の必要がないことが分かった場合は、6-5ページの『追加のサポート連絡情報の入力』に進んでください。入出力装置の構成記述を変更するには、以下に示すようにします。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 1（構成）を選択する。「構成」メニューが表示されます。
3. 「構成」メニューから、オプション 1（入出力装置と通信の構成）を選択する。「入出力装置と通信の構成」メニューが表示されます。
4. 「入出力装置と通信の構成」メニューから、オプション 2（通信および遠隔ハードウェアの構成）を選択する。「通信および遠隔ハードウェアの構成」メニューが表示されます。



5. 「通信および遠隔ハードウェアの構成」メニューから、オプション 4（通信入出力装置）を選択する。「装置記述処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



「装置記述処理」画面には、システムですでに作成されているすべての通信入出力記述のうち、許可されているものが表示されます。この中には、6-2ページの表6-1 に示されているものがすべて含まれています。

「装置記述処理」画面において、変更の必要がある装置記述名（サポート・データ表を参照）の横に 2（変更）と入力してから、実行キーを押してください。

**注：** 複数の名前の前に 2 と入力すると、1 つの記述に対する変更情報の入力を求められた後、「装置記述処理」画面に戻る前に、残りの記述のそれぞれに対する変更情報の入力を求められます。

既存の値が入れている一連のプロンプトが表示されます。変更するプロンプトは、サポート・データ表の中にあるものだけです。

サポート・データ表に記載されているすべての情報を入力したことを確認してから、実行キーを押してください。

装置記述の固有情報のすべてを入力してから実行キーを押すと、「装置記述処理」画面が表示されます。

---

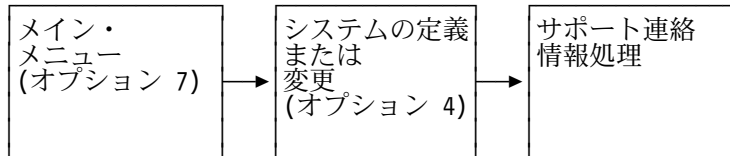
## 追加のサポート連絡情報の入力

構成記述の変更処理が完了すると、システムのサポート連絡情報の入力の準備ができたこととなります。情報は、サポート・データ表に記入されています。

サポート連絡情報を入力するには、以下に示すようにします。

1. AS/400 メイン・メニューから、オプション 7（システムの定義または変更）を選択する。「システムの定義または変更」メニューが表示されます。
2. 「システムの定義または変更」メニューから、オプション 4（サポート連絡情報処理）を選択する。「サポート連絡情報処理」画面が表示されます。

選択するメニューとオプションは、以下に示すとおりです。



「連絡情報選択」画面のオプションは、サポート・データ表に示されている見出しに一致しています。それらは、以下に示すとおりです。

- 質問と回答 (Q&A) データベース処理
- ローカル・サービス情報処理
- IBM プロダクト情報処理
- 技術情報交換 (TIE) 処理
- 上位移行発注情報処理
- サービス提供元処理

サポート・データ表に情報が記入されている見出しの各々において、1 回に 1 つずつオプションを選択します。表の情報を使用して選択を入力してください。

**注:** この作業を行う際に追加の援助が必要であれば、該当するメニューでヘルプ・キーを押してください。

エレクトロニック支援または技術情報交換 (TIE) の電話番号を変更する必要がある場合、いずれかのコマンド行に **CALL QESPHOE** または **CALL QTIPHONE** と入力してから、実行キーを押してください。新しい電話番号を入力するよう促すプロンプトが表示されます。

## 第7章 構成の保管

構成の保管に関する追加情報については、この章を参照してください。

### 構成の保管 – はじめに

システムの構成が完了したなら、その構成を保管する必要があります。また、システムの運用を開始する前に考慮しなければならない事項があります。この章では、構成を保管する方法について説明し、システムの使用開始前に考慮すべき事項を要約します。

構成作業が完了したなら、その構成を保管する必要があります。これによって、システムの導入のやり直しを必要とするシステム障害が起きた場合に、回復することが可能になります。また、保管バージョンを使用することにより、入出力装置を構成し直さなくてもシステムを再導入することが可能になります。

システム構成の保管は、以下に示すものを保管することによって行うことができます。

- 構成オブジェクトのみ、『構成オブジェクトの保管』を参照
- 構成の CL ソースのみ、『CL ソースの保管』を参照
- システム全体、7-2ページの『システム構成全体の保管』を参照

### 構成オブジェクトの保管

構成したオブジェクトだけを保管する場合には、構成保管 (SAVCFG) コマンドを使用します。構成したオブジェクトを保管するには、以下に示すことを行ってください。

1. コマンド行に **GO SAVE** を入力する。「保管」画面が表示されます。
2. 「保管」画面から、オプション 10 (構成) を選択する。

### CL ソースの保管

構成の CL ソースの保管は、「～処理」構成画面のオプション 9 (ソースの検索) を使用して行うことができます。また、コマンド行が表示されている任意の画面で構成ソース検索 (RTVCFGSRC) コマンドを入力してから F4 (プロンプト) を押すことによっても、CL ソースを保管することができます。

**注:** APPC パスワードおよび権限は検索されません。権限パラメーターを CL ソースに追加したり、オブジェクト記述の権限を変更したりすることは、オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンドを使用することによって行うことができます。**オブジェクト記述**には、オブジェクトの特性 (名前、タイプ、および所有者名など) が含まれます。**オブジェクト権限**は、システム・ユーザーがオブジェクトを使用して行えることを制御するための特殊な権限です。たとえば、オブジェクト権限には、オブジェクトの削除、移動、または名前変更が含まれます。

構成の CL ソースの保管にかかる時間は 2 ～ 3 分で、活動状態のシステムで行うことができます (サブシステムを打ち切る必要はありません)。

## システム構成全体の保管

システム全体を保管することによってシステム構成を保管するには、以下に示すようにします。

1. コマンド行に **GO SAVE** を入力する。「保管」メニューが表示されます。
2. 「保管」メニューから オプション 21 (システム全体) を選択する。

「コマンド省略時値指定」画面の「コマンドのプロンプト」プロンプトで Y を選択している場合、オプション 21 を指定すると以下のコマンドを順番に実行していきます。

- ENDSBS \*ALL OPTION(\*IMMED)
- SAVSYS
- SAVLIB LIB (\*NONSYS) ACCPTH(\*YES)
- SAVDLO DLO(\*ALL) FLR(\*ANY)
- STRSBS SBS (制御サブシステム)

構成のみを保管する場合は、SAVLIB または SAVDLO コマンドを実行する必要はありません。しかし、構成だけでなくライブラリーや文書も保管したい場合は、システム全体の保管処理を行う必要があります。

**注:** システム保管プロンプトの詳細については、該当の画面でヘルプ・キーを押してください。

システムを保管する方法について詳しくは、バックアップおよび回復の手引きを参照してください。

## システム構成のコピーの印刷

システム構成のコピーを印刷する場合には、ハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) コマンドを使用します。詳細については、2-6ページの『AS/400 システム構成の印刷』を参照してください。

## 複数システムの導入

中央設置場所で構成作業をしており、保管したシステムを送信して複数のシステムに導入することを考えている場合には、複数システムの導入について *Central Site Distribution* を参照してください。

---

## 入出力装置構成の復元

何らかの理由でシステムに保管された装置構成を復元する必要がある場合は、構成復元 (RSTCFG) コマンドを使用することができます。RSTCFG コマンドによって、1 つのグループとしてまたは個別に、複数個の構成記述を復元することができます。

RSTCFG コマンドのシステム資源管理 (SRM) パラメーターには、復元する SRM 情報のタイプを指定します。このパラメーターの省略時の値は \*ALL です。

構成記述は、復元する前にオフに構成変更しなければなりません。記述をオフに構成変更するには、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用します。

RSTCFG と VRYCFG コマンドの詳細については、そのコマンドのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

---

## システムと共に出荷されたライブラリー

システムは、永続オブジェクトが入っている以下のライブラリーとともに出荷されます。それらは、以下に示すとおりです。

- QSYS (システム・ライブラリー)
- QGDDM (グラフィックス・ライブラリー)
- QUSRSYS (ユーザーのシステム・ライブラリー)
- QDOC (文書ライブラリー)
- QHLPSYS (ヘルプ・ライブラリー)
- QTEMP (一時ライブラリー)

アプリケーションを以下のような場合に応じて、追加のライブラリーを作成する場合もあるかもしれません。

- アプリケーションのタイプ、システム・ユーザー、またはオブジェクトを使用する部門などによってオブジェクトを分類する。
- 固有名を付ける必要のない同じオブジェクトの複数のバージョンを使用できるようにする。別々のライブラリーに入っているオブジェクトは、同じ名前にすることができません。
- 重要情報が入っているオブジェクトのグループに機密保護を提供する。ライブラリー中のすべてのオブジェクトが、そのライブラリーに対する機密保護の制約の対象となります。オブジェクトの保管時における機密保護の考慮事項についてさらに詳しくは、*基本機密保護*、および *機密保護解説書* を参照してください。
- テスト用と実行用とでファイルを区別する。ライブラリーの属性は、テストまたは実行用のいずれかにすることができます。現在テストしているプログラムは、テスト・ライブラリーにあるファイルしか変更することができません。
- 物理データ・ファイルのコピーを複数個作成して、オンライン保管に使用したり、元のファイルの更新と同時に保管したりする。

初期アプリケーションに追加のライブラリーが必要な場合は、最初のシステム設定の一部として作成することもできますし、後から作成することも可能です。

---

## システムと共に出荷されたシステム機密保護機能

システムの機密保護機能には、以下に示すものについて、一連の標準ユーザー・プロファイルおよびパスワードが用意されています。

- 機密保護担当者 (QSECOFR)
- 機密保護管理者 (QSECADM)
- プログラマー (QPGMR)
- システム操作員 (QSYSOPR)
- ワークステーション・ユーザー (QUSER)
- IBM 技術員 (QSRV)

**ユーザー・プロフィール**は固有の名前を持つオブジェクトであり、これにはユーザーのパスワード、ユーザーに割り当てられている特殊な権限およびユーザーが所有するオブジェクトが含まれます。システムで機密保護機能を使用しない場合は、これらのプロフィールのパスワードの変更を考慮する必要はありません。システムで機密保護機能を使用する場合は、これらのプロフィールのパスワードを使用状況に合わせて変更することを考慮する必要があります。機密保護の考慮事項についてさらに情報が必要であれば、**基本機密保護**、および **機密保護解説書** を参照してください。

機密保護担当者のユーザー・プロフィールでは、システムのすべてのオブジェクトに対してほとんどの操作が可能です。したがって、このプロフィールの使用は、システムの機密保護の担当者限定するようにしてください。機密保護担当者のパスワードを、システムで提供されているもの (QSECOFR) から、機密保護担当者だけが知っているパスワードに変更してください。

また、システムのユーザー・プロフィールを追加作成したり、アプリケーションの機密保護の必要度に合わせてプログラマー、システム操作員、およびワークステーション・ユーザーのプロフィールを変更したりすることもできます。変更を行う前に、**IBM** 提供のオブジェクトとコマンドの省略時の許可状況を点検する必要があります。ご使用のシステムにおける機密保護について詳しくは、**基本機密保護** および **機密保護解説書** を参照してください。

---

## システムと共に出荷されたサブシステム

システムには、システムで実行するジョブの管理と制御に使用されるいくつかのサブシステムがあります。各サブシステムには、そのサブシステムの作業環境を記述する独自のサブシステム記述があります。たいいてい場合は、そのままの記述で十分です。しかし、以下の事項を考慮して、サブシステム記述に変更が必要かどうかを判断してください。

- 記憶域プールは主記憶装置の 4 メガバイトの容量を基準にしています。したがって、この主記憶装置のサイズとアプリケーションの必要度に応じて、サブシステムの属性を変更しなければならない場合があります。
- アプリケーションのサポートのために特殊な操作環境が必要な場合は、サブシステム記述を追加作成して適切な環境を作る必要があります。たとえば、すべての実行用ワークステーションを 1 つのサブシステムに集中させて、開始と停止に便利な方法を実現することができます。

*実行管理の手引き* には、サブシステムに関する詳細な情報があります。

---

## システムと共に出荷された出力待ち行列

スプール出力ファイルのために、以下に示す待ち行列がシステムに用意されています。

- 1 部用紙に使用できる印刷装置出力待ち行列 (QPRINT)
- 2 部用紙に使用できる印刷装置出力待ち行列 (QPRINT2)
- 特殊用紙に使用できる印刷装置出力待ち行列 (QPRINTS)
- ディスケット出力待ち行列 (QDKT)

以下のような場合に応じて、さらに別の出力待ち行列を作成したいと思われる場合もあるかもしれません。

- 特殊な用紙のための追加の出力待ち行列
- 各ワークステーション印刷装置用の印刷装置出力待ち行列

- 特殊な印刷ベルトまたは印刷トレーンを必要とする出力のための印刷装置出力待ち行列（たとえば、4245 および 6262 印刷装置のためのもの）

特殊な出力待ち行列を用意する場合は、特殊な用紙、印刷ベルト、または印刷トレーンを使用した時に必要となる操作員の介入の仕事量を軽減することができます。それによって、システム操作員がジョブごとに用紙、印刷ベルト、またはトレーンを取り替えなくても、特殊要件の出力をためておき、それらを一度にまとめて印刷することができます。

*Printer Device Programming* には、印刷に関連したスプーリング・サポートについての情報があります。

---

## システムと共に出荷されたシステム値

AS/400 システムでは、一連のシステム値を用意しています。それらの値によって、システムの特定の属性を指定することができます。それらのシステム値を使用することにより、システムのパフォーマンスを調整したり、システムの編集値を設定したり、省略時のライブラリー・リストを設定したり、OS/400 の始動時に一部の機能を制御したりすることができます。これらのシステム値の完全なリストと説明が *実行管理の手引き* にありますのでご覧ください。それらのシステム値について確認し、それらの属性のうち変更するものがあるかどうかを調べてください。





---

## 第8章 構成の調整

システムの導入当時に作成した構成記述は、当初はシステムにとって適切だったかもしれませんが、しかし、システムに対する要求や環境が変化すると、既存の記述の変更、新しい記述の追加、ハードウェアの設置場所の変更などの問題が生じてくる可能性があります。

構成の調整だけでなく、ワークステーションをカスタマイズすることができます。カスタマイズ機能により、以下のものをカスタマイズすることができます。

- ASCII 印刷装置
- ASCII 表示装置（キーボードを含む）
- 3477-H 型、3486、3487、3488、および 3489 平衡型表示装置に接続した ASCII 印刷装置
- 平衡型表示装置用のキーボード

ワークステーション・カスタマイズは、ASCII ワークステーションと印刷装置を AS/400 システムで使用できるように調整するための OS/400 機能です。平衡型キーボードの多くはカスタマイズが可能です。文字に関してカスタマイズ可能な文字の例としては、文字表示、フォント仕様、および制御キー順序列があります。ワークステーションのカスタマイズについてさらに詳しくは、*Workstation Customization Programming* を参照してください。

この章では、システム環境を変更した場合にシステムの調整を行う方法を説明します。

---

### 既存の構成の変更

既存の構成の変更作業は、初期構成の作成作業と非常によく似ています。変更機能では、作成機能で使ったのと同じメニューや「～処理」画面を使用します。

### メニューと「～処理」画面の使用法

既存の構成記述を変更するには、構成メニューと「～処理」構成画面を使用します。「～処理」構成画面で構成を効率的に変更するために必要な構成機能をどれでも実行することができます。

### 構成記述名の変更

最初に構成記述に割り当てた名前は、オブジェクト名変更 (RNMOBJ) コマンドを使用して変更することができます。最初に自動構成により割り当てた名前、または自分で割り当てた名前を変更する場合や、命名規則を変更する場合には 2 つの方法があります。構成記述ごとに RNMOBJ コマンドを使用する方法と、元の記述を削除してから新しい記述を作成して新しい名前を割り当てる方法です。

#### 注:

1. 命名規則を変更し、自動構成によって構成記述が作成されるようにしたい時は、元の記述を削除する必要があります。ローカル平衡型制御装置、ローカル ASCII 制御装置、テープ制御装置、媒体ライブラリー、光ディスク装置、テープ装置、ディスク装置、またはローカル平衡型入出力装置（表示装置または印刷装置）の構成記述を削除すると、自動構成では新しい命名規則を使用して新しい記述が作成されます。（自動構成では、ASCII ワークステーション制御装置に接続された入出力装置の新しい記述は作成さ

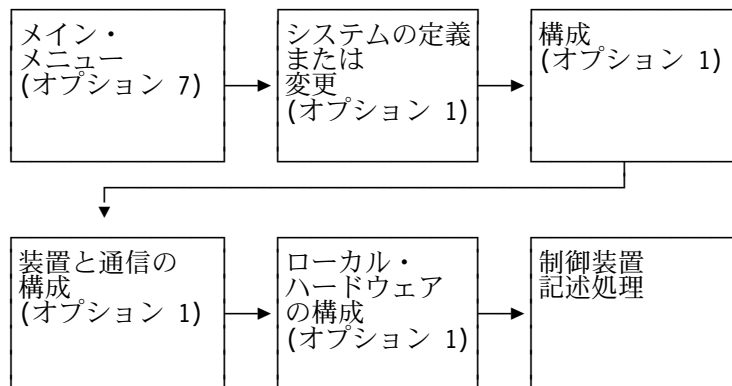
れません。それらの新しい記述は、手動で作成する必要があります。) 命名規則の変更についてさらに詳しくは、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

2. 構成記述名の先頭には Q を使用しないでください。Q で始まる名前は、システム用に予約されています。Q で始まる構成記述名を作成すると、すでに使用されている名前と重複する可能性があります。たとえば、QINCTL は OS/400 の導入時に使用される制御装置記述名として予約済みであり、QINDEV は OS/400 導入時に使用される装置記述名として予約済みです。

元の記述を削除する前に、元の記述のコピーを印刷するか、またはソース検索オプションを使用して元の記述の CL ソースのコピーをとっておき、選択項目の記録を残しておくようにしてください。このようにすれば、名前だけが異なったまったく同じ記述を作成することができます。

## ワークステーション制御装置記述の変更

ローカル平衡型制御装置または ASCII 制御装置の記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したのと同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した該当オプションを順次選択していくと、「制御装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべてのローカル制御装置記述のリストが表示されます。

この「制御装置記述処理」画面で、リストに示されている制御装置記述に対して、任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、制御装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷を行ったり、制御装置記述の構成状況の処理、制御装置記述の CL ソースの検索、また、制御装置が接続されている入出力装置すべてのアドレスの印刷を行ったりすることができます。たとえば、特定の記述を画面に表示したり印刷したりして、これに変更を加える前にその制御装置の正確な構成について知ることができます。

この「～処理」構成画面で既存の制御装置記述を変更するには、変更したい制御装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各制御装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しい制御装置がどれであるかを確認することができます。

変更する制御装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 (変更) を入力して、実行キーを押してください。

**注:** 「制御装置記述処理」画面では、複数の記述に対してオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なる制御装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に

2を入力します。一度に1つずつ各制御装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後で再び「～処理」構成画面が表示されます。

制御装置記述処理

システム : SYSNAMxxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更            3= コピー            4= 削除    5= 表示    6= 印刷    7=名前の変更  
8= 状況の処理    9= ソースの検索    12= 装置アドレスの印刷

Opt	制御装置	タイプ	テキスト
-	CTL01	6040	最初の構内ワークステーション制御装置
-	CTL02	6041	2番目の構内ワークステーション制御装置 (ASCII)
-	CTL03	6050	3番目の構内ワークステーション制御装置
-	CTL04	5294	最初の遠隔ワークステーション制御装置
-	CTL05	5294	2番目の遠隔ワークステーション制御装置

終り

パラメーターまたはコマンド  
===>

---

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写 F12=  
F14= 状況処理

その次に表示される画面には、制御装置記述に関連するプロンプトとこの制御装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象のテープ制御装置のタイプには該当しないプロンプトです。それらの値は変更しないでください。\*SAME 値を変更しようとすると、エラー・メッセージを受け取るようになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「制御装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

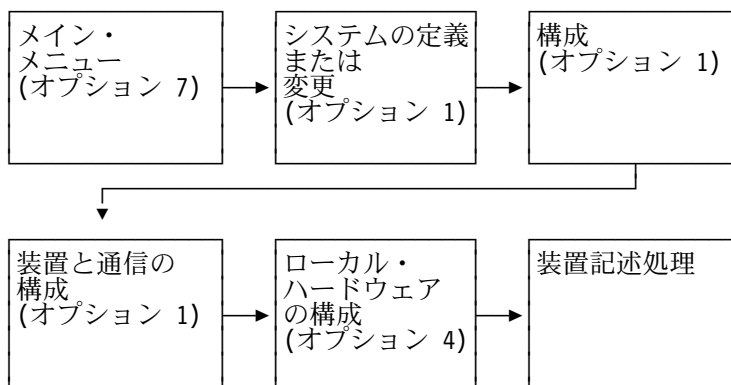
何らかの理由で制御装置記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻って訂正するか、「制御装置記述処理」画面に戻って初めからやり直すことができます。

制御装置記述を変更したら、「～処理」画面で他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## 表示装置記述の変更

ローカル平衡型または ASCII ワークステーション制御装置に接続されている表示装置の記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したものと同一メニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべての表示装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

この「装置記述処理」画面で、リストに示されている表示装置記述に対して任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、表示装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷を行ったり、表示装置記述の構成状況の処理、表示装置記述の CL ソースの検索などを行うことができます。たとえば、特定の記述を画面に表示したり印刷したりして、これに変更を加える前に、その表示装置の正確な構成について知ることができます。

この「～処理」構成画面で既存の表示装置記述を変更するには、変更したい表示装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各表示装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しい表示装置がどれであることを確認することができます。

変更する表示装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 (変更) を入力して、実行キーを押してください。

**注:** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なる表示装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ各表示装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後再び「～処理」画面が表示されます。

装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理   9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
-	DSP01	5291	操作卓 (システム操作員室)
-	DSP02	5292	広告室 2-4325
-	DSP03	5251	秘書室 2-8745
-	DSP04	5291	会計室 (PETER) 2-8801
-	DSP05	3180	会計室 (JACKIE) 2-4596
-	DSP06	3180	JAN JONES 室 2-5629
-	DSP07	5291	BOB ATHEN 室 2-7427
-	DSP08	3151	保管室 2-6372
-	DSP09	5292	副会長室 2-0906

続く .

パラメーターまたはコマンド

====>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写 F12=  
F14= 状況処理

その次に表示される画面には、表示装置記述に関連するプロンプトとこの表示装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象の表示装置のタイプには該当しないプロンプトです。この \*SAME はそのままにしておいてください。値を変更しようとするとエラーになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。(複数のプロンプト画面が表示される場合があります。)最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

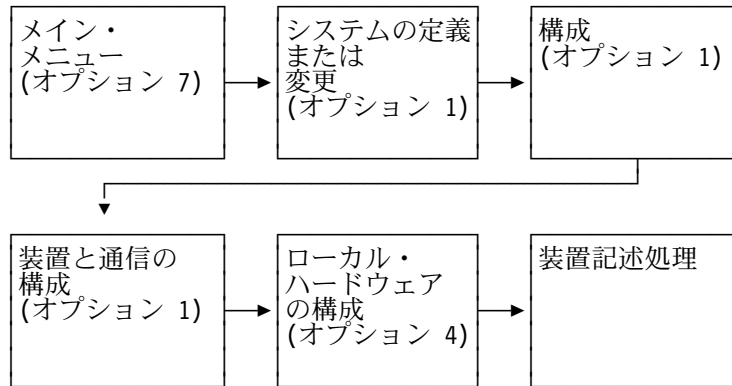
何らかの理由で表示装置の記述を変更できなかった場合は、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

表示装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## キーボード言語タイプの変更

キーボード言語タイプを変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したものと同一メニューを使用してください。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した該当オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべての表示装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

この「装置記述処理」画面で、変更オプションを選択してください。

特定の表示装置について指定したキーボード言語タイプを変更するには、変更する表示装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各表示装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しい表示装置がどれであるかを確認することができます。

変更する表示装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 (変更) を入力して、実行キーを押してください。

## 装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
-	DSP01	5291	操作卓 (システム操作員室)
-	DSP02	5292	広告室 2-4325
-	DSP03	5251	秘書室 2-8745
-	DSP04	5291	会計室 (PETER) 2-8801
-	DSP05	3180	会計室 (JACKIE) 2-4596
-	DSP06	3180	JAN JONES 室 2-5629
-	DSP07	5291	BOB ATHEN 室 2-7427
-	DSP08	3151	保管室 2-6372
-	DSP09	5292	副会長室 2-0906

続く .

パラメーターまたはコマンド

====>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写 F12=  
F14= 状況処理

その次に表示される画面には、表示装置記述に関連するプロンプトとこの表示装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。新しいキーボード言語タイプの値を入力してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象の表示装置のタイプには該当しないプロンプトです。この \*SAME はそのままにしておいてください。値を変更しようとするとエラーになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

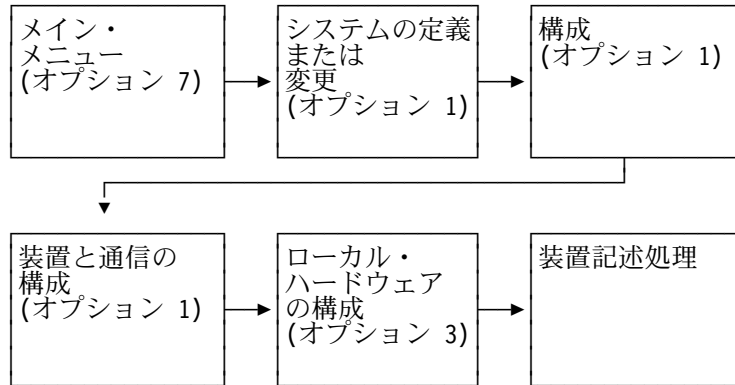
キーボード言語タイプを変更したら、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

何らかの理由で表示装置の記述を変更できなかった場合は、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## 印刷装置記述の変更

ローカル平衡型印刷装置または ASCII 印刷装置の記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したのと同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべてのローカル印刷装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

この「装置記述処理」画面で、リストに示されている印刷装置記述に対し任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、印刷装置記述の変更、コピー、削除、表示、印刷を行ったり、印刷装置記述の構成状況の処理、印刷装置記述の CL ソースの検索などを行うことができます。たとえば、特定の記述を画面に表示したりまたは印刷したりして、これに変更を加える前に、その印刷装置の正確な構成について知ることができます。

この「～処理」構成画面で既存の印刷装置記述を変更するには、変更したい印刷装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各印刷装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しい印刷装置がどれであるかを確認することができます。

変更する印刷装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 (変更) を入力してから、実行キーを押してください。

**注:** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なる印刷装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ各印刷装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後で再び「～処理」画面が表示されます。



装置記述の処理

システム : S1038507

位置指定 . . . . . 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。  
 2= 変更      3= コピー    4= 削除    5= 表示    6= 印刷    7= 名前の変更  
 8= 状況の処理    9= 原始の検索

OPT	装置	タイプ	テキスト
	GASTSTWG2	5555	GASTSTW の装置が作成された。
	HARU	*APPC	QLUS によって自動的に作成
	HARUS1	5555	HARU の装置が作成された。
	PRT01	5553	自動構成によって作成された
	P252F10	*APPC	QLUS によって自動的に作成
	P252F10A	5555	P252F10 の装置が作成された。
	P252F10B	5555	P252F10 の装置が作成された。
	QCONSOLE	5555	IPL 時に操作卓記述が作成された。
	QESPAP	*APPC	

続く ...

パラメーターまたはコマンド  
 ==>

F3= 終了      F4=プロンプト    F5= 最新表示    F6= 作成    F9=コマンド の複写  
 F12= 取消し    F14= 状況処理

その次に表示される画面には、印刷装置記述に関連するプロンプトとこの印刷装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象の印刷装置のタイプには該当しないプロンプトです。この \*SAME はそのままにしておいてください。値を変更しようとするとエラーになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

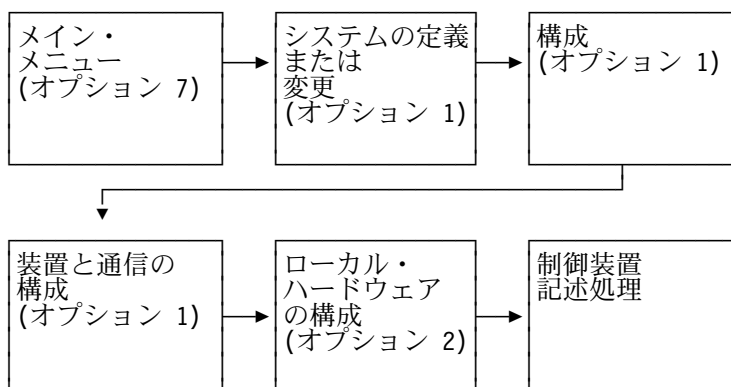
何らかの理由で印刷装置の記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

印刷装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## テープ制御装置記述の変更

テープ制御装置記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したものと  
同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した該当オプションを順次選択していくと、「制御装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべてのテープ制御装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

この「制御装置記述処理」画面で、リストに示されているテープ制御装置記述に対して、任意の構成機能を行うことができます。この画面のオプションによって、テープ制御装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷を行ったり、テープ制御装置記述の構成状況の処理、テープ制御装置記述の CL ソースの検索などを行うことができます。たとえば、特定の記述を画面に表示したり印刷したりして、これに変更を加える前に、その印刷装置の正確な構成について知ることができます。

この「～処理」構成画面で既存のテープ制御装置記述を変更するには、変更したいテープ制御装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各テープ制御装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しいテープ制御装置がどれであることを確認することができます。

変更するテープ制御装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 を入力してから、実行キーを押してください。

**注:** 「制御装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なるテープ制御装置記述を変更したい場合には、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ各テープ制御装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後に再び「～処理」画面が表示されます。

制御装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	制御装置	タイプ	テキスト
_	TAPCTL01	3422	最初のテープ制御装置

終り

パラメーターまたはコマンド

===>

---

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写 F12=  
F14= 状況処理

その次に表示される画面には、テープ制御装置記述に関連するプロンプトとこのテープ制御装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象のテープ制御装置のタイプには該当しないプロンプトです。この \*SAME はそのままにしておいてください。値を変更しようとするエラーになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「制御装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

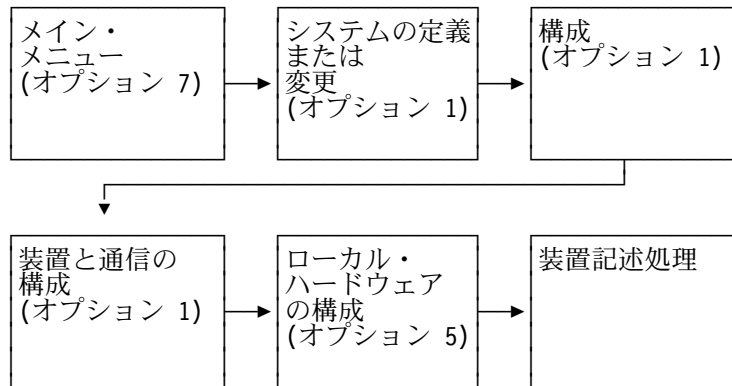
何らかの理由でテープ制御装置記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻って訂正するか、「制御装置記述処理」画面に戻って初めからやり直すことができます。

テープ制御装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## テープ装置記述の変更

テープ装置の記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したのと同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべてのテープ装置記述のリストが表示されます。

この「装置記述処理」画面で、リストに示されているテープ装置記述に対して任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、テープ装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷を行ったり、テープ装置記述の構成状況の処理、テープ装置記述の CL ソースの検索を行ったりすることができます。たとえば、特定の記述を画面に表示したり印刷したりして、これに変更を加える前に、そのテープ装置の正確な構成について知ることができます。

この「～処理」構成画面で既存のテープ装置記述を変更するには、変更したいテープ装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各テープ装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しいテープ装置がどれであるかを確認することができます。

変更するテープ装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 を入力してから、実行キーを押してください。

**注:** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なるテープ装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ各テープ装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後再び「～処理」構成画面が表示されます。

### 装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
-	TAP01	9347	最初のテープ装置
-	TAP02	9346	2 番目のテープ装置

終り

パラメーターまたはコマンド

===>

F3= 終了    F4= プロンプト    F5= 最新表示    F6= 作成    F9= コマンドの複写  
F12= 取消し    F14= 状況処理

その次に表示される画面には、テープ装置記述に関連するプロンプトとこのテープ装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象となるテープ装置のタイプには該当しないプロンプトです。それらの値は変更しないでください。\*SAME 値を変更しようとすると、エラー・メッセージを受け取ることになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

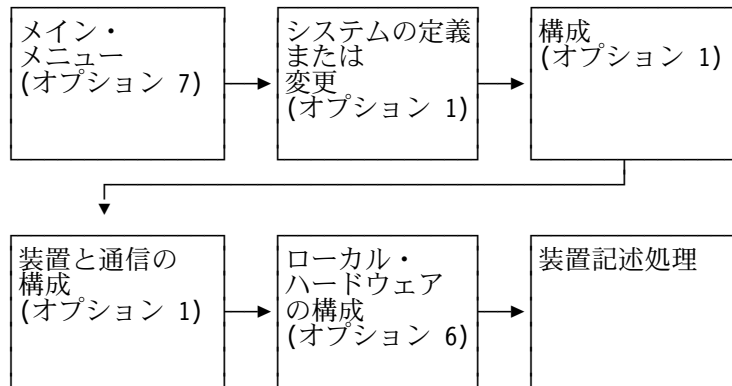
何らかの理由でテープ装置の記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

テープ装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## ディスク装置記述の変更

ディスク装置の記述を変更するには、以下に示すとおり、その記述の作成に使用したものと同一メニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべての媒体ライブラリー装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

この「装置記述処理」画面で、リストに示されているディスク装置記述に対して任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、ディスク装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷を行ったり、ディスク装置記述の構成状況の処理、ディスク装置記述の CL ソースの検索を行ったりすることができます。たとえば、ディスク装置の特定の記述を画面に表示したり印刷することによって、そのディスク装置を変更する前に正確な構成を把握することができます。

この「～処理」構成画面で既存のディスク装置記述を変更するには、変更したいディスク装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各ディスク装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しいディスク装置がどれであるかを確認することができます。

変更するディスク装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 を入力してから、実行キーを押してください。

**注：** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なるディスク装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ各ディスク装置記述ごとの変更事項を入力するよう求められ、その後で再び「～処理」画面が表示されます。

### 装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
-	DKT01	9331	最初のディスク装置
-	DKT02	9331	2 番目のディスク装置

終り

パラメーターまたはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写 F12=  
F14= 状況処理

その次に表示される画面には、ディスク装置記述に関連するプロンプトとこのディスク装置に割り当てられている現行値のリストが表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象とするディスク装置のタイプには適用されないプロンプトです。それらの値は変更しないでください。\*SAME 値を変更しようとする、エラー・メッセージを受け取ることになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

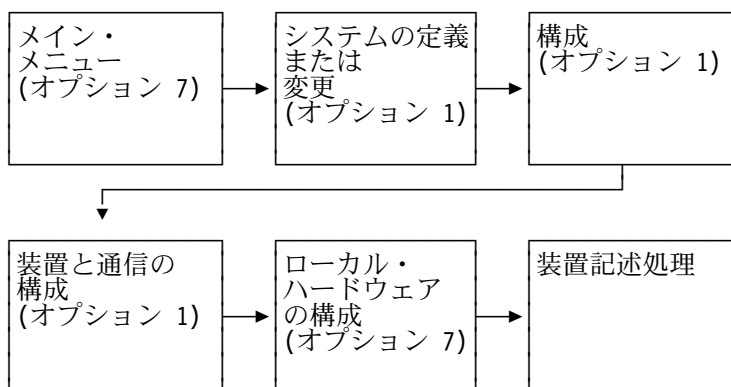
何らかの理由でディスク装置の記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

ディスク装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して他の構成作業を続けて行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## 光ディスク装置 (CD-ROM) 記述の変更

光ディスク装置の記述を変更するには、以下のようにその記述の作成に使用したのと同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべての光ディスク装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

「装置記述処理」画面から、リストに示された媒体ライブラリー装置記述に対する任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、光ディスク装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷、そして光ディスク装置記述の構成状況の処理、さらに光ディスク装置記述の CL ソースの検索などを行うことが可能です。たとえば、光ディスク装置の特定の記述を画面に表示したり印刷することによって、光ディスク装置を変更する前に正確な構成を把握することができます。

この「～処理」構成画面で既存の光ディスク装置記述を変更するには、変更したい印刷装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各光ディスク装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考にして、正しい光ディスク装置がどれであるかを確認することができます。

変更する光ディスク装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 を入力してから、実行キーを押してください。

**注:** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なる光ディスク装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ光ディスク装置記述ごとの変更事項を入力するように求められ、その後で再び「～処理」画面が表示されます。



### 装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
_	OPT01	6320	最初の光ディスク装置

終り

パラメーターまたはコマンド

==>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写  
F12= 取消し F14= 状況処理

次に表示される画面には、光ディスク装置記述に関連するプロンプトのリストと、該当する光ディスク装置に割り当てられている現行値が表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象とするディスク装置のタイプには適用されないプロンプトです。それらの値は変更しないでください。\*SAME 値を変更しようとする、エラー・メッセージを受け取ることになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

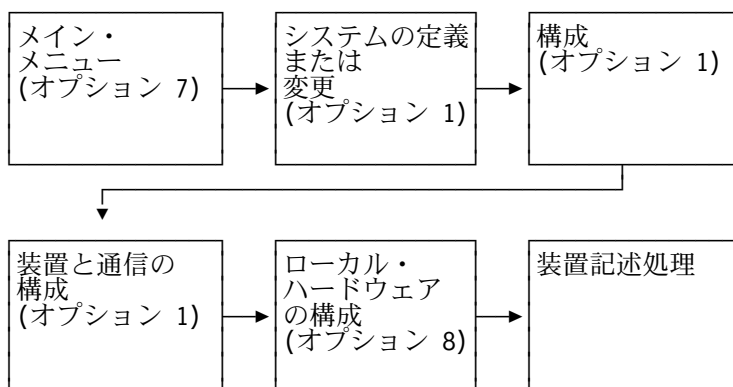
何らかの理由で光ディスク装置の記述が変更されなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

光ディスク装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して引き続きその他の構成作業を行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## 媒体ライブラリー装置記述の変更

媒体ライブラリー装置の記述を変更するには、以下のようにその記述の作成に使用したのと同じメニューを使用します。



AS/400 メイン・メニューから始めて、上の図に示した当該オプションを順次選択していくと、「装置記述処理」画面が表示されます。この画面には、システムにおいてこれまでに構成されたすべての媒体ライブラリー装置記述のうち、権限が許可されているもののリストが表示されます。

「装置記述処理」画面から、リストに示された媒体ライブラリー装置記述に対する任意の構成作業を行うことができます。この画面のオプションによって、媒体ライブラリー装置記述の変更、コピー、削除、表示、および印刷、そして媒体ライブラリー装置記述の構成状況の処理、さらに媒体ライブラリー装置記述の CL ソースの検索を行うことが可能です。たとえば、媒体ライブラリー装置の特定の記述を画面に表示したり印刷することによって、その媒体ライブラリー装置を変更する前に正確な構成を把握することができます。

この「～処理」構成画面で既存の媒体ライブラリー装置記述を変更するには、変更したい媒体ライブラリー装置の名前を知っておく必要があります。「～処理」構成画面には、各媒体ライブラリー装置に対応する名前、タイプ、およびテキストが表示されます。これを参考に、正しい媒体ライブラリー装置がどれであるかを確認することができます。

変更する媒体ライブラリー装置記述の項目の前のオプション・フィールドに 2 (変更) を入力してから、実行キーを押してください。

**注:** 「装置記述処理」画面では、複数の記述の前にオプションを入力することができます。たとえば、2 つの異なる媒体ライブラリー装置記述を変更したい場合は、両方の記述名の前に 2 を入力します。一度に 1 つずつ媒体ライブラリー装置記述ごとに変更事項を入力するように求められ、その後で再び「～処理」画面が表示されます。

装置記述処理

システム : SYSNAMxx

位置指定 . . . . . \_\_\_\_\_ 開始文字

オプションを入力して、実行キーを押してください。

2= 変更      3= コピー      4= 削除      5= 表示      6= 印刷      7= 名前の変更  
8= 状況の処理      9= ソースの検索

Opt	装置	タイプ	テキスト
-	OPTMLB01	3995	最初の光ディスク・ライブラリー
-	TAPMLB01	3994	最初のテープ・ライブラリー

終り

パラメーターまたはコマンド

===>

F3= 終了 F4= プロンプト F5= 最新表示 F6= 作成 F9= コマンドの複写  
F12= 取消し F14= 状況処理

次に表示される画面には、媒体ライブラリー装置記述に関連するプロンプトのリストと、該当する媒体ライブラリーに割り当てられている現行値が表示されます。変更したいプロンプトに対して選択値を入力し、次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。変更しないプロンプトは、そのままにしておいてください。

また、値として \*SAME が表示されているプロンプトは、対象とする媒体ライブラリー装置のタイプには適用されないプロンプトです。それらの値は変更しないでください。\*SAME 値を変更しようとする、エラー・メッセージを受け取ることになります。

**注:** 特定のプロンプトの説明については、カーソルをそのプロンプトに移動してから、ヘルプ・キーを押してください。

すべての変更するプロンプトが表示されるまで、選択値の入力を継続してください。（複数のプロンプト画面が表示される場合があります。）最後のプロンプト画面が表示された後に、実行キーを押してください。「装置記述処理」画面が表示され、変更は完了します。

何らかの理由で媒体ライブラリー装置の記述を変更できなかった場合には、エラー画面が表示されます。この画面から、正しくない項目に戻ってそれを訂正するか、「装置記述処理」画面に戻って初めからやり直してください。

媒体ライブラリー装置記述を変更したら、「～処理」画面を使用して引き続きその他の構成作業を行うことができます。

**注:** 「～処理」構成画面の使用法の詳細については、その画面のオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

## 新しい構成記述の追加

新しい表示装置と印刷装置の追加など、いつでも構成への追加を行うことができます。この項では、構成に追加を行う際に必要な事項について説明します。特定の入出力装置または制御装置の追加において必要な特殊な考慮事項についても説明します。

注:

1. システムに構成記述を追加する時、その記述は即座に有効になります。次の IPL まで待つ必要はありません。
2. 既存の記述に類似した構成記述をシステムに追加する場合は、「～処理」構成画面においてオプション 3 (コピー) を使用して既存の記述をコピーして、新しい記述を作成してください。

構成記述を新しく追加する場合には、まず最初に2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照する必要があります。その章では、ローカル平衡型の構成を行うために必要な計画用紙の記入方法について説明されています。それらの計画用紙の情報が、新しい構成記述の作成に必要となります。

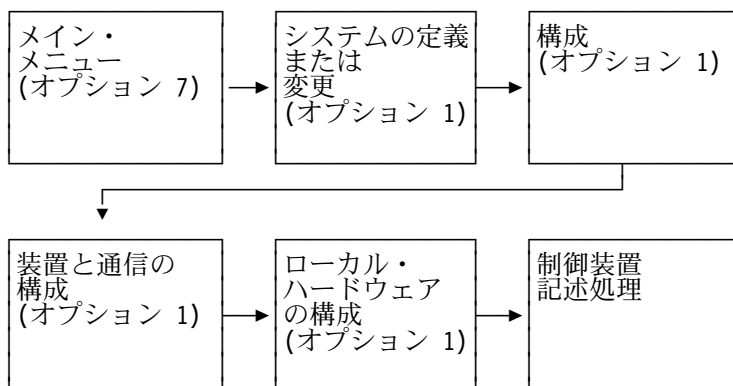
構成計画を終了したら、新しい構成記述の作成における手順と同じ手順に従ってください。これらの手順を確認する場合は、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』、または4-1ページの第4章、『テープ制御装置、テープ装置、テープ・ライブラリー、およびディスク装置の構成』を参照してください。また、ASCII 装置に対するこれらの手順を確認しなければならない場合には、*ASCII Work Station Reference* を参照してください。以下の各項にはプロンプトのリストが記載されており、各々の構成記述のプロンプトで必要とされる値が示されています。(プロンプトの中には、その使用上の制限事項に従うものもあります。) 各種プロンプトの詳しい説明については、各プロンプトのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

新しい構成記述を作成したら、システム構成のコピーを新たに印刷してください。7-2ページの『システム構成のコピーの印刷』を参照してください。

## ローカル平衡型ワークステーション制御装置の追加

自動構成を使用している場合、新しい制御装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいローカル制御装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しいローカル・ワークステーション制御装置を追加するには、以下に示すとおり、ローカル制御装置のメニューを使用します。



「制御装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押してください。

「制御装置記述作成」画面で、新しいローカル制御装置の制御装置名を入力してください。制御装置のタイプまたはクラスには、\*LWS がすでに入力されています。実行キーを押してください。

以下に、ローカル・ワークステーション制御装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規のローカル・ワークステーション制御装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成するローカル・ワークステーション制御装置ごとに、その資源名を前もって「資源名記録」（用紙 X1）に記入しておいてください。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

**注：** これらのプロンプトの中には、追加のプロンプトを表示させる F10 を押した時のみ表示されるものがあります。

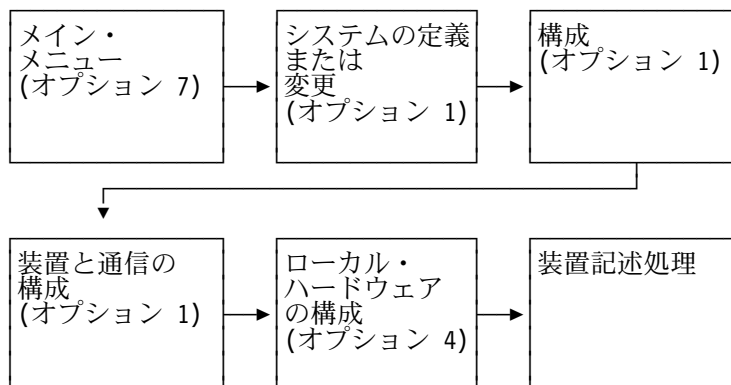
- 制御装置タイプ
- 制御装置型式
- 資源名
- IPL 時オンライン
- 入出力装置待機タイマー
- 自動構成制御装置
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、3-1ページの『ローカル平衡型ワークステーション制御装置の構成』を参照してください。

## ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する表示装置の追加

自動構成を使用している場合、新しいローカル表示装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいローカル表示装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しい表示装置をローカル・ワークステーション制御装置に追加するには、以下に示すとおり、ローカル表示装置のメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しい表示装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、すでに \*DSP が入力されています。実行キーを押してください。

以下に、ローカル表示装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規の表示装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。計画用紙の記入方法について詳しくは、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

- 装置クラス (\*LCL)
- 装置タイプ
- 装置型式
- ポート番号
- スイッチ設定 (表示装置の装置アドレス)
- IPL 時オンライン
- 接続する制御装置 (ローカル・ワークステーション制御装置の名前)
- キーボードの言語タイプ
- 文字識別コード (グラフィック文字セットとコード・ページ)
- カーソル明滅の許容
- 補助入出力装置 (補助入出力装置のタイプとアドレス。5292-2 型表示装置のみ)
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、3-5ページの『ローカル平衡型表示装置の構成』を参照してください。

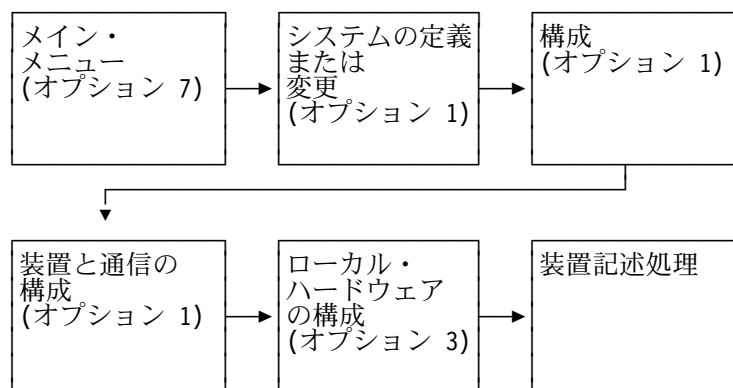
**注:** この記述を作成した後、表示装置においてサインオン画面が表示されない場合は、この表示装置がオンに構成変更されているかどうか、さらにこの表示装置を制御しているサブシステム記述にワークステーションが入っているかどうかを確認してください。表示装置が使用可能であるためには、サブシステム記述にその表示装置のタイプ (3180、3196、5291 など) が入力されていなければなりません。

平衡型キーボードのカスタマイズについては、*Workstation Customization Programming* を参照してください。

## ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する印刷装置の追加

自動構成を使用している場合、新しいローカル印刷装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいローカル印刷装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しい印刷装置をローカル・ワークステーション制御装置に追加するには、以下に示すとおり、ローカル印刷装置のメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しい印刷装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、\*PRT がすでに入力されています。実行キーを押してください。

以下に、ローカル印刷装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規のローカル印刷装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。計画用紙の記入方法について詳しくは、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

- 装置クラス (\*LCL)
- 装置タイプ
- 装置型式
- エミュレートする平衡型入出力装置
- 拡張印刷
- AFP 接続機構 (拡張印刷用に構成された印刷装置の場合)
- ポート番号
- スイッチ設定
- IPL 時オンライン
- 接続する制御装置 (ローカル・ワークステーション制御装置の名前)
- フォント識別子 (3812、3816、3912、3916、3930、および IPDS 印刷装置の場合)
- 用紙送り (5219、4214、5553、および IPDS 印刷装置の場合)
- 印刷装置エラー・メッセージ
- メッセージ待ち行列とライブラリー
- 最大保留要求数 (拡張印刷用に構成された印刷装置の場合)
- 印刷要求タイマー (拡張印刷用に構成された印刷装置の場合)
- 用紙定義およびライブラリー (拡張機能印刷用に構成された印刷装置の場合)
- ホスト印刷変換 (ホスト印刷変換機能を使用する場合)

- テキスト記述

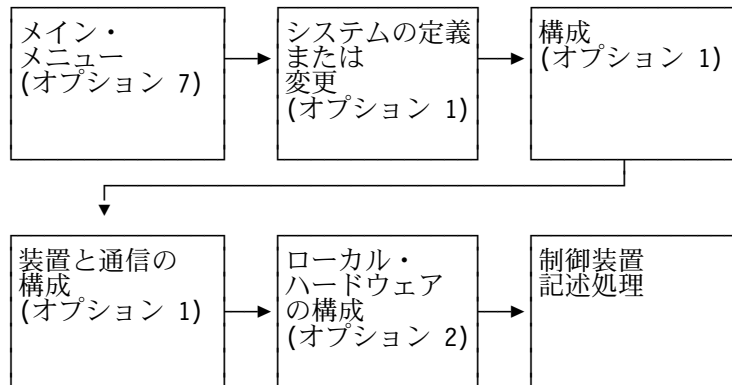
上記の各プロンプトの詳細については、3-16ページの『ローカル平衡型印刷装置の構成』を参照してください。

**注:** 「メッセージ待ち行列」プロンプトに対して、表示装置に関連付けられているメッセージ待ち行列を指定する場合は、その表示装置の記述がすでに存在していなければなりません。

## テープ制御装置の追加

自動構成を使用している場合、新しいテープ制御装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいテープ制御装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しいテープ制御装置を追加するには、以下に示すとおり、テープ制御装置のメニューを使用します。



「制御装置記述処理」画面で、F6（作成）キーを押してください。

「制御装置記述作成」画面で、新しいテープ制御装置の入出力装置名を入力してください。制御装置のタイプまたはクラスには、すでに \*TAP が入力されています。実行キーを押してください。

以下に、テープ制御装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規のテープ制御装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成する各テープ制御装置ごとに、資源名を前もって「資源名の記録」（用紙 X1）に記入しておいてください。計画用紙の記入方法について詳しくは、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

**注:** これらのプロンプトの中には、追加のプロンプトを表示させる F10 を押した時のみ表示されるものがあります。

- 制御装置タイプ
- 制御装置型式 (\*RSRCNAME 値を使用している場合は不要)
- 資源名
- IPL 時オンライン
- 自動構成制御装置
- テキスト記述

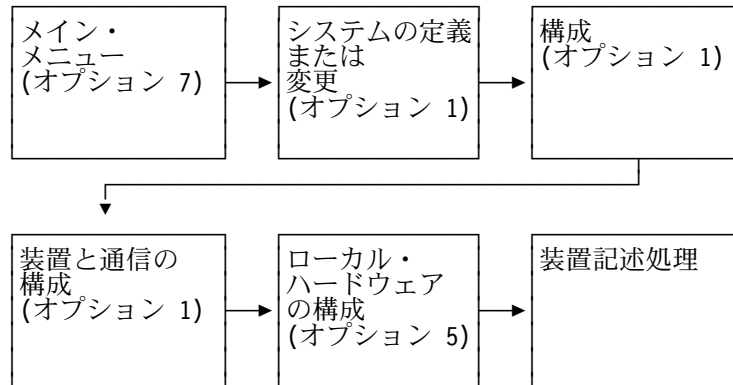


上記の各プロンプトの詳細については、4-1ページの『テープ制御装置を 3422、3430、3480、および 3490 テープ装置用に構成する』を参照してください。

## テープ装置の追加

自動構成を使用している場合、新しいテープ装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいテープ装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しいテープ装置を追加するには、以下に示すとおり、テープ装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しいテープ装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、すでに \*TAP が入力されています。実行キーを押してください。

以下に、テープ装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規のテープ装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成する各テープ装置ごとに、資源名を前もって「資源名の記録」（用紙 X1）に記入しておいてください。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

- 装置タイプ
- 装置型式 (\*RSCRNAME 値を使用している場合は不要)
- 資源名 (2440、6341、6342、6343、6344、6346、6347、6348、6349、6366、6368、6369、6378、6379、6380、6390、7208、9346、9347、および 9348 装置タイプの場合)
- スイッチ設定 (3422、3430、3480、および 3490 装置タイプの場合)
- IPL 時オンライン
- 接続制御機構名 (3422、3430、3480、および 3490 入出力装置タイプの場合)
- オン構成変更時の入出力装置割当て (3480 および 3490 装置タイプの場合)
- オフ構成変更時の入出力装置アンロード
- メッセージ待ち行列とライブラリー

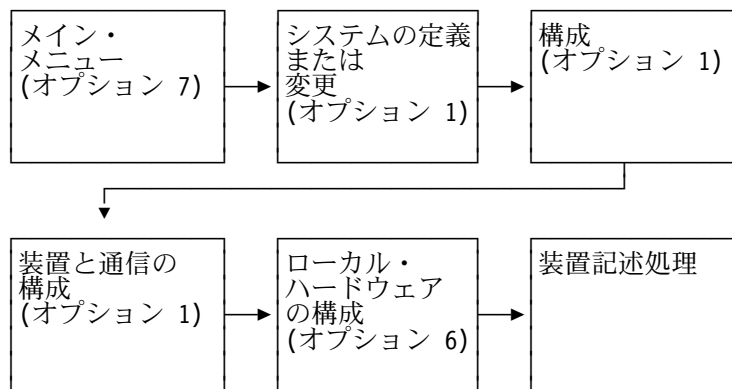
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、4-4ページの『テープ装置の構成記述の作成』を参照してください。

## ディスク装置の追加

自動構成を使用している場合、新しいディスク装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しいディスク装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しいディスク装置を追加するには、以下に示すとおり、ディスク装置のメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しいディスク装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、すでに \*DKT が入力されています。実行キーを押してください。

以下に、ディスク装置のプロンプトを示します。システムで構成している新規のディスク装置ごとに、「システム情報」用紙に情報を記入していく必要があります。また、構成するディスク装置ごとに、資源名を前もって「資源名の記録」（用紙 X1）に記入しておいてください。これらの用紙に記入する方法については、2-1ページの第2章、『手動による構成のための準備』を参照してください。

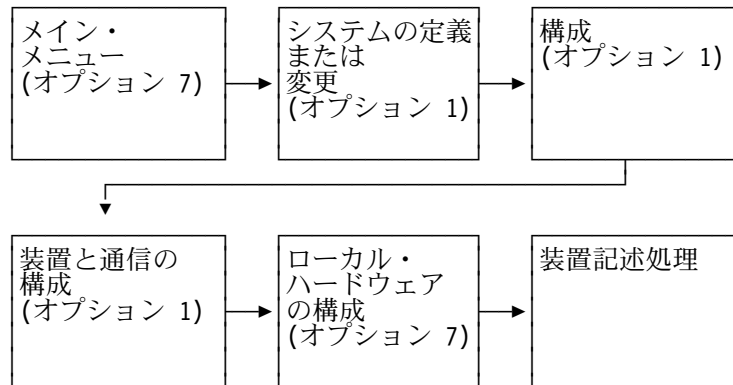
- 装置タイプ
- 装置型式
- 資源名
- IPL 時オンライン
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、4-8ページの『ディスク装置の構成記述の作成』を参照してください。

## 光ディスク装置 (CD-ROM) の追加

自動構成を使用している場合、新しい光ディスク装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しい光ディスク装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。新しい光ディスク装置を追加するには、以下のように光ディスク装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しい媒体ライブラリー装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、すでに \*OPT が入力されています。実行キーを押してください。

光ディスク装置のプロンプトを以下に示します。

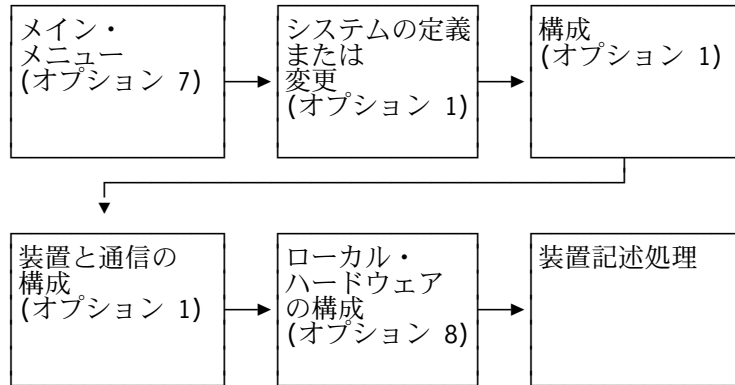
- 資源名
- 装置タイプ
- IPL 時オンライン
- メッセージ待ち行列
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、5-1ページの『AS/400 システム用の CD-ROM 光ディスク装置の構成』を参照してください。

## 媒体ライブラリー装置の追加

自動構成を使用している場合、新しい媒体ライブラリー装置の構成記述は自動的に作成されます。自動構成の詳細については、1-1ページの第1章、『システムの構成』を参照してください。

自動構成を使用していない場合は、新しい媒体ライブラリー装置の構成記述を自分で作成しなければなりません。媒体ライブラリー装置を追加するには、以下のように媒体ライブラリー装置のメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、F6（作成）を押してください。

「装置記述作成」画面で、新しい媒体ライブラリー装置の入出力装置名を入力してください。入出力装置のタイプまたはクラスには、すでに \*MLB が入力されています。実行キーを押してください。

### 光ディスク・ライブラリーの追加

光ディスク・ライブラリーのプロンプトを以下に示します。

- 装置クラス \*OPT
- 装置タイプ
- 資源名
- IPL 時オンライン
- メッセージ待ち行列
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、5-4ページの『光ディスク・ライブラリーの構成記述の作成』を参照してください。

### テープ・ライブラリーの追加

テープ・ライブラリーのプロンプトを以下に示します。

- 装置クラス \*TAP
- 装置タイプ
- 資源名
- IPL 時オンライン
- メッセージ待ち行列
- テキスト記述

上記の各プロンプトの詳細については、4-10ページの『テープ・ライブラリーの構成記述の作成』を参照してください。

---

## ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する表示装置の移設

自動構成を使用している場合、表示装置を新しいポートおよびアドレスに移設すると、新しいローカル表示装置記述が自動的に作成されます。しかし、移設される前のポートおよびアドレスに新しい入出力装置が設置されるまでは、以前の記述が自動的に削除されることはありません。

自動構成を使用していない場合、ローカル表示装置の移設時に、記述に関する作業を行う必要があります。

表示装置を同じポートのまま別の位置へ移設する場合、その表示装置アドレスを変更するのではない限り表示装置記述に変更を加える必要はありません。しかし、表示装置をケーブル上の最後の位置へ移設したり、最後の位置から移設したりする場合は、その回線の最後の入出力装置がどの入出力装置であるかをシステムに知らせる必要があります。回線の終端の表示装置の詳細については、その特定の表示装置のためのセットアップの資料を参照してください。

表示装置を同じワークステーション制御装置の別のポートに移設し、アドレスが変更になった場合には、以下のことを考慮してください。

- 表示装置の記述において、ポート番号を変更する必要があります。
- 新しいポートにすでにこの表示装置と同じアドレスの表示装置または印刷装置が接続されている場合は、この表示装置のアドレスの変更が必要です。ポート上の各装置には、固有のアドレスを割り当てる必要があります。

表示装置を別のワークステーション制御装置に移設する場合は、既存の表示装置記述を削除してから、新しい制御装置名を指定した新しい記述を作成する必要があります。既存の記述を削除する前に、記録として使用するために記述のコピーを印刷するか、あるいは「装置記述処理」画面のオプション 9（ソースの検索）を使用してその記述の CL ソースのコピーをとっておいてください。

---

## ローカル平衡型ワークステーション制御装置に接続する印刷装置の移設

自動構成を使用している場合、印刷装置を新しいポートおよびアドレスへ移設すると、新しいローカル印刷装置記述が自動的に作成されます。しかし、移設される前のポートおよびアドレスに新しい入出力装置が設置されるまでは、以前の記述が自動的に削除されることはありません。

自動構成を使用していない場合、ローカル平衡型印刷装置の移設時に、記述に関する作業を行う必要があります。

印刷装置を同じポートのまま別の位置へ移設する場合には、その印刷装置アドレスを変更するのではない限り、印刷装置記述に変更を加える必要はありません。しかし、印刷装置をケーブル上の最後の位置へ移設したり最後の位置から移設したりする場合は、その回線上の最後の入出力装置がどの入出力装置であるのかをシステムに知らせる必要があります。回線の終端にある印刷装置の詳細については、該当する印刷装置のセットアップの資料を参照してください。

印刷装置を同じワークステーション制御装置の別のポートに移設し、アドレスが変更になった場合には、以下のことを考慮してください。

- 印刷装置の記述において、ポート番号を変更する必要があります。

- 新しいポートに、この印刷装置と同じアドレスで入出力装置（表示装置または印刷装置）がすでに接続されている場合は、この印刷装置のアドレスの変更が必要です。ポート上の各装置には、固有のアドレスを割り当てる必要があります。

表示装置を別のワークステーション制御装置に移設する場合は、既存の表示装置記述を削除してから、新しい制御装置名を指定した新しい記述を作成する必要があります。既存の記述を削除する前に、記録として使用するために記述のコピーを印刷するか、あるいは「装置記述処理」画面のオプション 9（ソースの検索）を使用してその記述の CL ソースのコピーをとっておいてください。

## 第9章 構成の例

この章では、システムの構成例を示します。ここで示されている例は、構成作業の過程を理解していただくことを目的としています。個々のシステム構成ではこの例と異なっていることと思われませんが、これを構成作業のモデルとして使用してください。

### ローカル構成 — 例

この例は、以下に示すシステムで構成されています。

- 1 台の 6050 ローカル・ワークステーション制御装置
- 11 台のローカル・ワークステーション
  - 3 台の 3196-A1 型表示装置
  - 3 台の 3180-2 型表示装置
  - 1 台の 5292-2 型表示装置（補助 6180 作図装置付き）
  - 2 台の 5219-D01 型印刷装置
  - 1 台の 4214-2 型印刷装置
  - 1 台の 3816-1S 型印刷装置
- 1 台の 9331 ディスケット装置
- 1 台の 3422 テープ制御装置およびテープ装置
- 1 台の 9347 テープ装置
- 1 台の 6320 光ディスク装置 (CD-ROM)

注： この例で使用しているハードウェアの中には、一部の AS/400 システム装置でしかサポートしていないものがあります。しかし、その構成プロセスは AS/400 のすべてのモデルで同じです。どのようなシステム装置であっても、一部のハードウェアの型やモデルが異なっているかもしれないことを考慮に入れて、この例を使用することが可能です。

システムの納入前には、以下に示す各事項について設備とその計画を使用したものとします。

- 設置場所の準備
- 必要な設置空間
- 落雷保護に関する事項
- ケーブルの敷設事項
- 必要な電気的条件
- 湿度と温度条件
- 構成の計画

「システム情報」用紙は、構成作業において非常に重要です。この例では、必要な情報を記入した以下に示す用紙のコピーが必要となります。

- 装置が接続されているローカル・ワークステーション制御装置ごとに記入した、「システム情報」用紙。（この例では 1 つのローカル・ワークステーション制御装置しか使用しないため、必要となる記入済み用紙は 1 枚だけです。この例では、ポートは 5 つ使用します。）
- 「システム情報」用紙で、システムのテープ制御装置、各テープ装置、および各光ディスク装置のそれぞれについて記入された行があるもの。
- 「資源名の記録」（用紙 X1）。ローカル制御装置、テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置の資源名を記入したもの。

シカゴの設置場所のレイアウト平面図が必要です。この例における平面計画図を、図9-1に示します。この構成のシステム接続図は、9-3ページの図9-2のようになります。

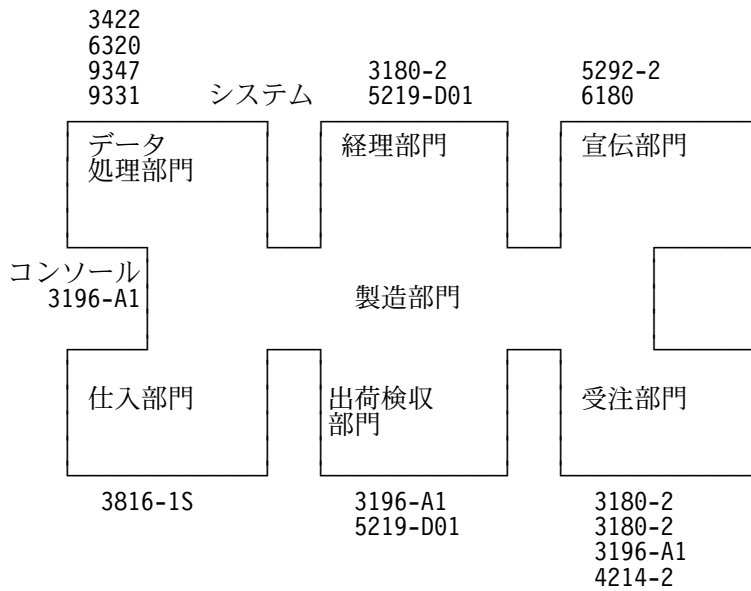


図 9-1. ローカル構成の例. システムとシステムに接続されているすべての入出力装置の配置図が必要となります。



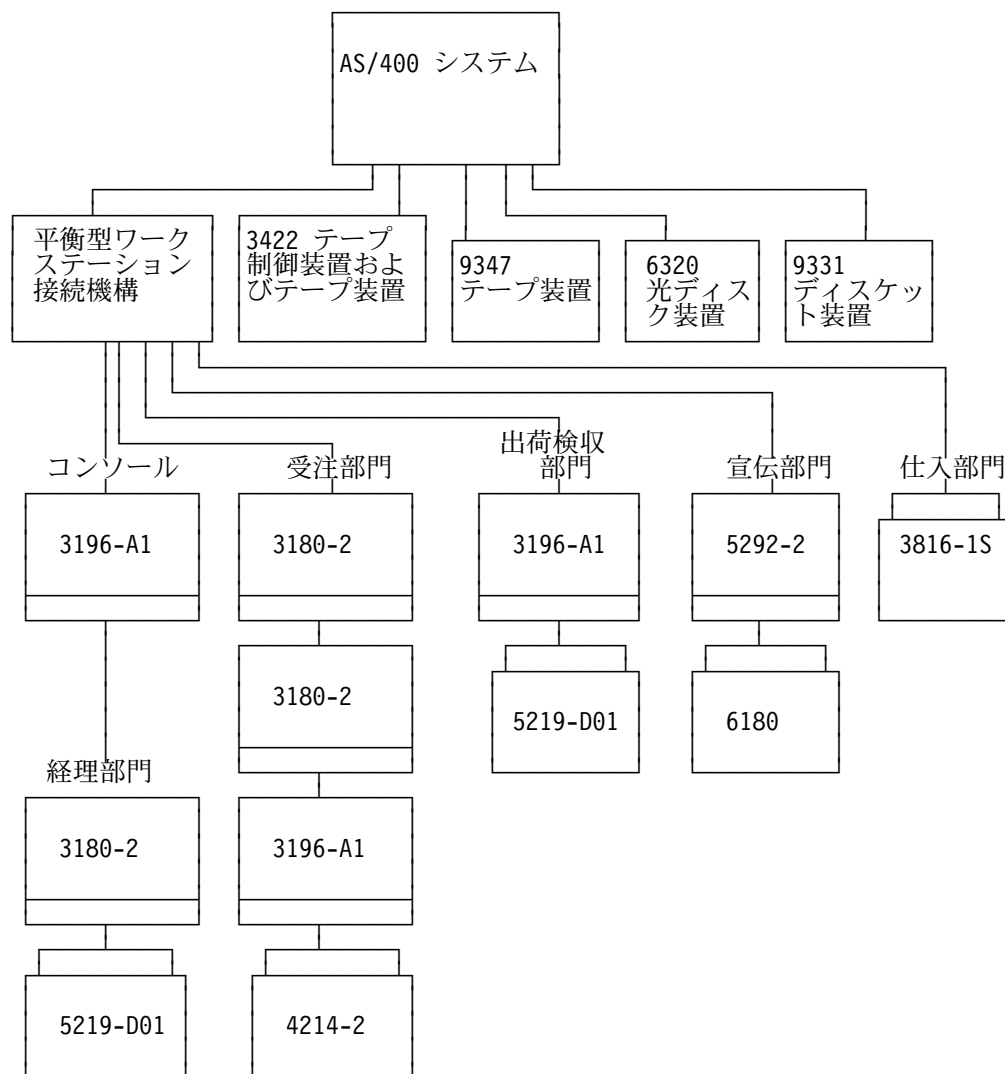


図 9-2. 物理的な接続図. これは、構成によって組み立てられるシステムを物理的に示すものです。

また、構成を行う前に必要になる作業には次のものがあります。

- システムを前もってセットアップしておく。これには、ローカル・ワークステーション制御装置とコンソールとを構成して使用可能にするという作業が含まれています。また、システムの導入に使用するテープ装置も構成されていなければなりません。
- このシステム用に発注した OS/400 およびすべてのライセンス・プログラムを、ソフトウェア導入に示されているように導入しておく。
- すべての入出力装置の個々のセットアップ解説書の指示に従って、入出力装置をすべてセットアップし、オフライン・テストを実行する。オフラインは、システムでは続けて制御することのできない機能装置の操作に適しています。
- 個々の入出力装置のセットアップ解説書にしたがって、入出力装置のすべてのケーブルを接続し、アドレス・スイッチを設定する。スイッチの設定値は、その装置についての情報を記載する「システム情報」用紙の該当する欄に記録します。

上の作業のすべてを完了し、検査して初めて、本書の例の構成が可能になります。

この例では、ローカル入出力装置に対して自動構成を使用しません。ローカル接続入出力装置の構成記述は、手動で作成します。

## ローカル制御装置の構成

構成の階層に基づいて、まずローカル制御装置を構成しなければなりません。この例では、ローカル制御装置とそのコンソールの記述は、前もって作成されています。制御装置名は CTL01、コンソール名は DISPLAY01 です。一部の計画情報は、この制御装置用の「システム情報」用紙にすでに記入されているかもしれません。この用紙は、記録として保管しておきます。

さらに、装置の接続に使用する予定の、ワークステーション制御装置のポートごとにも「システム情報」用紙を記入します。

この制御装置の構成記述は次のようなものです。

- 制御装置記述: CTL01
- 制御装置タイプ: 6050
- 制御装置形式: 1
- 資源名: CTL01
- IPL 時オンライン: \*YES
- 入出力装置待機タイマー: 10
- 自動構成制御装置: \*YES

このワークステーション制御装置の名前は CTL01 です。システムによって生成された資源名も CTL01 です。入出力装置待機タイマーは 10 で、これはローカル制御装置の省略時の値です。また、後にこの制御装置には、自動構成される新しい入出力装置が接続されることとなります (すなわち、QAUTOCFG を 1、つまり YES に変更する場合)。

## ローカル入出力装置の構成

最初に、ローカル・ワークステーション制御装置 CTL01 に接続された 12 のローカル入出力装置を構成します。

**注:** 宣伝部門の 5292 表示装置の構成は、他と多少異なります。5292-2 型はカラー図形表示装置で、6180 作図装置を接続しています。AS/400 ビジネス・グラフィック・ユーティリティーで、**作図装置**は紙上に図表を描くための装置です。この作図装置の構成記述は必要ありません。しかし、作図装置のタイプとアドレスを 5292 表示装置の「補助入出力装置」プロンプトで指定する必要があります。

コンソールはシステムによってすでに構成済みです。コンソールの構成記述は次のようになります。

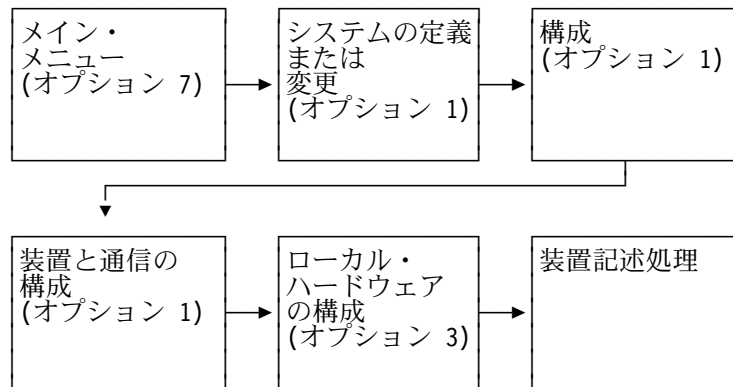
- コンソール (3196-A1 型)
  - 装置記述: DISPLAY01
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 3196
  - 装置型式: A1
  - ポート番号: 0

- スイッチ設定 (装置アドレス) : 0
- IPL 時オンライン : \*YES
- 接続する制御装置 : CTL01
- キーボードの言語タイプ : USB
- 文字識別コード : \*SYSVAL
- カーソル明滅の許容 : \*NO

注: この例では、このコンソールの名前は DISPLAY01 で、制御装置 CTL01 に接続されています。これはポート 0 に接続されていて、そのアドレスは 0 です。「システム情報」用紙には、その他のローカル装置についての計画情報が含まれています。各ローカル入出力装置につき 1 つの枠を記入しています。

### ローカル印刷装置の構成

ローカル印刷装置を構成するには、ローカル印刷装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面で、ローカル印刷装置の記述を 1 回に 1 つずつ作成することができます。その画面で F6 キー (作成) を押して、ローカル印刷装置記述の情報をプロンプトに対して入力することが必要となります。この情報の一部は、「システム情報」用紙から直接利用します。

この例で、ローカル印刷装置について入力する値を以下に示します。

- 経理部門印刷装置 (5219-D1 型)
  - 装置記述 : PRINTER01
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : 5219
  - 装置型式 : D1
  - ポート番号 : 0
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 2
  - IPL 時オンライン : \*YES
  - 接続する制御装置 : CTL01
  - フォント識別コード : 011

- 用紙送り：\*AUTOCUT
- 区切り用紙入れ：\*FILE
- 区切りプログラム：\*NONE
- 印刷装置エラー・メッセージ：\*INQ
- メッセージ待ち行列とライブラリー：\*LIBL/WSMITH
- テキスト記述：経理部門の印刷装置

この経理部門の 5219-D01 型印刷装置の名前は PRINTER01 です。その位置はポート 0 で、スイッチ設定（装置アドレス）は 2 です。（アドレス 0 はコンソールが使用しており、アドレス 1 はやはりこのポートに接続されている経理部門の表示装置が使用します。）これは、すでに構成済みのワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

この印刷装置は 5219 型なので、使用するフォントを指定する必要があります。フォント識別コード 011 は、Courier フォントです。

この印刷装置には用紙送り機構があるので、用紙送りには \*AUTOCUT を指定します。

この印刷装置宛ての操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列は WSMITH です。回復可能エラーに対しては照会メッセージが送られます。

- 受注部門の印刷装置（4214-2 型）

- 装置記述：PRINTER02
- 装置クラス：\*LCL
- 装置タイプ：4214
- 装置型式：2
- ポート番号：1
- スイッチ設定（装置アドレス）：3
- IPL 時オンライン：\*YES
- 接続する制御装置：CTL01
- 印刷装置エラー・メッセージ：\*INQ
- メッセージ待ち行列とライブラリー：\*LIBL/SJOHNSON
- テキスト記述：受注部門の印刷装置

この受注部門の 4214-2 型印刷装置の名前は PRINTER02 です。その位置はポート 1 で、スイッチ設定（入出力装置アドレス）は 3 です。（アドレス 0、1、および 2 はこの同じポートに接続されている受注部門の表示装置で使用します。システム図を参照してください。）これは、構成済みのワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

フォントと用紙送りの情報は 4214 印刷装置には適用されません。したがって、それらのプロンプトはいずれもブランクにします。

この印刷装置宛てのメッセージは、経理部門の印刷装置の場合と同様に処理されます。この印刷装置宛ての操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列は SJOHNSON です。回復可能エラーに対しては照会メッセージが送られます。

- 出荷検収部門の印刷装置 (5219-D1 型)
  - 装置記述 : PRINTER03
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : 5219
  - 装置型式 : D1
  - ポート番号 : 2
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 1
  - IPL 時オンライン : \*YES
  - 接続する制御装置 : CTL01
  - フォント識別コード : 011
  - 用紙送り : \*CONT
  - 区切り用紙入れ : \*FILE
  - 区切りプログラム : \*NONE
  - 印刷装置エラー・メッセージ : \*INQ
  - メッセージ待ち行列/ライブラリー : \*LIBL/MJONES
  - テキスト記述 : 出荷検収部門の印刷装置

この出荷検収部門の 5219-D01 型印刷装置の構成は、経理部門の印刷装置と同様です。その名前は PRINTER03 です。その位置はポート 2 で、スイッチ設定 (装置アドレス) は 1 です。(アドレス 0 はこの同じポートに接続されている出荷検収部門の表示装置で使います。システム図を参照してください。) これも、構成済みのワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

この 5219 印刷装置は、経理部門の印刷装置と同じフォント (Courier 011) を使います。しかし、この印刷装置には用紙送り機構がないため、省略時の値 \*CONT が用紙送りに指定されています。

この印刷装置宛てのメッセージは、経理部門の印刷装置の場合と同様に処理されます。この印刷装置宛ての操作メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列は MJONES です。回復可能エラーに対しては照会メッセージが送られます。

- 仕入部門の印刷装置 (3816-1S 型)
  - 装置記述 : PRINTER04
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : \*IPDS
  - 装置型式 : 0
  - 拡張印刷 : \*YES
  - AFP 接続機構 : \*WSC
  - ポート番号 : 4
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 0
  - IPL 時オンライン : \*YES

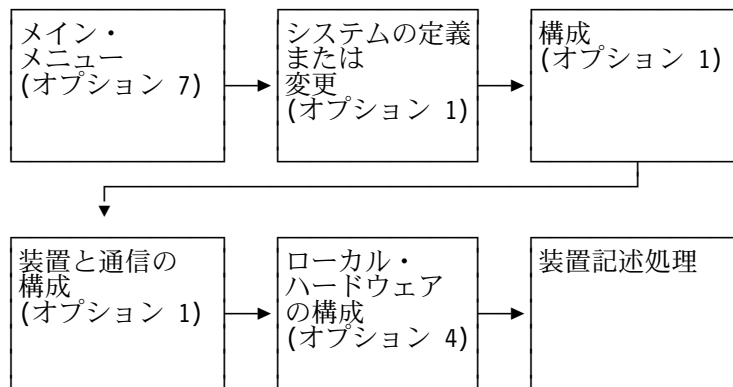
- 接続する制御装置：CTL01
- フォント識別コード：011
- 用紙送り：\*AUTOCUT
- 区切り用紙入れ：\*FILE
- 区切りプログラム：\*NONE
- 印刷装置エラー・メッセージ：\*INQ
- メッセージ待ち行列/ライブラリー：\*LIBL/MREED
- 最大保留要求数：8
- 用紙定義およびライブラリー：\*LIBL/F1C10110
- テキスト記述：仕入部門の印刷装置
- 変換中の印刷：\*YES

この仕入部門の 3816-1S 型印刷装置の名前は PRINTER04 です。拡張印刷を行うことができます。位置はポート 4 で、スイッチの設定値（装置アドレス）は 0 です。さらに、これはワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

印刷待ち行列で待機できる印刷要求の最大数は 8 です。これは書式定義 F1C10110 を使用します。

## ローカル表示の構成

ローカル表示装置の構成では、ローカル表示装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面において、ローカル表示装置の記述を 1 回に 1 つずつ作成することができます。この画面で F6 キー（作成）を押して、ローカル表示装置の情報をプロンプトに対して入力する必要があります。この情報の一部は、「システム情報」用紙から直接利用します。

この例で、ローカル表示装置について入力する値を以下に示します。

- 経理部門の表示装置（3180-2 型）
  - 装置記述：DISPLAY02
  - 装置クラス：\*LCL
  - 装置タイプ：3180

- 装置型式: 2
- ポート番号: 0
- スイッチ設定 (装置アドレス) : 1
- IPL 時オンライン: \*YES
- 接続する制御装置: CTL01
- キーボードの言語タイプ: USB
- カーソル明滅の許容: \*NO
- テキスト記述: 経理部門の印刷装置

この経理部門の 3180-2 型表示装置の名前は DISPLAY02 です。位置はポート 0 で、経理部門の印刷装置 PRINTER01 と同じポートです。スイッチ設定 (装置アドレス) は 1 です。これは、構成済みのワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

この 3180 表示装置では、構成の他のすべての表示装置と同様に米国式キーボードを使用します。

- 受注部門の表示装置 1 (3180-2 型)

- 装置記述: DISPLAY03
- 装置クラス: \*LCL
- 装置タイプ: 3180
- 装置型式: 2
- ポート番号: 1
- スイッチ設定 (装置アドレス) : 0
- IPL 時オンライン: \*YES
- 接続する制御装置: CTL01
- キーボードの言語タイプ: USB
- カーソル明滅の許容: \*NO
- テキスト記述: 受注部門の表示装置 1

この受注部門の 3180-2 型表示装置の構成は、経理部門の表示装置と同様です。位置はポート 1 で、受注部門の印刷装置 PRINTER02 と同じポートです。スイッチ設定 (装置アドレス) は 0 です。(コンソールとこの表示装置は、それぞれ異なるポートに接続されているので、同じアドレス 0 にすることができることに注意してください。)

この表示装置は、構成済みのワークステーション制御装置 CTL01 に接続されています。

- 受注部門の表示装置 2 (3180-2 型)

- 装置記述: DISPLAY04
- 装置クラス: \*LCL
- 装置タイプ: 3180
- 装置型式: 2

- ポート番号: 1
- スイッチ設定 (装置アドレス) : 1
- IPL 時オンライン: \*YES
- 接続する制御装置: CTL01
- キーボードの言語タイプ: USB
- カーソル明滅の許容: \*NO
- テキスト記述: 受注部門の表示装置 2

この受注部門の 3180-2 型表示装置の構成は、アドレス以外は受注部門の表示装置 1 と同様です。位置はポート 1 で、受注部門の表示装置 DISPLAY03 と同じポートです。スイッチ設定 (装置アドレス) は 1 であって、0 ではありません。

- 受注部門の表示装置 3 (3196-A1 型)
  - 装置記述: DISPLAY05
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 3196
  - 装置型式: A1
  - ポート番号: 1
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 2
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - 接続する制御装置: CTL01
  - キーボードの言語タイプ: USB
  - カーソル明滅の許容: \*NO
  - テキスト記述: 受注部門の表示装置 3

この受注部門の 3196-A1 型表示装置の構成は、装置タイプ、形式、およびアドレス以外は他の受注部門表示装置と同様です。その位置はポート 1 で、スイッチ設定 (装置アドレス) は 2 です。

- 出荷検収部門の表示装置 (3196-A1 型)
  - 装置記述: DISPLAY06
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 3196
  - 装置型式: A1
  - ポート番号: 2
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 0
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - 接続する制御装置: CTL01
  - キーボードの言語タイプ: USB



- カーソル明滅の許容：\*NO
- テキスト記述：出荷検収部門の表示装置

この出荷検収部門の 3196-A1 型表示装置の構成は、受注部門の 3196 表示装置と同様です。位置はポート 2 で、出荷検収部門の印刷装置 PRINTER03 と同じです。スイッチ設定（装置アドレス）は 0 です。

- 宣伝部門の表示装置（5292-2 型）
  - 装置記述：DISPLAY07
  - 装置クラス：\*LCL
  - 装置タイプ：5292
  - 装置型式：2
  - ポート番号：3
  - スイッチ設定（装置アドレス）：0
  - IPL 時オンライン：\*YES
  - 接続する制御装置：CTL01
  - キーボードの言語タイプ：USB
  - カーソル明滅の許容：\*NO
  - 補助入出力装置タイプとアドレス：6180、01
  - テキスト記述：宣伝部門の表示装置

宣伝部門の 5292 表示装置の構成は、他と多少異なります。5292-2 型はカラー図形表示装置で、6180 作図装置を接続しています。この作図装置の構成記述は必要ありません。しかし、作図装置のタイプとアドレスを 5292 表示装置の「補助入出力装置」プロンプトで指定する必要があります。

表示装置の位置はポート 3 で、他のすべての表示装置と印刷装置とは異なるポートです。スイッチ設定（装置アドレス）は 0 です。

## テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置の構成

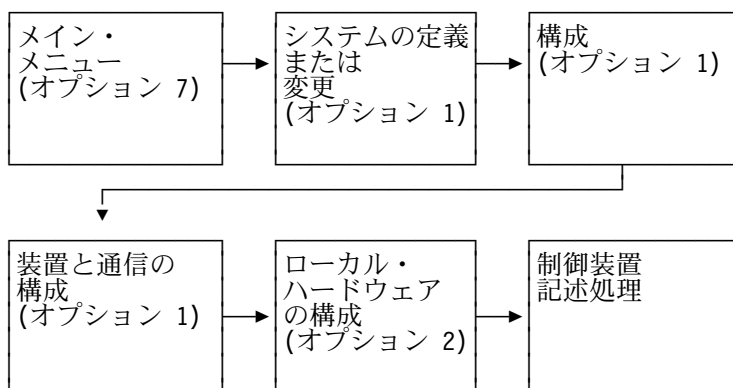
次に、テープ制御装置、テープ装置、およびディスク装置を構成する必要があります。

**注：** 3422 テープ装置は 3422 テープ制御装置に接続されています。9347 テープ装置にテープ制御装置は不要です。

「システム情報」用紙には、これらの装置についての計画情報が含まれています。

### テープ制御装置の構成

テープ制御装置を構成するには、テープ制御装置のためのメニューを使用します。



「制御装置記述処理」画面において、テープ制御装置記述を作成することができます。この画面で F6 キー（作成）を押して、テープ制御装置記述のための情報をプロンプトに対して入力する必要があります。この情報の一部は、「システム情報」用紙から直接利用します。

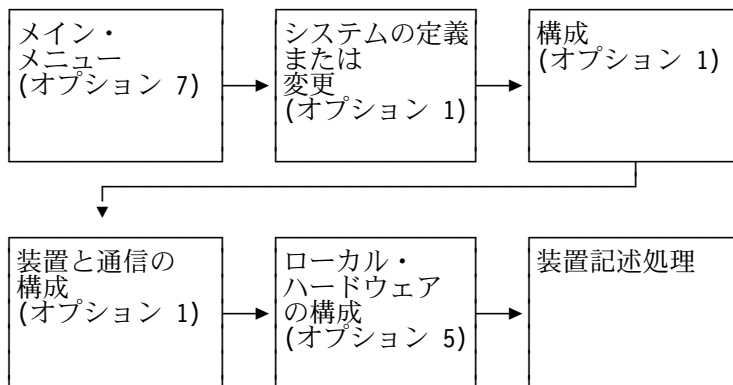
この例で、テープ制御装置について入力する値を以下に示します。

- テープ制御装置 (3422-A01 型)
  - 制御装置記述 : TAPCTL01
  - 制御装置タイプ : 3422
  - 装置型式 : A01
  - 資源名 : TAPCTL01
  - IPL 時オンライン : \*YES
  - テキスト記述 : テープ装置制御装置

このテープ制御装置には、TAPCTL01 という名前が割り当てられています。システムによって生成される資源名も TAPCTL01 です。このテープ制御装置は、IPL 時にオンに構成変更されます。

### テープ装置の構成

テープ装置を構成するためには、テープ装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面において、テープ装置の記述を 1 回に 1 つずつ作成することができます。この画面で F6 キー（作成）を押して、テープ装置記述のための情報をプロンプトに対

して入力することが必要です。この情報の一部は、「システム情報」用紙から直接利用します。

この例で、テープ装置について入力する値を以下に示します。

- 第 1 のテープ装置 (3422-A01 型)
  - 装置記述: TAPE01
  - 装置タイプ: 3422
  - 装置型式: A01
  - スイッチ設定: 1
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - 接続する制御装置: TAPCTL01
  - メッセージ待ち行列/ライブラリー: \*LIBL/QSYSOPR
  - テキスト記述: 第 1 のテープ装置

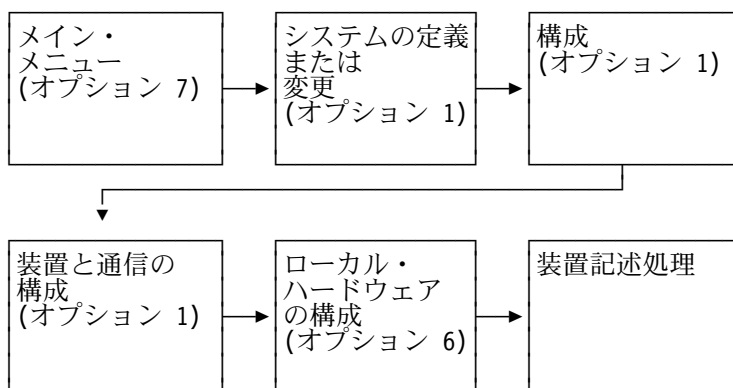
このテープ装置の名前は TAPE01 です。このテープ装置は 3422 テープ制御装置に接続されています。IPL 時にはオンに構成変更され、そのメッセージは QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られます。

- 第 2 のテープ装置 (9347-0001 型)
  - 装置記述: TAPE02
  - 装置タイプ: 9347
  - 装置型式: 0001
  - 資源名: TAP02
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - メッセージ待ち行列/ライブラリー: \*LIBL/QSYSOPR
  - テキスト記述: 第 2 のテープ装置

このテープ装置の名前は TAPE02 です。この装置はテープ制御装置に接続されていないので、資源名が必要です。この装置には、TAP02 という資源名が割り当てられています。この装置は IPL 時にオンに構成変更され、そのメッセージは QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られます。

## ディスク装置の構成

ディスク装置を構成するには、ディスク装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面において、ディスク装置の記述を作成することができます。この画面で F6 キー（作成）を押して、ディスク装置記述の情報をプロンプトに対して入力する必要があります。この情報の一部は、「システム情報」から直接利用します。

この例で、ディスク装置について入力する値を以下に示します。

- ディスク装置 (9331-0001 型)
  - 装置記述: DISKETTE01
  - 装置タイプ: 9331
  - 装置型式: 0001
  - 資源名: DKT01
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - テキスト記述: 第 1 のディスク装置

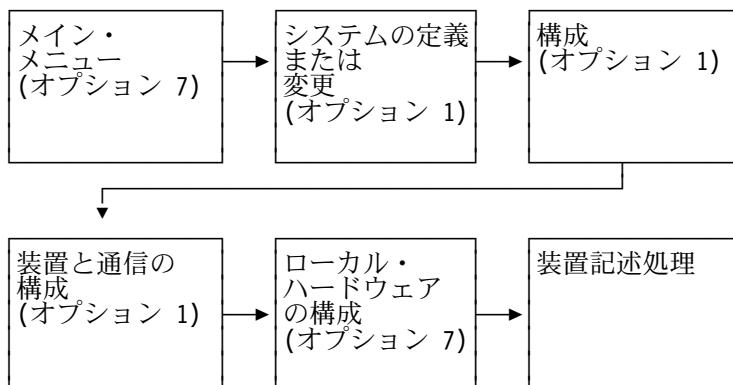
この 9331 ディスク装置の名前は DISKETTE01 です。システムが作成した資源の名前は DKT01 です。このディスク装置は IPL 時にオンに構成変更されます。

## 光ディスク装置の構成 (CD-ROM)

次に、光ディスク装置を構成する必要があります。

### 光ディスク装置の構成

光ディスク装置を構成するには、光ディスク装置のためのメニューを使用します。



「装置記述処理」画面において、光ディスク装置の記述を作成することができます。この画面で F6 キー（作成）を押して、光ディスク装置記述の情報をプロンプトに対して入力することが必要です。この情報の一部は、「システム情報」用紙から直接利用します。

この例で、光ディスク装置について入力する値を以下に示します。

- 光ディスク装置 (6320-002 型)
  - 装置記述 : OPT01
  - 装置型式 : \*RSCRNAME
  - 資源名 : OPT01
  - IPL 時オンライン : \*YES
  - テキスト記述 : CD-ROM 装置

この光ディスク装置には OPT01 という名前が割り当てられています。システムによって生成される資源名も OPT01 です。この光ディスク装置は IPL 時にオンに構成変更されます。

---

## 構成の保管

この例の構成記述がすべて作成されたら、構成保管 (SAVCFG) コマンドまたはシステム保管 (SAVSYS) コマンドを使用して構成をテープに保管します。SAVCFG コマンドは、システム構成のみを保管します。また SAVSYS コマンドは、システム構成を含むシステム全体を保管します。

システムの保管について詳しくは、7-1ページの第7章、『構成の保管』を参照してください。



## 付録A. 2 バイト文字セット入出力装置の構成

この付録では、2 バイト文字セット (DBCS) の入出力装置に固有のローカル構成情報について説明します。本書でこれまでに説明した構成情報と手順のほとんどは DBCS 入出力装置にも適用されます。しかし、DBCS 入出力装置に固有の情報は、DBCS 以外の入出力装置には適用されません。

遠隔 DBCS 装置の構成に関する情報は、*通信構成* を参照してください。

### ローカル表示装置と印刷装置

DBCS ローカル入出力装置（表示装置および印刷装置）は、他の入出力装置と同様の方法でシステムに接続します。また、システムのローカル平衡型ワークステーション制御装置にはいずれも直接接続できます。

### 装置構成のプロンプト

DBCS 入出力装置を手動で構成する際には、2 つの装置構成プロンプトに特に注意する必要があります。

### 装置タイプ (TYPE) のプロンプト

DBCS 入出力装置（表示装置と印刷装置）を構成する場合は、その入出力装置の装置タイプを装置記述中に必ず入力しなければなりません。装置タイプは 5553、5555 などの 4 桁の値です。

装置タイプによってはシステムが認識しないものがあります。そのような装置タイプについては、システムが認識できるタイプとして構成する必要があります。それによってシステムは、入出力装置をあたかも実際にその装置タイプで構成されたものであるかのように扱います。

表A-1 および A-2ページの表A-2 に、「構成上の装置タイプ」欄と「構成上の装置型式」欄における DBCS 表示装置および印刷装置のすべての装置タイプと型式番号のリストを示します。

表 A-1 (1/2). 表示装置の装置タイプおよび型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
5250 PC を実行する PS/55 または ThinkPad	すべての型式	5555	B01、C01、G01、G02、
5250 ワークステーション・プログラムを実行する PS/55 または ThinkPad	すべての型式	5555	B01、C01
PS/55 (5250 PC/2 AD を実行)	すべての型式	5555	B01、C01
PS/55 または ThinkPad (パーソナル・コミュニケーションズ/5250 を実行)	すべての型式	5555	B01、C01
PS/55 または ThinkPad (パーソナル・コミュニケーションズ/5250 + 3270 を実行)	すべての型式	5555	B01、C01

表 A-1 (2/2). 表示装置の装置タイプおよび型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
7561	J61	5555	B01、C01
5295	すべての型式	5555	B01、C01
InfoWindow 3477	J、K、S、T	5555	B01、C01

注: B01 型および E01 型はモノクロの表示装置に対応し、C01 型および F01 型はカラー表示装置に対応します。G01 型および G02 型はグラフィックス表示装置用です。G01 型はモノクロ・テキストをサポートし、G02 型はカラー・テキストをサポートします。

表 A-2. 印刷装置のタイプおよび型式

実際の装置タイプ	実際の装置型式	構成上の装置タイプ	構成上の装置型式
5583	200	5583	200
平衡型 DBCS 対応印刷装置 (5583 を除く)	-	5553	B01
PS/55、5295、および 3477 に 接続した印刷装置	-	5553	B01

## 2 バイト文字セット機能 (IGCFEAT) プロンプト

このプロンプトでは、入出力装置と言語に基づいて、表示装置と印刷装置がどのような DBCS 分類テーブルを使用するかを指定します。DBCS 表示装置と印刷装置の記述を指示に従って作成する際には、次に示す表を使用して、構成対象の入出力装置の正しい構成タイプと DBCS テーブルを判別してください。「構成上の DBCS 機能」欄の値を「DBCS 機能」プロンプトに入力してください。

注: これらの値には、2 つの英数字グループをスペースで区切っている場合と、英数字グループが 1 つだけの場合とがあります。グループが 2 つの場合の最初のグループ（または 1 つのグループだけの場合にはその単一グループ）は「入出力装置機能」プロンプトに入力し、2 番目のグループは「最後のコード」プロンプトに入力してください。



表 A-3 (1/2). DBCS 表示装置および印刷装置記述の DBCS 機能の値

言語および入出力装置	物理 DBCS ワークステーションのタイプ	構成上のタイプ - 型式	構成上の DBCS 機能
日本語表示装置	5295-001 表示装置	5555-B01	2424J4 55FE
	5295-002 表示装置	5555-B01	2424J4 68FE
	InfoWindow 3477-J	5555-B01、C01	2424J4 68FE
	5250 PC を実行する PS/55	5555-B01、C01、G01、G02	2424J4 68FE
	PS/55 (5250 PC/2 AD を実行)	5555-E01、F01	2424J0
	DOS 5250 ワークステーション・プログラムを実行するPS/55	5555-B01	2424J0
	OS/2 クライアント・アクセス/400 用に 5250 ワークステーション機能を実行する PS/55	5555-B01	2424J0
日本語 24×24 印刷装置	5295-001 表示装置に接続	5553-B01	2424J1 55FE
	5295-002 または InfoWindow 3477-J 表示装置に接続	5553-B01	2424J1 68FE
	PS/55 に接続	5553-B01	2424J1 68FE
	5407-001 印刷装置	5553-B01	2424J2 68FE
	5417-001 印刷装置	5553-B01	2424J2 68FE
	5427-001 印刷装置	5553-B01	2424J2 68FE
日本語 32×32 印刷装置	5337-001 印刷装置	5553-B01	3232J0
	5583-200 印刷装置	5583-200	3232J0
	PS/55 に接続	5553-B01	2424J1 68FE
日本語 48×48 印刷装置	PS/55 に接続	5553-B01	2424J1 68FE
	PS/55 に接続された 5586-H02 印刷装置	5553-B01	2424J1 68FE
	PS/55 に接続された 5588-H02 印刷装置	5553-B01	2424J1 68FE
韓国語表示装置	すべての表示装置	5555-B01	2424K0

表 A-3 (2/2). DBCS 表示装置および印刷装置記述の DBCS 機能の値

言語および入出力装置	物理 DBCS ワークステーションのタイプ	構成上のタイプ - 型式	構成上の DBCS 機能
韓国語 24x24 印刷装置	5295 表示装置または InfoWindow 3477-K 表示装置に接続	5553-B01	2424K0
	PS/55 に接続	5553-B01	2424K0
	5407-002 印刷装置	5553-B01	2424K2 D3FE
	5417-002 印刷装置	5553-B01	2424K2 D3FE
	5427-002 印刷装置	5553-B01	2424K2 D3FE
中国語（繁体字）表示装置	すべての表示装置	5555-B01	2424C0
中国語（繁体字）24x24 印刷装置	5295 または InfoWindow 3477-T 表示装置に接続	5553-B01	2424C0
	PS/55 に接続	5553-B01	2424C0
	5407-003 印刷装置	5553-B01	2424C2 91FE
	5417-003 印刷装置	5553-B01	2424C2 91FE
	5427-003 印刷装置	5553-B01	2424C2 91FE
中国語（繁体字）32x32 印刷装置	PS/55 に接続	5553-B01	2424C0
中国語（簡体字）表示装置	すべての表示装置	5555-B01	2424S0
中国語（簡体字）24x24 印刷装置	5295 表示装置または InfoWindow 3477-S 表示装置に接続	5553-B01	2424S0
	パーソナル・システムに接続	5553-B01	2424S0
	5407-005 印刷装置	5553-B01	2424S2 6FFE
	5417-005 印刷装置	5553-B01	2424S2 6FFE
	5427-005 印刷装置	5553-B01	2424S2 6FFE
中国語（簡体字）32x32 印刷装置	5337-R05 印刷装置	5553-B01	3232S0

## DBCS 入出力装置の自動構成

自動構成を実行すると、ローカル DBCS 入出力装置を含め、システムに接続されているすべてのローカル入出力装置（表示装置と印刷装置）が構成されます。自動構成を使用している場合は、システムが自動的にローカル接続の入出力装置の構成記述を作成します。

## DBCS 入出力装置の自動構成についての特別な考慮事項

ローカル DBCS 入出力装置の自動構成には、以下に示す制約事項があります。

- カラー・モニターを使用する場合、以下に示す入出力装置を 5555 C01 または 5555 F01 として、AS/400 システムによって自動的に構成することはできません。
    - 5295 表示装置
    - InfoWindow 3477 J、K、S、および T 表示装置
    - 日本語 5250PC バージョン 6 またはそれ以前、5250PC/A バージョン 1.5 またはそれ以前、および対応する DBCS 5250 エミュレーション・プログラムを使用する PS/55
- これらの表示装置のカラー機能をシステムに認識させるには、それら表示装置を手動で構成しなければなりません。あるカラー表示装置が AS/400 システムで自動構成できるかどうかの判別、およびその表示装置のセットアップの方法の詳細については、使用する表示装置および 5250 エミュレーション・プログラムの使用者の手引きを参照してください。
- DBCS 入出力装置によっては、その装置を AS/400 システムで作動可能にするために、自動構成で提供される「*DBCS 機能*」プロンプトの省略時値を手動で変更することが必須です。
  - その他の DBCS 入出力装置の場合、その装置のパフォーマンスを最適化するには、自動構成で提供される「*DBCS 機能*」プロンプトの省略時値の変更を手動で行う必要があります。

以下の各表に、「*DBCS 機能*」プロンプトを変更することが必須の DBCS 入出力装置、「*DBCS 機能*」プロンプトを変更することが望ましい DBCS 入出力装置、そして変更後の値を示します。

### 構成し直す必要がある DBCS 印刷装置

以下の表に示されている DBCS 印刷装置は、システムによって自動構成がなされるものの、構成し直すことが必要となる印刷装置です。これらの装置の自動構成による「*DBCS 機能*」の値は、この表の中で「*DBCS 機能の値を次の値に変更*」欄の下に示した値に変更する必要があります。

表 A-4. 自動構成される DBCS 印刷装置

言語	DBCS 入出力装置のタイプ	自動構成による DBCS 機能の値	DBCS 機能の値を次の値に変更
日本語 (モデル 001)	5337 (32×32) 印刷装置	2424J1 55FE	3232J0
韓国語 (モデル 002)	5407 (24×24) 印刷装置	2424K0	2424K2 D3FE
	5417 (24×24) 印刷装置	2424K0	2424K2 D3FE
	5427 (24×24) 印刷装置	2424K0	2424K2 D3FE
中国語 (繁体字) (モデル 005)	5407 (24×24) 印刷装置	2424C0	2424C2 91FE
	5417 (24×24) 印刷装置	2424C0	2424C2 91FE
	5427 (24×24) 印刷装置	2424C0	2424C2 91FE
中国語 (簡体字) (モデル 005)	5407 (24×24) 印刷装置	2424S0	2424S2 6FFE
	5417 (24×24) 印刷装置	2424S0	2424S2 6FFE
	5427 (24×24) 印刷装置	2424S0	2424S2 6FFE

## 構成し直すが望ましい DBCS 入出力装置

以下の表に示されている 2 バイト文字セット入出力装置（表示装置と印刷装置）は、システムによって自動構成がなされるものの、パフォーマンスを向上させるために手動で構成し直すが望ましい装置です。記載されている入出力装置の DBCS 機能は、この表の「*DBCS 機能の推奨値*」欄の下に示した値に変更することが勧められています。

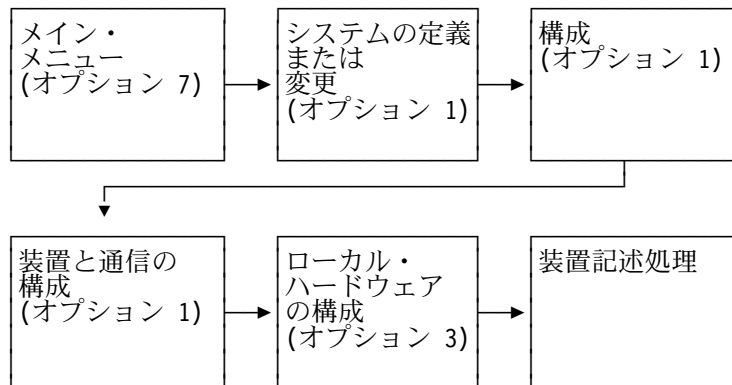
表 A-5. 手動で構成し直すが望ましい DBCS 入出力装置

言語	DBCS 入出力装置のタイプ	自動構成による DBCS 機能の値	DBCS 機能の推奨値
日本語	5250PC を実行する PS/55 または ThinkPad	2424J4 55FE	2424J4 68FE
日本語	5295、3477、および PS/55 表示装置に接続されている すべての印刷装置	2424J1 55FE	2424J1 68FE
日本語 (モデル 001)	5407 (24×24) 印刷装置	2424J1 55FE	2424J2 68FE
日本語 (モデル 001)	5417 (24×24) 印刷装置	2424J1 55FE	2424J2 68FE
日本語 (モデル 001)	5427 (24×24) 印刷装置	2424J1 55FE	2424J2 68FE

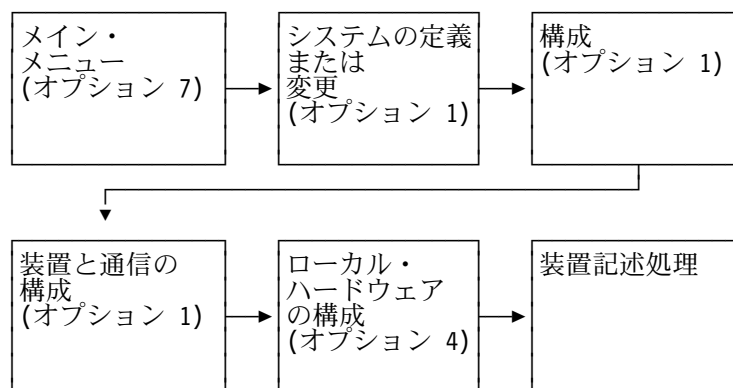
## DBCS 機能の変更

自動構成で作成された入出力装置記述の「*DBCS 機能*」プロンプトの値を変更するには、ローカル印刷装置またはローカル表示装置のためのメニューを使用します。

ローカル印刷装置のためのメニューを以下に示します。



ローカル表示装置のためのメニューを以下に示します。



「装置記述処理」画面において、DBCS 機能の変更が必要な表示装置または印刷装置の横にオプション 2 (変更) を入力します。

プロンプトのリストが表示されます。複数個のプロンプト画面が表示される場合があります。最初の画面に「DBCS 機能」のプロンプトが表示されていない場合は、そのプロンプトが表示されるまで次ページ・キーまたは前ページ・キーを押してください。

「DBCS 機能」プロンプトの値を変更してから、実行キーを押してください。

すべての入出力装置記述を変更するまで、これを続けてください。再び「装置記述処理」画面が表示されます。

## 日本語 DBCS 表示装置に関する考慮事項

日本語 DBCS 表示装置では、EBCDIC カタカナ・コード・ページを使用します。拡張 2 進化 10 進コード (EBCDIC) は、8 バイトのコード化文字から成るコード化文字セットです。1 バイトの英小文字と 1 バイトのカタカナを同時に表示させることはできません。この制約内で作業する代替方法として、JKB と JUB の 2 つの日本語のキーボード・タイプを使用できます。

JKB キーボード・タイプの日本語 DBCS 表示装置には、以下に示すものを表示させることができます。

- 2 バイトの漢字
- 2 バイトおよび 1 バイトのカタカナ
- 2 バイトおよび 1 バイト (大文字のみ) の英字

JUB キーボード・タイプの日本語 DBCS 表示装置には、以下に示すものを表示させることができます。

- 2 バイトの漢字
- 2 バイトおよび 1 バイトの英字 (大文字と小文字の両方)

DBCS 表示装置によっては、1 バイトの英小文字と 1 バイトのカタカナのいずれかを選択して使用することができます。自動構成を使用すると、表示装置のための適切なキーボード・タイプを AS/400 システムが判別します。キーボード・タイプの詳細については、3-14 ページの表 3-6 を参照してください。

ご使用の DBCS 表示装置がキーボード・タイプ JUB の使用をサポートしているか知りたい場合には、日本語 5250 PC 使用者の手引きまたは InfoWindow 3477 表示装置 使用者の手引きを参照してください。

## 構成の例

以下に示す例では、次のことを示します。

- ローカル日本語 DBCS ワークステーションをワークステーション制御装置に接続する方法。
- ローカル韓国語、中国語（簡体字）、および中国語（繁体字） DBCS ワークステーションをワークステーション制御装置に接続する方法。

各図の後に、入出力装置のために使用する制御装置記述および入出力装置記述を示します。

### 日本語 DBCS ワークステーションのローカル構成例

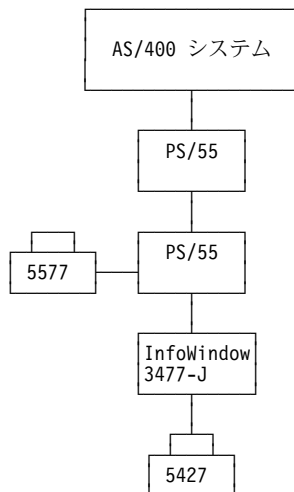


図 A-1. 日本語 DBCS ワークステーションのローカル構成例

この構成には、2 台の PS/55 ワークステーションと、InfoWindow Model 3477-J 表示装置が含まれています。PS/55 ワークステーションのいずれかに 5577 印刷装置が接続されています。5427 印刷装置に続いて InfoWindow 3477-J 表示装置が接続されています。

プロンプトに対して次のように入力して、制御装置記述および入出力装置記述を作成します。

- ローカル・ワークステーション制御装置
  - 制御装置記述 : DBCSWC2
  - 制御装置タイプ : 6040
  - 制御装置形式 : 1
  - 資源名 : CTL01
  - IPL 時オンライン : \*YES
  - 入出力装置待機タイマー : 10

- 自動構成制御装置 : \*YES
- テキスト記述 : ローカル・ワークステーション制御装置
- 最初の表示装置 (日本語 5250 PC を実行する PS/55)
  - 装置記述 : DBCSDSP1
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : 5555
  - 装置型式 : B01
  - ポート番号 : 0
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 1
  - 接続する制御装置 : DBCSWC2
  - キーボードの言語タイプ : JKB
  - DBCS 機能 : 2424J4 68FE
  - テキスト記述 : 第 1 ローカル表示装置
- 2 番目のカラー表示装置 (日本語 5250 PC を実行する PS/55)
  - 装置記述 : DBCSDSP2
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : 5555
  - 装置型式 : C01
  - ポート番号 : 0
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 2
  - 接続する制御装置 : DBCSWC2
  - キーボードの言語タイプ : JUB
  - DBCS 機能 : 2424J4 68FE
  - テキスト記述 : 第 2 ローカル表示装置
- 最初の印刷装置 (5577 印刷装置)
  - 装置記述 : DBCSPRT1
  - 装置クラス : \*LCL
  - 装置タイプ : 5553
  - 装置型式 : B01
  - ポート番号 : 0
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 3
  - 接続する制御装置 : DBCSWC2
  - 用紙送り : \*AUTOCUT
  - DBCS 機能 : 2424J1 68FE

- テキスト記述：第 1 ローカル印刷装置
- 3 番目の表示装置 (InfoWindow 3477-J)
  - 装置記述：DBCSDSP3
  - 装置クラス：\*LCL
  - 装置タイプ：5555
  - 装置型式：B01
  - ポート番号：0
  - スイッチ設定（装置アドレス）：4
  - 接続する制御装置：DBCWC2
  - キーボードの言語タイプ：JKB
  - DBCS 機能：2424J4 68FE
  - テキスト記述：第 3 ローカル表示装置
- 2 番目の印刷装置（5427 印刷装置）
  - 装置記述：DBCSPRT2
  - 装置クラス：\*LCL
  - 装置タイプ：5553
  - 装置型式：B01
  - ポート番号：0
  - スイッチ設定（装置アドレス）：5
  - 接続する制御装置：DBCWC2
  - DBCS 機能：2424J2 68FE
  - テキスト記述：第 2 ローカル印刷装置

## 他の DBCS ワークステーションのローカル構成の例

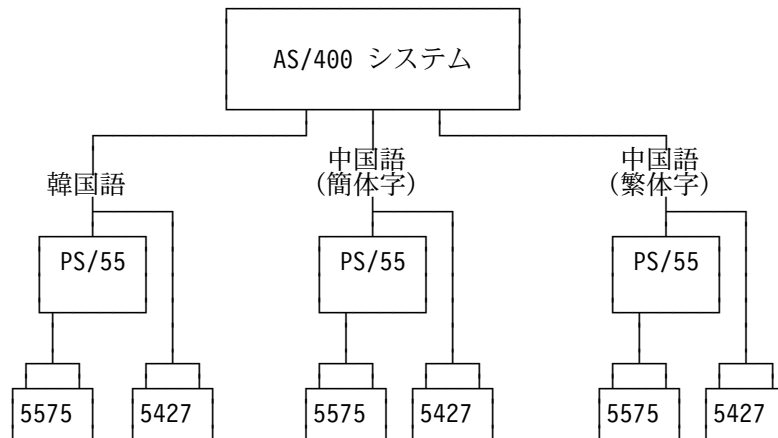


図 A-2. 他の DBCS ワークステーションのローカル構成の例



プロンプトに以下の情報を入力して、韓国語、中国語（簡体字）、および中国語（繁体字）DBCS ワークステーション用に制御装置と入出力装置記述を作成します。

- ローカル・ワークステーション制御装置
  - 制御装置記述: DBCSWC5
  - 制御装置タイプ: 6040
  - 制御装置形式: 1
  - 資源名: CTL05
  - IPL 時オンライン: \*YES
  - 入出力装置待機タイマー: 10
  - 自動構成制御装置: \*NO
  - テキスト記述: ローカル・ワークステーション制御装置
- 韓国語表示装置（韓国語 5250 PC を実行する PS/55）
  - 装置記述: KORDSP1
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 5555
  - 装置型式: B01
  - ポート番号: 0
  - スイッチ設定（装置アドレス）: 0
  - 接続する制御装置: DBCSWC5
  - キーボードの言語タイプ: KOB
  - DBCS 機能: 2424K0
  - テキスト記述: 韓国語表示装置
- 最初の韓国語印刷装置（5575 印刷装置）
  - 装置記述: KORPRT1
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 5553
  - 装置型式: B01
  - ポート番号: 0
  - スイッチ設定（装置アドレス）: 1
  - 接続する制御装置: DBCSWC5
  - DBCS 機能: 2424K0
  - テキスト記述: 第 1 韓国語印刷装置
- 2 番目の韓国語印刷装置（5427 印刷装置）
  - 装置記述: KORPRT2

- 装置クラス：\*LCL
  - 装置タイプ：5553
  - 装置型式：B01
  - ポート番号：0
  - スイッチ設定（装置アドレス）：2
  - 接続する制御装置：DBCWC5
  - DBCS 機能：2424K2 D3FE
  - テキスト記述：第 2 韓国語印刷装置
- 中国語（簡体字）表示装置（中国語（簡体字）5250 PC を実行する PS/55）
    - 装置記述：SCDSP1
    - 装置クラス：\*LCL
    - 装置タイプ：5555
    - 装置型式：B01
    - ポート番号：1
    - スイッチ設定（装置アドレス）：0
    - 接続する制御装置：DBCWC5
    - キーボードの言語タイプ：RCB
    - DBCS 機能：2424S0
    - テキスト記述：中国語（簡体字）表示装置
  - 最初の中国語（簡体字）印刷装置（5575 印刷装置）
    - 装置記述：SCPRT1
    - 装置クラス：\*LCL
    - 装置タイプ：5553
    - 装置型式：B01
    - ポート番号：1
    - スイッチ設定（装置アドレス）：1
    - 接続する制御装置：DBCWC5
    - DBCS 機能：2424S0
    - テキスト記述：第 1 中国語（簡体字）印刷装置
  - 2 番目の中国語（簡体字）印刷装置（5427 印刷装置）
    - 装置記述：SCPRT2
    - 装置クラス：\*LCL
    - 装置タイプ：5553
    - 装置型式：B01

- ポート番号: 1
- スイッチ設定 (装置アドレス) : 2
- 接続する制御装置: DBCSWC5
- DBCS 機能: 2424S2 6FFE
- テキスト記述: 第 2 中国語 (簡体字) 印刷装置
- 中国語 (繁体字) 表示装置 (中国語 (繁体字) 5250 PC を実行する PS/55)
  - 装置記述: TCDSP1
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 5555
  - 装置型式: B01
  - ポート番号: 2
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 0
  - 接続する制御装置: DBCSWC5
  - キーボードの言語タイプ: TAB
  - DBCS 機能: 2424C0
  - テキスト記述: 中国語 (繁体字) 表示装置
- 最初の中国語 (繁体字) 印刷装置 (5575 印刷装置)
  - 装置記述: TCPRT1
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 5553
  - 装置型式: B01
  - ポート番号: 2
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 1
  - 接続する制御装置: DBCSWC5
  - DBCS 機能: 2424C0
  - テキスト記述: 第 1 中国語 (繁体字) 印刷装置
- 2 番目の中国語 (繁体字) 印刷装置 (5427 印刷装置)
  - 装置記述: TCPRT2
  - 装置クラス: \*LCL
  - 装置タイプ: 5553
  - 装置型式: B01
  - ポート番号: 2
  - スイッチ設定 (装置アドレス) : 2
  - 接続する制御装置: DBCSWC5

- *DBCS* 機能 : 2424C2 91FE
- テキスト記述 : 第 2 中国語 (繁体字) 印刷装置

## 付録B. 用紙 X1. 資源名の記録

表 B-1. 用紙 X1. 資源名の記録

回線	回線名	配置/カード位置	資源名

ワークステーション制御装置	制御装置名	配置/カード位置	資源名

テープ制御装置	制御装置名	製造番号	資源名

テープ、ディスケット、および 光ディスク装置	装置名	製造番号	資源名

媒体ライブラリー装置（テープ   または光ディスク）	装置名	製造番号	資源名

| 注: 必要なだけコピーを取ってください。

| この付録には、この用紙が一部含まれています。必要な部数だけコピーしてご利用くださ  
| い。各用紙の左上には英字と数字が 1 文字ずつ付けられます。これによって、用紙を簡単に  
| 見分けることができます。左上隅を見ることによって、用紙の種類が分かります。

| これらの用紙は将来参照できるよう、安全な場所にまとめて保管しておいてください。

---

## 付録C. AS/400 システム・プロダクトのアップグレード

この付録では、AS/400 システム・プロダクトのアップグレードや変更の方法について説明します。特に、特定の AS/400 システム・モデルから別の AS/400 システムにアップグレードしている場合に役立ちます。

AS/400 システム・プロダクトをアップグレードまたは変更する場合は、何らかのハードウェアをアップグレードまたは変更した後に、新規のハードウェアまたは変更したハードウェアを認識させるためにシステム上の構成オブジェクトを構成し直さなければなりません。

この付録により、システム資源名の背後にある概念や、それを使用して AS/400 システムが新規のハードウェアや変更したハードウェア装置を認識できるようにする方法について理解することができます。

この付録には、AS/400 9402、9404、または 9406 システムをアップグレードするための指示が載せられています。

AS/400 システムをアップグレードすると、ハードウェア・サービス技術員が使用するツールは、システム資源名と資源タイプを自動的に再構成します。システムのアップグレード後に、構成し直した資源名と資源タイプが期待したとおりに作動しない場合は、C-10ページの『装置構成オブジェクトの更新』に記載されているコマンドを使用して、システム資源名および資源タイプを構成し直すことができます。

この付録には、以下の項が含まれています。

- システム資源名
- 装置構成オブジェクトの更新
- システム資源名および資源タイプを構成し直すコマンド
- 関連する AS/400 システム・コマンドの説明

---

### システム資源名

システム資源名は、システムに接続されるハードウェアがシステムによって割り当てられます。それらの名前は自動的に割り当てられ、システムに保管されている物理ハードウェア情報をシステムが参照するために使用されます。

システムは、以下のタイプのハードウェアに資源名を割り当てます。

- テープ装置
- ディスク装置
- テープ制御装置
- 光ディスク装置
- 媒体ライブラリー装置（光ディスクおよびテープのライブラリー）
- ネットワーク・サーバー
- 通信ポート
- ローカル ASCII ワークステーション制御装置

- ローカル平衡型ワークステーション制御装置
- ディスク装置、記憶 IOP、通信 IOP、主記憶カード、プロセッサ・カード（これらの装置には資源名が割り当てられますが、装置構成の影響は受けません。）

システムでハードウェアをアップグレードまたは変更する場合、システムがそれぞれのハードウェアにどの資源名を割り当てたのかを知っていなければなりません。

## 資源名が使用される理由

AS/400 システムは、使用できるハードウェアとソフトウェアのオプション、機能、および組合せの数の点で柔軟性に富んでいます。この柔軟性ゆえに、容易に理解できない複雑な状況が生じることがあります。たとえば、IBM 技術員が、通信プロダクトの追加処理中にワークステーション制御装置のアドレスを変更してしまうかもしれません。それに対応する制御装置記述をオンに構成変更するために、ワークステーション制御装置のアドレスが必要となります。仮にシステムがハードウェア・アドレスを使用してハードウェア装置を参照するだけだとするならば、ハードウェア技術員が新しい通信プロダクトを導入すると、ワークステーション制御装置の構成が正しくなくなってしまう。新しい通信プロダクトを導入した場合に、すでに接続されているワークステーションの構成が影響を受けるのは望ましくありません。どの入出力装置構成も影響されないようにするため、AS/400 システムは資源名を使用します。

## システム資源名が割り当てられる方法

OS/400 システムは新しいハードウェア資源を最初に認識すると、それに資源名を割り当てます。システムはハードウェア資源タイプ、型式番号、および製造番号を使用することによって、資源名を自動的に確立します。

資源名は、AS/400 システム入出力装置を構成するのに使用されます。また、資源名はハードウェアのエラーのログ、警告およびハードウェア問題分析においても使用されます。特定の資源名を設定したい場合、今では自由に資源名を変更できます。

資源名を必要とする装置構成オブジェクトは、以下のとおりです。

- ローカル・ワークステーション制御装置記述 (CTLDD)
- テープ制御装置記述 (CTLDD)
- ネットワーク・インターフェース記述またはネットワーク・サーバー記述に接続されていない回線記述 (LIND)
- ネットワーク・サーバー記述 (NWSDD)
- ネットワーク・インターフェース記述 (NWDI)
- ディスケット装置の装置記述 (DEVD)
- テープ制御装置のないテープ装置のための装置記述 (DEVD)
- 光ディスク装置記述 (DEVD)
- テープおよび光ディスク・ライブラリーのための装置記述 (DEVD)

C-3ページの表C-1 に資源名、装置構成オブジェクト、およびそれらを使用するコマンドを示します。以下の表で示されているコマンドについては、C-15ページの『関連する AS/400 システム・コマンドの説明』を参照してください。

**注:** C-3ページの表C-1 には、システムが提供するシステム資源名が示されています。資源名は、ハードウェア・サービス・マネージャーを使って変更することが可能です。



表 C-1. 資源名と装置構成記述

オブジェクト	資源名 <sup>1</sup>	関連するコマンド
CTLD	CTLnn	CRTCTLLWS CHGCTLLWS
CTLD	TAPCTLnn	CRTCTLTAP CHGCTLTAP
LIND	CMNnn	CRTLINxxx <sup>2</sup> CHGLINxxx
NWID	NWInnm	CRTNWIISDN CHGNWIISDN CRTNWIFR CHGNWIFR
NWSD	NWSnn	CRTNWSD CHGNSWD
DEVD	TAPnn	CRTDEVTAP CHGDEVTAP
DEVD	DKTnn	CRTDEVDKT CHGDEVDKT
DEVD	TAPMLBnn OPTMLBnn	CRTDEVMLB CHGDEVMLB
DEVD	OPTnn	CRTDEVOPT CHGDEVOPT

<sup>1</sup> 資源名はハードウェア資源タイプ (CTL など) に対応する 2 文字、3 文字、または 6 文字のコードと、値 *m* および *nm* とで表されます (*m* はポート番号、*nm* は 01 ~ 99 の数値)。

<sup>2</sup> XXX は、サポートされる任意の回線記述を示しています。

## 回復計画

システム障害が生じたときに回復が容易に行えるようにするため、すべてのハードウェアおよび構成オブジェクトの記録を常に更新しておくことをお勧めします。ハードウェアをアップグレードするには、ハードウェアおよび構成オブジェクトの報告書をアップグレードの前と後に毎回作成してください。この報告書はハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) コマンドを使用して作成しますが、使用する際に以下に示すパラメーターを指定します。

```
DSPHDWRSC TYPE(*LWS) OUTPUT(*PRINT)
DSPHDWRSC TYPE(*STG) OUTPUT(*PRINT)
DSPHDWRSC TYPE(*CMN) OUTPUT(*PRINT)
DSPHDWRSC TYPE(*PRC) OUTPUT(*PRINT)
/* *PRC を指定した報告書は、装置構成 */
/* オブジェクトが出力されません。 */
```

報告書のリストに示されたいずれかの構成が期待していた方法で指定されていないなら、装置構成を変更する手順が以下に示す表に記載されていますので参考にしてください。

- C-10ページの表C-2
- C-10ページの表C-3
- C-11ページの表C-4

- C-11ページの表C-5
- C-12ページの表C-6
- C-12ページの表C-7
- C-14ページの表C-8

## ハードウェアの変更のシナリオ

ここで、ニューヨーク市にある Best Dressed という衣料品会社において、9348 リール・テープ装置（資源名 TAP01）があり、装置記述の名前が FIRSTTAPE であるものとします。Best Dressed 社では、9348 リール・テープ装置を除去して、6368 カートリッジ・テープ装置を設置することを考えています。システムはその新しい 6368 カートリッジ・テープ装置に、TAP03 という異なった資源名を付けます。（コマンド WRKHDWRSC TYPE(\*STG) を使用すると、資源名を表示させることができます。）

### 何が起きるか

今までの装置記述 FIRSTTAPE に含まれているのは資源名 TAP01 であるため、6368 カートリッジ・テープ装置はオンに構成変更されません。

### Best Dressed 社がすべきこと

Best Dressed 社では、新しい資源名 TAP03 を使用するために、今までの装置記述 FIRSTTAPE を変更する必要があります。新しい資源名を表示するには、WRKHDWRSC コマンドを使用します。また、装置記述を変更して新しい資源名が反映されるようにするには、WRKCFGSTS コマンドを使用します（C-12ページの表C-6を参照）。

---

## ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) コマンドの使用

システムのアップグレード（システムに対するハードウェアの追加または変更）は複雑なものであるため、ユーザーやハードウェア・サービス技術員が利用できるツールが用意されています。

ハードウェアを変更すると、既存の装置構成が乱れてしまう可能性があります。ハードウェア・サービス技術員はアップグレードを開始する前に、ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) コマンドを使用して記述ラベルの表示または割当てを行います。記述ラベルは、システムがハードウェアを識別するために使用します。物理的なアップグレードが完了した後に、ハードウェア・サービス技術員またはユーザーはハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) コマンドを再度使用して、ケーブルまたは装置に接続されている（物理）ラベルに表示される情報に合致するようにシステム内の構成記述ラベルを更新することができます。

ハードウェア・サービス技術員は、アップグレード処理に役立つ「ラベル・ロケーション」ワーク・シートを用意しています。

ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) メニューは、以下の処理を行うために使用されます。

- ハードウェアのアップグレードを行う前に、ハードウェアの記述ロケーションとラベルを表示する。この情報は印刷することもできます。

印刷を実行するには、「記述ラベル・ロケーションの表示」画面で F17 キーを押してください。F17 キーを押すと、印刷装置が使用できない場合には、システム印刷スプールにラベル・ロケーションのコピーが置かれます。これにより、ラベル・ロケーションを

別の時間に、または別の場所の印刷装置で印刷することができます。情報を画面から用紙にコピーすることで処理を継続できます。

- ハードウェアのアップグレード後に、記述ロケーションおよびハードウェアのラベルを変更する。この情報は印刷することもできます。

印刷を実行するには、「記述ラベル・ロケーションの変更」画面で F17 キーを押します。

注: このメニューで処理を行う場合は、特殊権限 \*SERVICE が必要です。

## ユーザーがすべきこと

1. AS/400 メイン・メニューのコマンド行で以下のように入力し、実行キーを押します。

wrkhdwprd

2. 「ハードウェア・プロダクト処理」画面が表示されます。

記述ラベル・ロケーションの変更オプションを選択し、実行キーを押します。

3. 「記述ラベル・ロケーションの変更」画面が表示されます。

注: システムに接続されているケーブルや装置の数によっては、さらに多くの画面が表示されることもあります。

### ラベル・ロケーションの変更の使用

システム : SYSNAMx

次の画面は、表示されているラベルと一致しないラベルが付いている各装置またはケーブルの位置を更新するために使用されます。システムがアップグレード後に適切に機能するためには、装置またはケーブルの位置情報を、見つかった実際のラベルで更新する必要があります。

次の通り実行してください。

- o 次の 1 つを検査してください。
  - リストされた物理ラベルの各ロケーション。
  - 「ラベル・ロケーション」ワーク・シート。
- o 表示されたラベル欄項目が実際のラベルと一致しないか、あるいは項目が \*INCORRECT であるロケーションだけを選択してください。
  - 実際のラベルが見つからない場合には、ラベル \*NONE が使用されます。
- o 見つかった実際のラベルを見つけて選択するため、次の画面を検索してください。
- o すべての変更が処理された後で、更新された画面を検査してください。

続行するためには、実行キーを押してください。

F3=終了 F12=取消し

記述ラベル・ロケーションの変更

システム : S10A5404

システム・タイプ-機種/製造番号 . . . : 9406-510 / 10-2059M

実際の機械のラベルまたはラベル・ロケーション・ワーク・シートが、下にリストされているラベルと一致しないロケーションを選択して、実行キーを押してください。

2= 変更

----- ロケーション -----						
OPT	フレーム ID	EIA ロケーション	装置 位置	カード 位置	ポート	ラベル
	1			2		*NONE
	1			2	1	TRNLINE
	1			4A		CTL01
	1			4B	1	QESLINE, QTILINE
	1			7		*NONE
	1			7	1	*NONE
	1			7	1	*NONE
	1			7	1	*NONE
	1		1			TAP01
	1		2			OPT01
	1		3			XR2

終り

F3= 終了 F11= 型式/製造番号の表示 F12= 取消し F17= 印刷

記述ラベル・ロケーションの変更

システム : SYSNAMx

システムの機種 - 型式 / 製造番号 . . . . . : 9402-400 / 10-145FA

実際の機械のラベルが、下にリストされているラベルと一致しないロケーションを選択して、実行キーを押してください。

2= 変更

----- ロケーション -----						
Opt	フレーム ID	EIA ロケーション	装置 位置	カード 位置	ポート	ラベル
-			8	0		JLLISDN1, ZJAHIS
-			6			TAPING2, TAP01
-	SA	..	..	...	..	DKT01

F3= 終了 F11= 機種/製造番号の表示 F12= 取消し F17= 印刷

型式および製造番号を表示したい場合は、F11 を押してください。

記述ラベルロケーションの変更

システム : S1038507

システム・タイプ-機種/製造番号 . . . : 9406-510 / 10-2059M

実際の機械のラベルまたはラベルロケーションワーク・シートが、下にリストされているラベルと一致しないロケーションを選択して、実行キーを押してください。

2= 変更

----- ロケーション -----					
OPT	フレーム ID	EIA ロケーション	装置 位置	カード 位置	ポート ラベル
	1		2		*NONE
	1		2	1	TRNLINE
	1		4A		CTL01
	1		4B	1	QESLINE, QTILINE
	1		7		*NONE
	1		7	1	*NONE
	1		7	1	*NONE
	1	1			TAP01
	1	2			OPT01
	1	3			XR2

終り

F3= 終了 F11= 型式/製造番号の表示 F12= 取消し F17= 印刷

記述ラベル・ロケーションの変更

システム : S1038507

システム・タイプ-機種/製造番号 . . . : 9406-D60 / 10-A5404

実際の機械のラベルが下にリストされているラベルと一致しないロケーションを選択して、実行キーを押してください。

2= 変更

OPT	機種- 型式	製造番号	ラベル
	6140	10-1796514	CTL01
-	6140	10-1800368	CTL02
-	6140	10-2816087	CTL03
-	9331-001	53-33356	DKT01
-	9331-002	53-57598	DKT02
-	6366-001	00-0000000	TAP01
-	9348-001	00-0000000	TAP02
-	7208-012	00-31929	TAP03
-	6152	10-1799213	QESLINE, QTILINE
-	6152	10-1754176	*NONE

続く ...

F3= 終了 F11= ロケーション情報の表示 F12= 取消し F17= 印刷

### 記述ラベル・ロケーションの変更

システム : SYSNAMx

システムの機種 - 型式 / 製造番号 . . . . . : 9402-400 / 10-145FA

実際の機械のラベルが、下にリストされているラベルと一致しない  
ロケーションを選択して、実行キーを押してください。  
2= 変更

Opt	機種 - 型式	製造 番号	
-	2665	10-3182005	JLLISDN1, ZJAHIS
-	6380-001	00-2031292	TAPING2, TAP01
-	9331-012	53-00000	DKT01

F3= 終了    F11= ロケーション情報の表示    F12= 取消し    F17= 印刷

ワーク・シートを印刷するには F17 キーを押してください。印刷装置が使用できない場合には、この画面の情報を紙に記録して先に進んでください。

注: 「記述ラベル・ロケーションの表示」画面の印刷出力は使用しないでください。

4. 「記述ラベル・ロケーションの変更」画面とワーク・シートを使用して、ワーク・シートの情報と「ラベル」欄に表示されている名前とを比較します。

- 次の場合には、ラベル情報が一致します。
  - a. ケーブルまたは装置に接続されているラベル上の名前が、画面の「ラベル」欄に表示される情報と同じである。
- 次の場合には、ラベル情報は一致しません。
  - a. 「ラベル」欄に情報は表示されているが、ケーブルに接続されているラベルはない。(この手順の以下に示すステップは、ラベルの作成方法を示したものです。)
  - b. ケーブルに接続されているラベルが「ラベル」欄の情報と一致しない。(この手順の以下に示すステップは、システム・ラベルの変更方法を示したものです。)
  - c. 「ラベル」欄に \*NONE が表示されるが、ケーブルに接続されているラベルが存在する。(この手順の以下に示すステップは、システム・ラベルの変更方法を示したものです。)
  - d. 「ラベル」欄に \*INCORRECT と表示される。

これは、ケーブルに接続されているラベルが「ラベル」欄の情報と一致していないことを示します。(この手順の以下に示すステップは、システム・ラベルの変更方法を示したものです。)

5. すべてのラベル情報が一致していますか？

**注:** 資源名は通常、アップグレード処理中に変更されます。他の画面の資源名を使用してラベルを一致させることはしないでください。

いいえ はい

↓ システム・ラベル情報は（物理）ラベルと同じです。

「記述ラベルの変更」画面で F17 キーを押し、レコードの新しい情報の印刷出力を要求してください。

これで手順は終わります。

6. システムの記述ラベル情報を変更する必要がありますか？

はい いいえ

↓ システム・ラベル情報は、ワーク・シートの（物理）ラベルと同じです。この手順のステップ 12 に進んでください。

7. 「記述ラベル・ロケーションの変更」画面で、ラベルを変更する必要があるロケーションのオプション欄に 2 と入力します。

実行キーを押してください。

**注:** 一度に複数選択することもできますが、画面下部に「続く ...」が表示されている場合は実行キーを押さないでください。その他のラベルを選択するには、次のページに進みます。

8. 「記述ラベル・ロケーションの変更」画面が表示されます。

選択した最初の項目に、使用可能なラベル名のリストが表示されます。

ワーク・シートのラベルに一致する（画面上の）ラベル名を選択するには、以下のよう  
に実行します。

a. 変更したい位置のオプション欄に 1 と入力する。

b. 実行キーを押してください。

**注:** ワーク・シートのラベルに一致する（画面上の）ラベルが見つからない場合は、ハードウェア・サービス技術員にご連絡ください。

9. 変更する項目が 2 つ以上ある場合には、次のラベルの「記述ラベルの変更」画面が表示されます。

画面下部のメッセージは、前回の変更が正常に行われたかどうかを示しています。

10. 変更が必要なすべてのラベルに対して、ステップ 6 から 9 を繰り返します。

11. 最後のラベルを変更すると、情報が更新された状態の「記述ラベル・ロケーションの変更」画面が表示されます。

画面下部のメッセージは、最後の変更が正常に行なわれたかどうかを示しています。

画面下部に「続く ...」が表示されている場合には、下方にスクロールして残りの情報を表示してください。

12. 「記述ラベルの変更」画面で F17 キーを押し、レコードの新しい情報の印刷出力を要求してください。

13. 印刷出力されたラベルが、「ラベル・ロケーション」ワーク・シートの「ラベル」欄にあるラベルと一致するか確認してください。

14. 誤りがあった場合は、ステップ 6 に戻ってそこからステップ 13 までの指示に従ってください。

注意: 問題分析をする目的でカードを交換しないでください。カードおよび装置の製造番号は、顧客構成レコードに連結されています。

これで手順は終わります。

## 装置構成オブジェクトの更新

システムを手動で再構成するには、この手順に従ってください。

注: 以下に示す手順において原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) を使用するには、アプリケーション開発ツール (ADT) ライセンス・プログラムが導入されていることが必要です。

以下の表で使われているコマンドについては、C-15ページの『関連する AS/400 システム・コマンドの説明』の説明を参照してください。

さらに、どのハードウェアでも、それをアップグレードする前と後の両方で、ぜひともハードウェアおよび構成オブジェクトのリストを示す報告書を作成し、システム障害の事象において回復を容易に行うことができるようにしてください。この報告書を作成するコマンドについては、C-3ページの『回復計画』に記載されています。

表 C-2. ネットワーク・サーバー記述の資源名の変更

ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択して、ネットワーク・サーバー記述の状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、ネットワーク・サーバー記述をオフに構成変更します。接続しているネットワーク・インターフェース、回線、制御装置および装置のすべてをオフに構成変更する必要があります。
3	オプション 8 (記述の処理) を選択し、ネットワーク・サーバー記述を処理します。
4	「ネットワーク・サーバー記述処理」画面でオプション 2 (変更) を選択し、ネットワーク・サーバー記述を変更します。
5	「ネットワーク・サーバー記述の変更」画面で、ネットワーク・サーバー記述について正しい資源名を指定します (RSRCNAME パラメーター)。
6	実行キーを押してネットワーク・サーバー記述を変更します。
7	実行キーをもう一度押して、「構成状況処理」画面に戻ります。
8	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、ネットワーク・サーバー記述をオンに構成変更します。これにより、接続しているネットワーク・インターフェース、回線、制御装置および装置のすべてがオンに構成変更されます。

表 C-3 (1/2). ネットワーク・インターフェース記述の資源名の変更

ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、ネットワーク・インターフェース記述の状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、ネットワーク・インターフェース記述をオフに構成変更します。接続している回線、制御装置、および装置のすべてをオフに構成変更する必要があります。



表 C-3 (2/2). ネットワーク・インターフェース記述の資源名の変更	
ステップ	処置
3	オプション 8 (記述の処理) を選択し、ネットワーク・インターフェース記述を処理します。
4	「ネットワーク・インターフェース記述処理」画面でオプション 2 (変更) を選択し、ネットワーク・インターフェース記述を変更します。
5	「ネットワーク・インターフェース記述の変更」画面で、ネットワーク・インターフェース記述の正しい資源名を指定します (RSRCNAME パラメーター)。
6	実行キーを押してネットワーク・インターフェース記述を変更します。
7	実行キーをもう一度押して、「構成状況処理」画面に戻ります。
8	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、ネットワーク・インターフェース記述をオンに構成変更します。接続している回線、制御装置、および装置のすべてがオンに構成変更されます。

表 C-4. 回線資源名の変更	
ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、回線記述状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、回線記述をオフに構成変更します。接続している制御装置および装置のすべてをオフに構成変更する必要があります。
3	オプション 8 (記述の処理) を選択し、回線記述を処理します。
4	「回線記述処理」画面においてオプション 2 (変更) を選択し、回線記述を変更します。
5	CHGLINxxxx コマンド・プロンプト画面において、回線記述の正しい資源名を指定します (RSRCNAME パラメーター)。
6	実行キーを押して回線記述を変更します。
7	実行キーをもう一度押して、「構成状況処理」画面に戻ります。
8	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、回線記述をオンに構成変更します。接続している制御装置および装置のすべてがオンに構成変更されます。

表 C-5 (1/2). 制御装置資源名の変更	
ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、制御装置記述の状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、制御装置記述をオフに構成変更します。接続している装置すべてをオフに構成変更する必要があります。
3	オプション 8 (記述の処理) を選択し、制御装置記述を処理します。
4	「制御装置記述処理」画面でオプション 2 (変更) を選択し、制御装置記述を変更します。
5	「制御装置変更」画面で制御装置記述の正しい資源名を指定します (RSRCNAME パラメーター)。
6	実行キーを押して制御装置記述を変更します。

ステップ	処置
7	実行キーをもう一度押して、「構成状況処理」画面に戻ります。
8	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、装置記述をオンに構成変更します。これにより、接続しているすべての入出力装置もオンに構成変更されます。

ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、装置記述の状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、装置記述をオフに構成変更します。
3	オプション 8 (記述の処理) を選択し、装置記述を処理します。
4	「装置記述処理」画面でオプション 2 (変更) を選択し、装置記述を変更します。
5	「装置変更」画面で、装置記述の正しい資源名を指定します (RSRCNAME パラメーター)。
6	実行キーを押して装置記述を変更します。
7	実行キーをもう一度押して、「構成状況処理」画面に戻ります。
8	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、装置記述をオンに構成変更します。

ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、制御装置記述の状況を処理します。
2	オプション 8 (記述の処理) を選択し、制御装置記述を処理します。
3	オプション 9 (ソースの検索) を選択し、制御装置記述の制御言語 (CL) ソースを検索します。
4	「構成ソース検索」画面でソース・ファイルの名前とライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。
5	CL ソースの入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します (SRCMBR パラメーター)。
6	検索オプション (RTVOPT パラメーター) に *OBJ を指定します。
7	実行キーを押して制御装置記述のソースを検索します。

表 C-7 (2/3). ローカル・ワークステーション制御装置タイプの変更

ステップ	処置
8	<p>オプション 5 (表示) を選択し、ワークステーション制御装置記述に接続されている平衡型データ・リンク制御 (TDLC) 回線記述があるかどうかを調べます。そのような回線記述がある場合は、以下に示すことを実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. WRKCFGSTS コマンドを選択し、TDLC 回線記述の状況を処理します。</li> <li>2. 「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、TDLC 回線記述をオフに構成変更します。接続している制御装置および制御の記述をすべてオフに構成変更する必要があります。</li> <li>3. オプション 8 (記述の処理) を選択し、回線記述を処理します。</li> <li>4. オプション 9 (ソースの検索) を選択し、回線記述の CL ソースを検索します。</li> <li>5. 「構成ソース検索」画面でソース・ファイルの名前とライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。</li> <li>6. CL ソースの入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します (SRCMBR パラメーター)。</li> <li>7. 検索オプション (RTVOPT パラメーター) に *OBJ を指定します。</li> <li>8. F10 (追加パラメーター) を押します。</li> <li>9. メンバー・オプション (MBROPT パラメーター) に *ADD を指定します。</li> <li>10. 実行キーを押して制御装置記述のソースを検索します。</li> <li>11. DSPOBJAUT コマンドを選択し、TDLC 回線記述の所有権および権限を表示させます。</li> </ol>
9	<p>「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、制御装置記述をオフに構成変更します。接続している装置すべてをオフに構成変更する必要があります。</p>
10	<p>DSPOBJAUT コマンドを選択し、WS 制御装置記述の所有権および権限を表示させます。</p>
11	<p>WS 制御装置記述を削除します。</p>
12	<p>TDLC 回線記述を削除します。</p>
13	<p>原始ステートメント入力ユーティリティ開始 (STRSEU) コマンドを選択し、制御装置および TDLC 回線記述の CL ソースが含まれるソース・ファイル・メンバーを編集します。</p>
14	<p>「SEU 開始」画面でソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。</p>
15	<p>メンバー名を指定します (SRCMBR パラメーター)。</p>
16	<p>ソース・タイプとして CLP を指定します (TYPE パラメーター)。</p>
17	<p>OPTION パラメーターにオプション 2 (編集) を指定します。</p>
18	<p>実行キーを押して、ソース・ファイル・メンバーを編集します。</p>
19	<p>ソースの最初に PGM ステートメントを入力します。</p>
20	<p>ソースの最後に ENDPGM ステートメントを入力します。</p>
21	<p>制御装置記述の CL ソースの TYPE パラメーターを正しい値に変更します。</p>
22	<p>資源名を制御装置記述の正しい値に変更します (RSRCNAME パラメーター)。</p>
23	<p>F3 を押して「編集」画面を終了します。</p>
24	<p>実行キーを押してソース・ファイル・メンバーを変更します。</p>
25	<p>CRTCLPGM コマンドを選択し、ソース・ファイル・メンバーから CL プログラムを作成します。</p>

表 C-7 (3/3). ローカル・ワークステーション制御装置タイプの変更

ステップ	処置
26	「制御言語プログラム作成」画面で、ソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。
27	メンバー名を指定します (SRCMBR パラメーター)。
28	実行キーを押して CL プログラムを作成します。
29	CL プログラムを呼び出して記述を作成し直します。コマンド行に CALL xxxxxxxx と入力します。xxxxxxx は、作成したばかりの CL プログラムの名前です。
30	CHGOBJOWN コマンドを選択し、TDLC 回線記述のオブジェクト所有権を更新します。
31	オブジェクト権編集 (EDTOBJAUT) コマンドを選択し、TDLC 回線記述のオブジェクト権限を更新します。
32	「オブジェクト所有権変更」画面を使用し、制御装置記述のオブジェクト所有権を更新します。
33	「オブジェクト権編集」画面を使用し、制御記述のオブジェクト権を更新します。
34	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、装置記述をオンに構成変更します。
35	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、TDLC 回線記述をオンに構成変更します。

表 C-8 (1/2). ディスケット装置タイプの変更

ステップ	処置
1	WRKCFGSTS コマンドを選択し、装置記述の状況を処理します。
2	「構成状況処理」画面でオプション 2 (オフへの構成変更) を選択し、装置記述をオフに構成変更します。
3	DSPOBJAUT コマンドを使用し、オブジェクト所有権およびオブジェクト権を表示させます。
4	オプション 8 (記述の処理) を選択し、装置記述を処理します。
5	オプション 9 (資源の検索) を選択し、装置記述の CL ソースを検索します。
6	「構成ソース検索」画面でソース・ファイルの名前とライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。
7	CL ソースの入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します (SRCMBR パラメーター)。
8	検索オプション (RTVOPT パラメーター) に *OBJ を指定します。
9	実行キーを押して装置記述のソースを検索します。
10	DLTDEVD コマンドを使用して装置記述を削除します。
11	STRSEU コマンドを使用し、装置記述の CL ソースの含まれているソース・ファイル・メンバーを編集します。
12	「SEU 開始」画面でソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します (SRCFILE パラメーター)。
13	メンバー名を指定します (SRCMBR パラメーター)。
14	ソース・タイプとして CLP を指定します (TYPE パラメーター)。
15	OPTION パラメーターにオプション 2 (編集) を指定します。
16	実行キーを押して、ソース・ファイル・メンバーを編集します。

表 C-8 (2/2). ディスケット装置タイプの変更

ステップ	処置
17	装置記述の CL ソースの TYPE および MODEL パラメーターを正しい値に変更します。
18	資源名を装置記述の正しい値に変更します (RSRCNAME パラメーター)。
19	F3 を押して「編集」画面を終了します。
20	実行キーを押してソース・ファイル・メンバーを変更します。
21	CRTCLPGM コマンドを使用し、ソース・ファイル・メンバーから CL プログラムを作成します。
22	「制御言語プログラム作成」画面で、ソース・ファイルの名前およびメンバーを指定します (SRCFILE パラメーター)。
23	メンバー名を指定します (SRCMBR パラメーター)。
24	実行キーを押して CL プログラムを作成します。
25	CL プログラムを呼び出して記述を作成し直します。コマンド行に CALL xxxxxxxx と入力します。xxxxxxx は、作成したばかりの CL プログラムの名前です。
26	CHGOBJOWN コマンドを使用し、オブジェクト所有権を更新します。
27	EDTOBJAUT コマンドを使用し、オブジェクト権を更新します。
28	「構成状況処理」画面でオプション 1 (オンへの構成変更) を選択し、装置記述をオンに構成変更します。

## 関連する AS/400 システム・コマンドの説明

新しい AS/400 システム・ハードウェアまたは変更した AS/400 システム・ハードウェアを構成するには、以下に示す 5 つのタイプのコマンドを使用します。

- 制御装置記述コマンド
- 装置記述コマンド
- 回線記述コマンド
- ネットワーク・インターフェース記述コマンド
- ネットワーク・サーバー記述コマンド
- その他の関連コマンド

以下の部分では、AS/400 システム構成をアップグレードまたは変更するのに使用されるコマンドについて説明します。

### 制御装置記述コマンド

**CHGCTLLWS** ローカル・ワークステーション制御装置記述変更

**CHGCTLTAP** テープ制御装置記述変更

**CRTCTLLWS** ローカル・ワークステーション制御装置記述作成

**CRTCTLTAP** テープ制御装置記述作成

**DSPCTLD** 制御装置記述表示

**WRKCTLD** 制御装置記述処理

## 装置記述コマンド

**CHGDEVDKT** ディスケット装置記述変更

**CHGDEVOPT** 光ディスク装置記述変更

**CHGDEVTAP** テープ装置記述変更

**CHGDEVMLB** 媒体ライブラリー装置記述変更

**CRTDEVDKT** ディスケット装置記述作成

**CRTDEVOPT** 光ディスク装置記述作成

**CRTDEVMLB** 媒体ライブラリー装置記述作成

**CRTDEVTAP** テープ装置記述作成

**WRKDEV** 装置記述処理

## 回線記述コマンド

**CHGLINASC** 非同期回線記述変更

**CHGLINBSC** BSC 回線記述の変更

**CHGLINDDI** 分散データ・インターフェース (DDI) 回線記述変更

**CHGLINETH** イーサネット回線記述の変更

**CHGLINFAX** ファクシミリ (FAX) 回線記述の変更

**CHGLINFR** フレーム・リレー (FR) 回線記述変更

**CHGLINSDLC** SDLC 回線記述変更

**CHGLINWLS** 無線回線記述変更

**CHGLINTRN** トークンリング回線記述変更

**CHGLINX25** X.25 回線記述変更

**CRTLINASC** 非同期回線記述作成

**CRTLINBSC** BSC 回線記述作成

**CRTLINDDI** 分散データ・インターフェース (DDI) 回線記述作成

**CRTLINETH** イーサネット回線記述作成

**CRTLINFR** フレーム・リレー (FR) 回線記述作成

**CRTLINFAX** ファクシミリ (FAX) 回線記述の作成

**CRTLINSDLC** SDLC 回線記述作成

**CRTLINTRN** トークンリング回線記述作成

**CRTLINWLS** 無線回線記述作成

**CRTLINX25** X.25 回線記述作成

**DSPLIND** 回線記述表示

**WRKLIND** 回線記述処理

## ネットワーク・インターフェース記述コマンド

**CHGNWIISDN** ISDN ネットワーク・インターフェース記述変更

**CRTNWIISDN** ISDN ネットワーク・インターフェース記述作成

**CHGNWIFR** FR ネットワーク・インターフェース記述変更

**CRTNWIFR** FR ネットワーク・インターフェース記述作成

**WRKNWID** ネットワーク・インターフェース記述処理

## ネットワーク・サーバー記述コマンド

**CHGNWSD** NWSN ネットワーク・サーバー記述変更

**CRTNWSD** NWSN ネットワーク・サーバー記述作成

**WRKNWSD** ネットワーク・サーバー記述処理

## その他の関連コマンド

**RTVCFGSRG** 構成ソース検索

**VRYCFG** 構成変更

**WRKCFGSTS** 構成状況処理

**WRKMLBSTS** 媒体ライブラリー状況処理





## 参考文献

このリストに示されている資料には、本書で説明または参照した事項に関する詳細な説明が載せられています。

## AS/400 システム

AS/400 システムに関する一般的な情報については、以下の資料を参照してください。

- *ASCII Work Station Reference*, SA41-3130. AS/400 システムをセットアップして、そのシステムへ ASCII 装置を接続する方法を説明しています。
- *Central Site Distribution*, SC41-5308. 複数システムの導入について説明しています。
- *Data Management*, SC41-5710. ディスケット、ディスク、およびテープに関するスプーリング・サポートについて説明しています。
- AS/400 システムの研修コースならびに研修用資料については、IBM 営業担当にお問い合わせください。
- *Form Design Reference Guide for Printers* (GA24-3488). 印刷装置に特殊な用紙を使用する場合について説明しています。
- *Printer Device Programming*, SC41-5713. 印刷に関するスプーリング・サポートについて説明しています。
- *InfoWindow 3477 表示装置 使用者の手引き* (N:GA18-2923). 3477 表示装置のセットアップおよび使用方法について説明しています。
- *CL 解説書*, SD88-5022. 構成コマンドについて詳細に説明しています。
- *実行管理の手引き*, SD88-5009. サブシステムについて詳細に説明しています。
- *National Language Support*, SC41-5101. 言語識別コードとキーボード・タイプの詳細について説明しています。
- *Publications Reference*, SC41-5003. AS/400 ライブラリーの他の資料について説明しています。
- *Optical Support*, SC41-5310. AS/400 のオプティカル・サポートに固有な機能について説明しています。

## 通信の構成

通信および遠隔装置の構成に関する詳細については、以下の資料を参照してください。

- *設備とその計画*, SA88-5049. すべてのモデルに対するケーブルの接続について説明しています。
- *CBX II 8000 Installation Manual*(GU30-0413). 5250 リンク・プロトコル変換機構について説明しています。

- *APPC プログラミング*, SD88-5032. モード記述とサービスクラス記述について説明しています。
- *ISDN Support*, SC41-5403. ISDN ネットワークでの作業について説明しています。
- *LAN およびフレームリレー・サポート*, SD88-5012. トークンリングまたはイーサネット・ネットワークの構成について説明しています。8209 LAN ブリッジに関する説明も記載されています。
- *Communications Management*, SC41-5406. 実行管理機能、通信状況、エラー処理、合計回線速度、サブシステム記憶装置など、AS/400 通信の使用について説明しています。
- *通信構成*, SD88-5011. 遠隔構成記述の作成および通信用のオブジェクトの構成について説明しています。
- *X.25 Network Support*, SC41-5405. X.25 ネットワーク・サポートの構成について説明しています。
- *Remote Work Station Support*, SC41-5402. 遠隔ワークステーションについて説明しています。
- *IBM 5208 Model 1 ASCII-5250 Link Protocol Converter User's Guide* (SA21-9870). 5208 リンク・プロトコル変換機構に接続する ASCII-5250 入出力装置に関して説明しています。
- *IBM 5209 Model 1 3270-5250 Link Protocol Converter User's Guide* (SA21-9869). 5209 リンク・プロトコル変換機構に接続する3270-5250 入出力装置に関して説明しています。
- *IBM 5250 Information Display System Planning and Site Preparation Guide* (GA21-9337). 遠隔ワークステーションについて説明しています。
- *IBM 5299 Terminal Multiconnector Model 3 Planning, Setup, and Maintenance Guide* (GA27-3749). 電話用対より線ケーブル配線および5229-3 型端末マルチコネクタについて説明しています。
- *Workstation Customization Programming*, SC41-3605. ワークステーションのカスタマイズについて説明しています。
- *System API Programming*, SC41-5800. ユーザー定義の通信サポートおよびその他の通信用のシステム・プログラミング・インターフェースのためのオブジェクトの構成について説明しています。
- *TCP/IP 構成および解説書*, SD88-5013. AS/400 TCP/IP サポートの構成と使用について説明しています。含まれているアプリケーションは、Network Status (NETSTAT)、Packet Internet Groper (PING)、TELNET、ファイル転送プロトコル (FTP)、簡易メール転送プロトコル (SMTP)、ライン・プリンター・リクエスト (LPR)、およびライ

ン・プリンター・デーモン (LPD) です。TCP および UDP Pascal アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) についても説明しています。

- 配線システムと通信製品接続の手引き (N:GA27-3620)。IBM 配線システムについて説明しています。
- IBM 5394 遠隔制御装置 使用者の手引き (N:GA27-3852)。5394-1、2 遠隔ワークステーション制御装置について説明しています。
- 5259 移行用データ転送装置 使用者の手引き (N:SA21-9551)。5259 移行データ・リンクについて説明しています。

---

## システム操作

システム操作に関しては、以下の資料を参照してください。

- バックアップおよび回復の手引き, SD88-5008。初級、中級および経験あるユーザー向けに AS/400 のバックアップおよび回復について詳細に説明しています。
- 基本機密保護, SD88-5026 と 機密保護解説書, SD88-5027。サイトの機密保護について詳細な情報を提供します。

- ソフトウェア導入, SD88-5002。ご使用のオペレーティング・システムや他のライセンス・プログラムの導入について説明しています。
- システム操作 入門, SC88-5263。AS/400 システムへの接続時に表示装置を使用する方法について説明しています。
- システム操作、管理および問題処理の手引き, SD88-5007。オペレーティング・システムが使用可能になる前の時点で AS/400 システムを操作する方法を説明しています。

---

## パーソナル・コンピューター

パーソナル・コンピューターの説明については、以下に示す資料を参照してください。

- PC5250 使用者の手引き (PC5250 に添付されています)。表示装置の DBCS サポートに関して説明しています。
- *Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup*, SC41-3500、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory Setup (DBCS)*, SC41-3502、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory User Guide*, SC41-3501、または *Client Access/400 for OS/2 User Guide*, SC41-3521。ワークステーション機能を利用したパーソナル・コンピューターの構成について説明しています。

# 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## 〔ア行〕

アップグレード  
AS/400 システム・プロダクト  
    変更 C-1  
    構成 C-1  
移設  
    ローカル印刷装置 8-29  
    ローカル表示装置 8-29  
印刷  
    システム構成リスト 2-6  
印刷装置  
    リスト 3-19  
印刷の解放性 3-24  
    定義 3-24  
エレクトロニック支援  
    定義 6-1  
エレクトロニック支援通信構成  
    構成記述の表 6-1  
    制御装置記述 6-3  
    装置記述 6-4  
    変更  
        回線記述 6-2  
エレクトロニック支援データ  
    使用 6-3, 6-4, 6-5  
    所在を突き止める 6-1

## 〔カ行〕

拡張  
    DBCS (2 バイト文字セット) A-1  
拡張印刷 (Advanced Function Printing\*)  
    定義 3-21  
カスタマイズ  
    新しい記述の追加 8-20  
    既存の構成 8-1  
    構成記述名 8-1  
    入出力装置の移設 8-28  
    ワークステーション 8-1  
完了、構成の 7-1  
キーボード・タイプの表 3-11  
    ローカル表示装置 3-11  
記述、構成 8-1  
    参照：構成、記述  
記述名  
    変更 8-1

規則、命名  
    「主要システム・オプションの設定」画面 1-6  
    \*DEVADR 1-5  
    \*NORMAL 1-5  
    \*S36 1-5  
機密保護  
    考慮事項 7-3  
グラフィック・セットの表 3-14  
    ローカル表示装置 3-14  
言語の表示、キーボードの 3-11  
    ローカル表示装置 3-11  
検索  
    構成ソース 7-1  
コード・ページの表 3-14  
    ローカル表示装置 3-14  
構成 1-1, 8-1  
    エレクトロニック支援 6-1  
    拡張 2 バイト文字セット A-1  
    記入 7-1  
    構成ソースの検索 7-1  
    自動  
        使用 1-1  
    準備 2-1  
    調整 8-1  
        入出力装置の移設 8-28  
        新しい記述の追加 8-20  
    テープ制御装置 4-1  
    テープ装置 4-1, 4-4  
    テープ・ライブラリー 4-1  
    ディスク装置 4-1, 4-8  
    媒体ライブラリー装置  
        テープ 4-10  
    光ディスク装置 5-1  
    光ディスク・ライブラリー 5-1  
    復元 7-2  
    変更 8-1  
    保管 7-1  
    ライブラリー  
        光ディスク 5-4  
例  
    ローカル構成 9-1  
    9406 システム装置の構成 9-1  
    DBCS (2 バイト文字セット) A-8  
ローカル  
    平衡型入出力装置 3-1  
ローカル印刷装置 3-16  
ローカル構成 3-1  
ローカル表示装置 3-5

構成 (続き)  
ローカル・ワークステーション制御装置 3-1  
AS/400 システム・プロダクトのアップグレード C-1  
参照：構成における考慮事項  
参照：自動構成

構成、媒体ライブラリー装置の  
例  
テープ 4-11

構成、媒体ライブラリーの  
例  
光ディスク 5-4

構成記述  
新規追加 8-20  
名前の変更  
構成記述名の変更 8-1  
変更 8-1

構成作業  
構成記述  
変更 8-1  
名前の変更 8-1  
追加 8-20  
構成ソースの検索 7-1

構成ソース  
検索 7-1

構成ソース検索 (RTVCFGSRC) コマンド 7-1

高性能印刷装置データ・ストリーム (intelligent printer data  
stream (IPDS))  
定義 3-22

構成の計画  
ワークステーション接続図 2-1

構成の例  
ローカル構成 9-1  
9406 システム装置の構成 9-1

構成復元 (RSTCFG) コマンド 7-2

構成変更  
オンおよびオフ  
入出力装置のアンロード 4-7  
入出力装置の割当て 4-7

構成保管 (SAVCFG) コマンド 7-1

コマンド  
システム資源名の再構成 C-4  
ハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) 7-2  
AS/400 システム・プロダクトのアップグレード C-4,  
C-10  
DSPHDWRSC (ハードウェア資源表示) 7-2

コマンド、CL 7-1  
構成ソース検索 (RTVCFGSRC) 7-1  
構成復元 (RSTCFG) 7-2  
構成保管 (SAVCFG) 7-1  
ジョブ処理 (WRKJOB) 2-6  
RSTCFG (構成復元) 7-2  
RTVCFGSRC (構成ソース検索) 7-1  
SAVCFG (構成保管) 7-1

コマンド、CL (続き)  
WRKJOB (ジョブ処理) 2-6  
参照：CL 解説書

## 〔サ行〕

サブシステム 7-4  
サポート連絡情報 6-5  
サポート連絡情報の入力 6-5  
入力 6-5

資源名  
記録用紙 2-2, B-1  
9404 システム装置の例 2-4, 2-6  
変更 C-10  
割当て C-1  
9404 システム装置の場合の記録 2-5  
9404 システム装置の場合の取得 2-3, 2-5

資源名の記録  
記録用紙 2-2, B-1  
9404 システム装置の例 2-4, 2-6  
必要な場合 C-10  
9404 システム装置 2-5

システム値  
処理 1-4  
説明 7-5  
表示 1-4  
QAUTOCFG (自動構成) 1-3  
QDEVNAMING (入出力装置の命名規則) 1-3  
QPRTDEV (省略時の印刷装置記述) 1-3

システム構成  
コピーの印刷 7-2  
定義 2-6

システム構成の印刷  
システム構成 2-6

システム構成のコピーの印刷 7-2

システム構成リスト  
印刷 2-6

システム資源名  
記録用紙 2-2  
9404 システム装置の場合の記録 2-5  
9404 システム装置の場合の取得 2-3, 2-5

「システム情報」用紙 2-1  
印刷装置 3-16  
計画用紙 2-1, 2-2  
構成 2-1  
自動構成の省略時の値 1-7  
接続図 2-1, 4-2  
追加 8-24  
プロンプト 8-24  
メニューの流れ 8-24  
テープ制御装置およびテープ装置接続図 2-1, 4-2, 4-5  
テープ制御装置記述の変更  
プロンプト 8-11

「システム情報」用紙 (続き)  
 テープ装置およびディスク装置接続図 2-1, 2-2, 4-5, 4-9  
 ディスク装置接続図 2-1, 4-9  
 プロンプト  
 テープ制御装置記述の作成 4-2  
 メニューの流れ  
 テープ装置の構成 4-1  
 ローカル・ワークステーション接続図 3-7, 3-18  
 9402 テープ装置およびディスク装置接続図 2-1, 2-2, 4-5, 4-9  
 9404 および 9406 テープ制御装置およびテープ装置接続図 2-1  
 9404 および 9406 ディスク装置接続図 2-1  
 9404 および 9406 の接続図 2-1  
 9404 テープ装置の例 4-5  
 9404 ディスク装置の例 4-9  
 9404 の接続図 2-1  
 9406 テープ制御装置およびテープ装置接続図 4-2, 4-5  
 9406 テープ制御装置の例 4-2  
 9406 テープ装置の例 4-5  
 9406 ディスク装置接続図 4-9  
 9406 ディスク装置の例 4-9  
 自動構成 1-1  
 考慮事項 1-11  
 「主要システム・オプションの設定」画面 1-1  
 使用 1-1  
 使用するキーボード・タイプ 1-10  
 省略時値 1-5  
 テープ制御機構 1-1  
 パーソナル・コンピューター 1-2  
 命名規則 1-2, 1-3  
 ローカル制御装置 1-1  
 ローカル入出力装置 1-1  
 DBCS 装置 A-4  
 QAUTOCFG (自動構成) システム値 1-3  
 自動構成 (QAUTOCFG) システム値 1-3  
 自動構成の省略時の値 1-5  
 出荷パッケージ 6-1  
 「主要システム・オプションの設定」画面 1-1  
 準備  
 構成 2-1  
 ジョブ  
 処理 2-6  
 ジョブ処理 (WRKJOB) コマンド 2-6  
 処理  
 システム値 1-4  
 ジョブ 2-6  
 スプーリング 7-4  
 制御装置  
 自動構成の省略時の値 1-7  
 テープの場合の追加 8-24

制御装置 (続き)  
 ローカルの場合の追加 8-20  
 ローカル・ワークステーション 3-1  
 制御装置記述 A-8  
 「装置記述処理」画面 8-4  
 装置タイプと装置型式の表  
 ローカル印刷装置 1-9, 3-19  
 ローカル表示装置 1-9, 3-8  
 装置タイプのプロンプト (DBCS 入出力装置) A-1

## 〔タ行〕

調整  
 構成  
 既存の構成の変更 8-1  
 追加  
 新しい構成記述  
 媒体ライブラリー装置 8-27  
 ローカル表示装置 8-21  
 ローカル・ワークステーション制御装置 8-20  
 ローカル印刷装置 8-22  
 光ディスク装置 8-27  
 テープ制御装置 8-24  
 テープ装置 8-25  
 ディスク装置 8-26  
 ローカル制御装置およびローカル入出力装置  
 動的 1-4  
 データ・ストリーム (data stream)  
 定義 3-22  
 テープ制御装置  
 構成 4-1  
 テープ装置  
 新しいテープ装置の追加  
 プロンプト 8-25  
 メニューの流れ 8-25  
 オン構成変更時の入出力装置のアンロード 4-7  
 オン構成変更時の入出力装置割当て 4-7  
 記述の変更 8-12  
 構成 4-4  
 実行 4-4  
 自動構成の省略時の値  
 テープ装置 1-8  
 追加 8-25  
 テープ装置記述の変更  
 メニューの流れ 8-12  
 9402 の接続図 2-1, 2-2  
 9404 および 9406 の接続図 2-1  
 9404 の接続図 2-1, 4-5  
 9406 の接続図 4-5  
 テープ装置構成  
 実行 4-1

- テープ・ライブラリー
  - 構成 4-1
- ディスク装置
  - 構成 4-1
  - 構成の実行 4-8
  - 自動構成の省略時の値 1-8
  - ディスク装置記述の変更 8-14
  - ディスク装置の追加 8-26
  - プロンプト 4-9, 8-15
  - メニューの流れ 4-8, 8-26
  - 9402 の接続図 2-1, 2-2
  - 9404 の接続図 4-9
  - 9406 の接続図 4-9
- ディスク装置接続図
  - 計画用紙 2-1
- 導入
  - 複数システム 7-2

## 〔ナ行〕

- 名前
  - 記録用紙 2-2
  - 資源 2-2, C-1
  - システム資源 2-2, C-1
  - 変更 8-1
  - 9404 システム装置の場合の記録 2-5
  - 9404 システム装置の場合の取得 2-3
- 名前の変更
  - 構成記述 8-1
- 入出力装置
  - 移設 8-28
- 入出力装置の命名規則 (QDEVNAMING) システム値 1-3

## 〔ハ行〕

- ハードウェア資源表示 (DSPHDWRSC) コマンド 7-2
- ハードウェア・プロダクト処理 (WRKHDWPRD) コマンド
  - メニュー C-4
  - 使用 C-5
- ハードウェア・プロダクト処理メニューの使用 C-5
- 媒体ライブラリー装置
  - 自動構成の省略時の値 1-7
  - テープ
    - 構成の実行 4-10
- 光ディスク装置
  - オン構成変更時の入出力装置割当て 5-3
  - 自動構成の省略時の値 1-8
- 光ディスク装置の構成 5-1
  - 実行 5-1
  - 参照：光ディスク・サポート
- 光ディスク・ライブラリーの構成
  - 実行 5-1

- 表示
  - システム値 1-4
- 表示装置
  - 構成 3-5
  - リスト 3-8
- フォント識別コード (フォント ID)
  - 定義 3-22
- 復元
  - 構成 7-2
- 複数システム
  - 導入 7-2
- プロンプト
  - キーボード記述の変更 8-7
  - テープ制御装置 4-2, 8-11, 8-24
  - テープ装置 4-5, 8-13, 8-25
  - ディスク装置 4-9, 8-15, 8-26
  - 媒体ライブラリー装置 4-11, 5-5, 8-19
    - 追加 8-28
  - 光ディスク装置 5-2, 8-17
    - 追加 8-27
  - 表示装置記述の作成 3-3
  - 表示装置記述の変更 8-5
  - ローカル印刷装置 3-18, 8-9, 8-23
  - ローカル表示装置 3-7, 8-5, 8-22
  - ローカル・ワークステーション制御装置 3-3, 8-3, 8-21
    - DBCS (2 バイト文字セット)
      - 装置タイプ A-1
- 変更
  - エレクトロニック支援通信
    - 制御装置記述 6-3
    - 回線記述 6-2
    - 装置記述 6-4
  - 構成 C-1
  - 構成記述 8-1
  - 構成記述名
    - 媒体ライブラリー装置記述 8-18
    - ローカル表示装置記述 8-4
    - ローカル・ワークステーション制御装置記述 8-2
    - ローカル印刷装置記述 8-7
    - 光ディスク装置記述 8-16
    - キーボード記述 8-6
    - テープ制御装置記述 8-10
    - テープ装置記述 8-12
    - ディスク装置記述 8-14
  - 説明 8-1
  - テープ制御装置記述
    - メニューの流れ 8-10
  - テープ装置記述
    - メニューの流れ 8-10
  - ディスク装置記述
    - プロンプト 8-15
    - メニューの流れ 8-14

## 変更 (続き)

### 媒体ライブラリー装置記述

プロンプト 8-19

メニューの流れ 8-18

### 光ディスク装置記述

プロンプト 8-17

メニューの流れ 8-16

### ワークステーション制御装置記述

メニューの流れ 8-2

## 保管

構成 7-1

## ホスト印刷変換

定義 3-24

## 〔マ行〕

### 命名規則

「主要システム・オプションの設定」画面 1-6

\*DEVADR 1-5

\*NORMAL 1-5

\*S36 1-5

### メニューの流れ

キーボード 8-6

テーブ制御装置 4-1, 8-10, 8-24

テーブ装置 4-4, 8-12, 8-25

ディスク装置 4-8, 8-26

ディスク装置記述の変更 8-14

### 媒体ライブラリー装置

光ディスク 5-4

テーブ 4-10

追加 8-27

媒体ライブラリー装置記述の変更 8-18

光ディスク装置 5-1

追加 8-27

光ディスク装置記述の変更 8-16

ローカル印刷装置 3-17, 8-8, 8-22

ローカル表示装置 3-6, 8-4, 8-21

ローカル・ワークステーション制御装置 3-1, 8-2, 8-20

DBCS 印刷装置 A-6

DBCS 表示装置 A-6

### 文字識別コードの表

ローカル表示装置 3-14

## モデム

定義 6-1

## 〔ヤ行〕

### 用紙

#### 計画

コピーするための未記入の用紙 B-1

資源名の記録 B-1

#### 資源名の記録

説明 2-2

9404 システム装置の例 2-4, 2-6

## 〔ラ行〕

### ライブラリー

光ディスク

構成の実行 5-4

メニューの流れ

光ディスク 5-4

テーブ 4-10

### ラベル・ロケーションのワーク・シート

使用 C-5

例 C-5

## 例

構成、媒体ライブラリー装置の

テーブ 4-11

構成、媒体ライブラリーの

光ディスク 5-4

ローカル構成 9-1

### DBCS (2 バイト文字セット)

韓国語ワークステーション A-10

中国語 (簡体字) ワークステーション A-10

中国語 (繁体字) ワークステーション A-10

日本語ワークステーション A-8

9406 システム装置の構成 9-1

### ローカル印刷装置

移設 8-29

#### 印刷装置記述

プロンプト 8-9

メニューの流れ 8-8

印刷装置記述の変更 8-7

構成 3-16

自動構成の省略時の値 1-8

接続図 3-18

装置タイプと装置型式の表 1-9, 3-19

プロンプト 3-18

メニューの流れ 3-17

ローカル印刷装置 8-22

プロンプト 8-23

メニューの流れ 8-22

ワークステーション接続図 3-18

### ローカル構成

実行 3-1

表示装置 3-5

ローカル・ワークステーション制御装置 3-1

### ローカル表示装置

移設 8-29

キーボードの言語タイプ

プロンプト 8-7

メニューの流れ 8-4

キーボード・タイプの表 3-11

グラフィック文字セットの表 3-14

コード・ページの表 3-14

構成 3-5

ローカル表示装置 (続き)  
自動構成の省略時の値  
表示装置 1-9  
接続図 3-7  
装置タイプと装置型式の表 1-9, 3-8  
表示装置記述の変更 8-4  
プロンプト 3-7  
メニューの流れ 3-6  
文字識別コードの表 3-14  
ローカル表示装置 8-21  
プロンプト 8-22  
メニューの流れ 8-21  
ワークステーション接続図 3-7  
ローカル・ワークステーション制御装置 3-1  
記述 8-2  
構成 3-1  
自動構成の省略時の値 1-7  
制御装置インデックス 3-2  
接続図 3-2  
追加 8-20  
メニューの流れ 8-20  
プロンプト 8-21  
ワークステーション制御装置記述 8-3  
メニューの流れ 8-2  
ローカル・ワークステーション接続図  
印刷装置の例 3-18  
表示装置の例 3-7

## 〔ワ行〕

ワークステーション  
カスタマイズ 8-1  
ワークステーション・カスタマイズ 8-1  
定義 8-1  
参照：ワークステーション・カスタマイズのプログラミング

## D

DBCS (2 バイト文字セット)  
拡張 A-1  
機能プロンプト (IGCFEAT) A-2  
構成の例 A-8  
自動構成 A-4  
説明 A-1  
装置タイプのプロンプト A-1  
メニューの流れ A-6  
ローカル表示装置と印刷装置 A-1  
DBCS 機能の変更 A-6  
DSPHDWRSC (ハードウェア資源表示) コマンド 7-2

## I

IGCFEAT (2 バイト文字セット機能) プロンプト  
2 バイト文字セット機能プロンプト (IGCFEAT)  
IGCFEAT プロンプト A-2

## Q

QAUTOCFG (自動構成) システム値 1-3  
QDEVNAMING (入出力装置の命名規則) システム値 1-3  
QPRTEDEV (省略時の印刷装置記述) システム値 1-3, 1-10

## R

RSTCFG (構成復元) コマンド 7-2  
RTVCFGSRV (構成ソース検索) コマンド 7-1

## S

SAVCFG (構成保管) コマンド 7-1

## W

WRKHDWPRD (ハードウェア・プロダクト処理) コマンド  
メニュー C-4  
WRKJOB (ジョブ処理) コマンド 2-6

## 数字

2 バイト文字セット (double-byte character set (DBCS))  
拡張 A-1  
機能プロンプト (IGCFEAT) A-2  
構成の例 A-8  
自動構成 A-4  
説明 A-1  
装置タイプのプロンプト A-1  
メニューの流れ A-6  
ローカル表示装置と印刷装置 A-1  
DBCS 機能の変更 A-6

## 特殊文字

「～処理」画面  
「制御装置記述処理」画面 8-3, 8-10  
「装置記述処理」画面 8-4







Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106  
TEL (03) 3586-1111



SD88-5003-00